

アニコム

家庭どうぶつ白書 2014

White Paper on Household Animals 2014



ペットはいません。家族ならいますが。



「家庭どうぶつ」を英訳するにあたって

"How many people are in your family?"

"I have 5 people and a dog in my household."

「ペット (pet)」という言葉には、支配者としての飼い主と被支配者としての動物という基本構造を伺わせるニュアンスがある。一方で、動物行動学者のマイケル・W・フォックス氏が『イヌの心がわかる本』(1979)で提唱したことがきっかけとなり、「コンパニオンアニマル (companion animal、伴侶動物)」として接しようという考え方も生まれた。この言葉には「家族」という意味合いが含まれている。日本では「ペットの家族化」を象徴するように「家庭動物」という言葉が登場し、動物の愛護および管理に関する法律でも使われるようになってきている。この名称はきわめて日本的であり英訳が困難であるのだが、本書では「家庭どうぶつ」を household animal と訳すことにした。

アニコム「家庭どうぶつ白書2014」の 発行にあたって

Introduction

～ どうぶつと、もっと家族になる社会を目指して～

アニコムグループでは2010年より、「どうぶつ健保」の保険金支払い実績、独自に実施したアンケート調査の結果など、家庭どうぶつに関わるさまざまなデータを「家庭どうぶつ白書」として1冊にまとめ、年次発行させていただいております。これらは、家庭どうぶつと彼らを取り巻く環境を対象とした日本国内独自の疫学データとして、予防啓発、学術研究などさまざまなシーンでご活用いただけるようになりました。

今年度も、直近1年間の集積データを中心にまとめたアニコム「家庭どうぶつ白書2014 (<http://www.anicom-page.com/hakusho/>よりダウンロード可能)」を発行させていただきます。

今回は、家庭に子犬・子猫をお迎えした直後のご家族の不安や注意すべきケガ・病気（P12/P56～57）、疾患別にみた各品種の罹患率の年齢推移（P24～41）、デンタルケアについての意識や現状（P8～9）、全年齢を通じて罹患率の高い皮膚疾患に関するデータ（P52～53）など、どうぶつの一生においてその時々で注意をしていただきたい内容を収載いたしました。またTopicとして「催吐薬『トラネキサム酸』投与の確立に向けて」を、Columnとして「犬の循環器疾患-弁膜症を中心とした疫学的考察」を掲載し、家庭どうぶつの医療に関わるデータの分析に力を入れております。

本書を、日頃からアニコム「どうぶつ健保」の運営に多大なるご協力をいただいている動物病院さま、ペットショップさま、代理店さま、パートナー企業さま、メディアさまに恩返しのお届けしたいと思っております。そして、契約者さまをはじめ、より多くの方々とこれらのデータを共有していくことで、どうぶつとの暮らしに少しでも役に立ち、さらに世界の家庭どうぶつを取り巻く環境がより良いものとなる、その一助となればと強く願っております。

We, at Anicom, issued the “White Paper on Household Animals 2014” in order to introduce to the public the new achievements concerning household animals and veterinary medicine.

Anicom is the leading animal health insurer in Japan and we provided various data base here which we could gather from our insurance claims experience and through our various surveys.

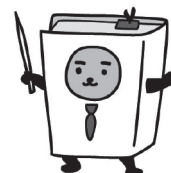
We hope that this White Paper will be utilized widely and could be of help to you and to the public to deepen the understanding about household animals in Japan. Your kind collaborations and comments would be most appreciated.

Sincerely,

アニコム「家庭どうぶつ白書」制作チーム一同

Anicom Holdings, Inc.

Team of “White Paper on Household Animals 2014” project



目次

	アニコム「家庭どうぶつ白書2014」の発行にあたって	1
第1部	家庭どうぶつと家族	3
第1章	日本の家庭どうぶつ	
1.	日本の犬・猫の頭数推移	4
2.	人気の品種と名前	5
3.	デンタルケア	8
4.	家庭どうぶつのための防災対策	10
5.	家庭どうぶつにける年間支出調査	11
6.	どうぶつを迎えた後の家族の不安	12
第2部	どうぶつ医療を取り巻く環境	13
第1章	医療提供体制	
1.	保険制度の普及	14
2.	動物病院の現状	15
3.	地域別の診療費用	16
4.	動物病院における人体用医薬品の使用頻度	17
【トピック】	誤飲事故の催吐処置／催吐薬『トラネキサム酸』投与の確立に向けて	18
第3部	どうぶつの疾患統計	21
第1章	疾患(大分類単位)別の統計	
1.	犬	22
2.	猫	23
第2章	疾患別品種別の統計(犬)	
1.	循環器疾患	24
2.	呼吸器疾患	25
3.	消化器疾患	26
4.	肝・胆・膵疾患	27
5.	泌尿器疾患	28
6.	生殖器疾患	29
7.	神経系疾患	30
8.	眼および付属器の疾患	31
9.	耳の疾患	32
10.	歯および口腔の疾患	33
11.	筋骨格系の疾患	34
12.	皮膚疾患	35
13.	血液・免疫疾患	36
14.	内分泌疾患	37
15.	感染症	38
16.	寄生虫症	39
17.	損傷、中毒およびその他の外因の影響	40
18.	腫瘍疾患	41
品種別の統計(犬)	19. ジャック・ラッセル・テリア、ビーグル、ミニチュア・ピンシャー	42
	20. シェットランド・シープドッグ、ボーダー・コリー、混血犬	43
	21. アメリカン・コッカー・スパニエル、ボストン・テリア、 イタリアン・グレーハウンド	44
	22. ペキニーズ、バーニーズ・マウンテン・ドッグ、 ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア	45
【コラム】	犬の循環器疾患／弁膜症を中心とした疫学的考察	46
第3章	疾患(小分類単位)別の統計	
1.	猫の腎不全	50
2.	スコティッシュ・フォールドの関節炎	51
3.	犬と猫の皮膚疾患	52
4.	犬の骨折	54
5.	どうぶつを迎えた後に注意したいケガ・病気	56
6.	夜間救急診療	58
参考資料	①アニコム「どうぶつ健保」の契約頭数(どうぶつ種別、年齢別)	59
	②アニコム「どうぶつ健保」の契約頭数(犬、品種別、年齢別)	60
	③疾患(大分類単位)別罹患率(どうぶつ種別)	62
	④疾患(大分類単位)別罹患率(犬、品種別)	64
	傷病名一覧表	66
	あとがきに代えて	72



第1部

家庭どうぶつと家族

第1部 家庭どうぶつと家族

1. Household Animals and the Family

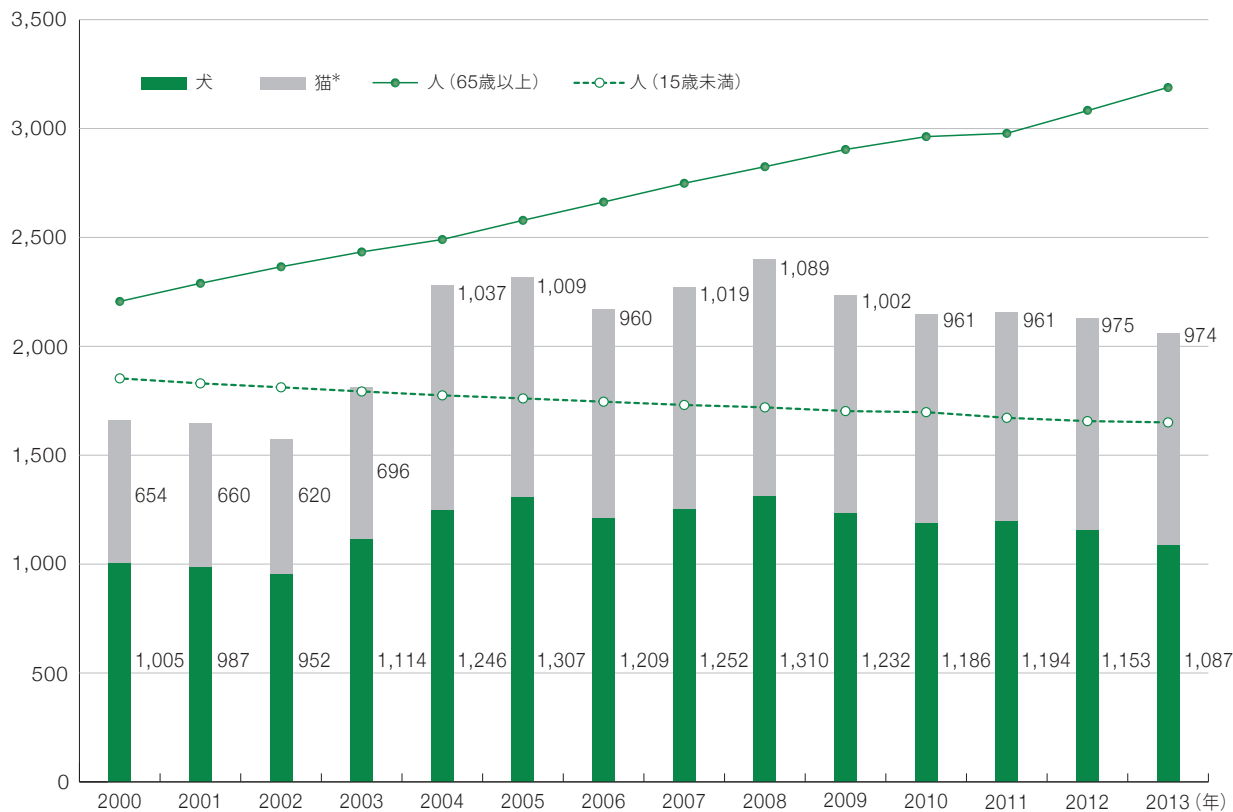


第1章 日本の家庭どうぶつ

1. 日本の犬・猫の頭数推移

1-1-1 日本の犬・猫・人（65歳以上、15歳未満）の数

(万頭、万人)



(犬・猫：万頭、人：万人)

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
犬	1,005	987	952	1,114	1,246	1,307	1,209	1,252	1,310	1,232	1,186	1,194	1,153	1,087
猫*	654	660	620	696	1,037	1,009	960	1,019	1,089	1,002	961	961	975	974
人 (65歳以上)	2,204	2,287	2,363	2,431	2,488	2,576	2,660	2,746	2,822	2,901	2,960	2,975	3,079	3,186
人 (15歳未満)	1,851	1,828	1,810	1,791	1,773	1,759	1,744	1,729	1,718	1,701	1,696	1,670	1,655	1,649

1-1-1

一般社団法人ペットフード協会、犬猫飼育率全国調査、総務省統計局統計より抜粋、改変。
*外猫を含まない。



第1章 日本の家庭どうぶつ

2. 人気の品種と名前

1-1-2 犬の品種ランキング（全年齢）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	トイ・プードル Toy Poodles	69,539	17.9
2	チワワ Chihuahuas	60,955	15.7
3	ミニチュア・ダックスフンド Miniature Dachshunds	59,222	15.2
4	柴 Shiba	20,258	5.2
5	混血犬（体重10kg未満） mixed breeds	20,043	5.2
6	ヨークシャー・テリア Yorkshire Terriers	13,170	3.4
7	ポメラニアン Pomeranians	12,650	3.3
8	ミニチュア・シュナウザー Miniature Schnauzers	10,254	2.6
9	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク Pembroke Welsh Corgis	10,220	2.6
10	パピヨン Papillons	10,072	2.6
11	シー・ズー Shih Tzus	9,708	2.5
12	フレンチ・ブルドッグ French Bulldogs	8,498	2.2
13	ラブラドル・レトリバー Labrador Retrievers	7,154	1.8
14	ゴールデン・レトリバー Golden Retrievers	6,478	1.7
15	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル Cavalier King Charles Spaniels	6,468	1.7
16	マルチーズ Malteses	6,391	1.6
17	パグ Pugs	4,897	1.3

1-1-2

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した犬388,520頭（性別不明含む、全年齢）において各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

1-1-3 犬の品種ランキング（0歳のみ）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	トイ・プードル Toy Poodles	15,068	25.3
2	チワワ Chihuahuas	10,555	17.8
3	ミニチュア・ダックスフンド Miniature Dachshunds	4,908	8.3
4	混血犬（体重10kg未満） mixed breeds	4,895	8.2
5	柴 Shiba	4,083	6.9
6	ポメラニアン Pomeranians	2,529	4.3
7	ヨークシャー・テリア Yorkshire Terriers	1,920	3.2
8	ミニチュア・シュナウザー Miniature Schnauzers	1,241	2.1
9	フレンチ・ブルドッグ French Bulldogs	1,170	2.0
10	シー・ズー Shih Tzus	1,169	2.0
11	マルチーズ Malteses	1,005	1.7
12	カニンヘン・ダックスフンド Kaninchen Dachshunds	959	1.6
13	ゴールデン・レトリバー Golden Retrievers	942	1.6
14	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク Pembroke Welsh Corgis	877	1.5
15	パピヨン Papillons	856	1.4
16	ジャック・ラッセル・テリア Jack Russell Terriers	651	1.1
17	パグ Pugs	587	1.0

1-1-3

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の犬59,456頭（性別不明含む）において各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

2. 人気の品種と名前

1-1-4 犬の名前ランキング

【2014年 総合ランキング】			【2014年 男の子部門】			【2014年 女の子部門】		
順位	名前	頭数	順位	名前	頭数	順位	名前	頭数
1 (1)	ココ	1,435	1 (1)	レオ	729	1 (1)	ココ	1,006
2 (2)	チョコ	1,220	2 (2)	ソラ	685	2 (3)	ハナ	976
3 (3)	マロン	1,104	3 (4)	チョコ	646	3 (2)	モモ	973
4 (4)	モモ	1,015	4 (3)	コタロウ	643	4 (4)	モコ	650
5 (5)	モコ	1,004	5 (5)	マロン	608	5 (6)	サクラ	617
6 (8)	ハナ	989	6 (7)	レオン	460	6 (5)	チョコ	573
7 (7)	ソラ	893	7 (6)	ココ	429	7 (8)	マロン	496
8 (6)	モカ	823	8 (11)	リク	369	8 (7)	モカ	495
9 (10)	レオ	735	9 (9)	モコ	354	9 (11)	リン	470
10 (9)	ココア	673	10 (8)	モカ	328	10 (9)	ココア	415



総合ランキングは、「ココ」が1位を獲得し、4連覇を達成。「ココ」は、女の子の名前でも2連覇を達成し、男の子でも7位にランクインするなど、高い人気が続いている。

【漢字の名前 男の子】			【漢字の名前 女の子】		
順位	名前	頭数	順位	名前	頭数
1 (1)	空	327	1 (3)	花	200
2 (2)	小太郎	292	2 (2)	姫	146
3 (3)	福	160	3 (6)	杏	139
4 (5)	虎太郎	106	4 (1)	小梅	114
5 (4)	海	95	5 (4)	空	97
6 (8)	小鉄	89	6 (5)	小春	86
7 (6)	茶々丸	80	7 (8)	凜	85
8 (11)	風太	75	8 (9)	華	82
9 (7)	小次郎	74	9 (11)	蘭	51
9 (10)	太郎	74	10 (10)	茶々	49

漢字で表記される人気の名前では、男の子は3年連続で「空」が、女の子は昨年3位から上昇した「花」が、1位を獲得。

男の子の「風太」、女の子の「蘭」はそれぞれ昨年の11位から上昇し、TOP10入りを果たした。

犬種別											
トイ・プードル				ポメラニアン				柴犬			
順位	男の子	順位	女の子	順位	男の子	順位	女の子	順位	男の子	順位	女の子
1	マロン	1	モコ	1	ボンタ	1	モコ	1	コタロウ	1	ハナ
2	モコ	2	ココ	2	コタロウ	2	ココ	2	コテツ	2	モモ
3	チョコ	3	モモ	3	モコ	3	モモ	3	ソラ	3	サクラ
4	ココ	4	モカ	4	チョコ	4	ハナ	4	ヤマト	4	リン
5	レオ	5	ハナ	5	レオ	5	アズキ	5	タロウ	5	アズキ

パグ				フレンチ・ブルドッグ				混血犬 (10Kg未満)			
順位	男の子	順位	女の子	順位	男の子	順位	女の子	順位	男の子	順位	女の子
1	コテツ	1	ハナ	1	コテツ	1	ハナ	1	ソラ	1	ココ
2	コタロウ	2	モモ	2	コタロウ	2	モモ	2	コタロウ	2	モコ
3	ケン	3	サクラ	3	ブル	3	ヒメ		マロン	3	ハナ
4	フク	4	アズキ	4	フク	4	サクラ	4	レオ	4	モモ
	レオ	5	コウメ		ブンタ	5	ココ	5	チョコ	5	マロン

1-1-4

2013年10月1日～2014年9月30日までの間に、アニコム損保の「どうぶつ健保」に新規契約した0歳の犬87,335頭の名前調査を実施し集計した。()は前年順位。



第1章 日本の家庭どうぶつ

1-1-5 猫の名前ランキング

【2014年 総合ランキング】		
順位	名前	頭数
1 (1)	ソラ	144
2 (2)	レオ	134
3 (3)	ココ	121
4 (4)	モモ	111
5 (5)	リン	100
6 (6)	マロン	84
7 (9)	ハナ	80
8 (16)	キナコ	79
9 (18)	ハル	74
10 (8)	メイ	70

【2014年 男の子部門】		
順位	名前	頭数
1 (1)	レオ	132
2 (2)	ソラ	109
3 (3)	コタロウ	56
4 (5)	マロン	51
5 (4)	レオン	50
6 (7)	ココ	46
7 (12)	ハル	44
8 (6)	コテツ	43
8 (10)	レン	43
10 (9)	マル	42

【2014年 女の子部門】		
順位	名前	頭数
1 (1)	モモ	105
2 (3)	リン	78
3 (4)	ハナ	77
4 (2)	ココ	75
5 (6)	サクラ	60
5 (5)	ナナ	60
5 (7)	メイ	60
8 (10)	キナコ	51
9 (8)	ヒメ	46
10 (11)	ルナ	45



1-1-5
2013年2月1日～2014年1月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の猫18,022頭の名前調査を実施し集計した。()は前年順位。

1-1-6 猫の品種ランキング（全年齢）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	混血猫 mixed breeds	12,732	26.4
2	スコティッシュ・フォールド Scottish Fold	7,100	14.7
3	アメリカン・ショートヘア American Shorthair	5,994	12.4
4	日本猫 Japanese cats	3,905	8.1
5	ロシアンブルー Russian Blue	2,780	5.8
6	ペルシャ（チンチラ） Persian	1,939	4.0
7	マンチカン Munchkin	1,752	3.6
8	ノルウェージャン・フォレスト・キャット Norwegian Forest Cats	1,749	3.6
9	メイン・クーン Maine Coon	1,718	3.6
10	アビシニアン Abyssinian	1,542	3.2

1-1-7 猫の品種ランキング（0歳のみ）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	スコティッシュ・フォールド Scottish Fold	1,953	20.0
2	アメリカン・ショートヘア American Shorthair	1,439	14.7
3	混血猫 mixed breeds	1,156	11.8
4	マンチカン Munchkin	787	8.1
5	ノルウェージャン・フォレスト・キャット Norwegian Forest Cats	536	5.5
6	ロシアンブルー Russian Blue	516	5.3
7	ラグドール Ragdoll	460	4.7
8	メイン・クーン Maine Coon	380	3.9
9	ペルシャ（チンチラ） Persian	332	3.4
10	日本猫 Japanese cats	312	3.2

1-1-6
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した猫48,208頭（性別不明含む、全年齢）において各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

1-1-7
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の猫9,764頭（性別不明含む）において各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

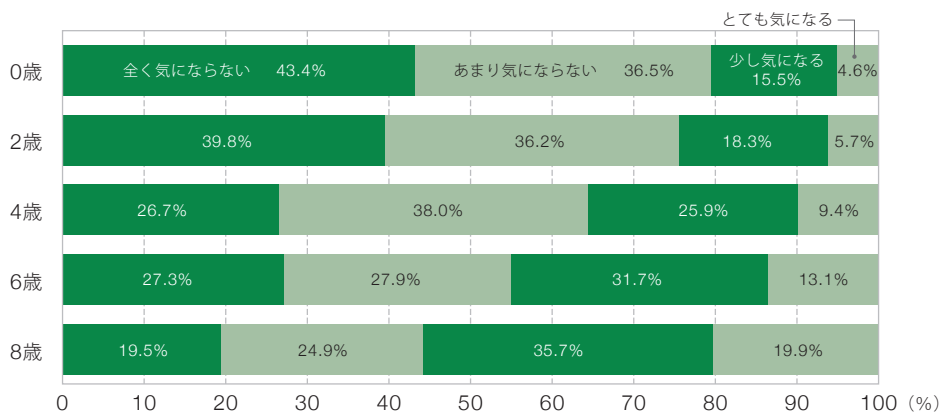
3. デンタルケア

アニコム損保の契約者に対して、どうぶつのデンタルケアに関する意識調査を実施した。

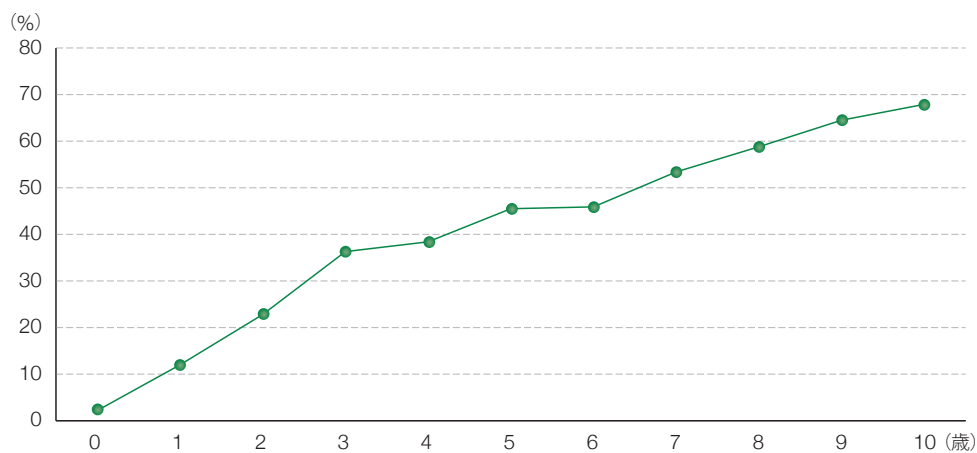
年齢とともに口臭を気にする割合が増加しており、歯垢や歯石の付着がおもな原因であることがうかがえる。デンタルケアに対するどうぶつの様子では、4割以上が嫌がるという結果になった。さらにケアを断念してしまう理由としては、どうぶつが嫌がるからという理由がもっとも多かった。

歯垢は、食事後1日以内につくられ、3～5日間で歯石へ変化するとされている。小さい頃から口を触っても嫌がらないよう慣らしておく、嫌がる場合はおもちゃやおやつを利用して楽しい時間を演出するなどして、普段からデンタルケアを継続する工夫が大切であると考えられた。

1-1-8 犬・猫の飼い主への「愛犬・愛猫の口臭は気になりますか？」に対する回答



1-1-9 歯石や歯垢がついている犬・猫の割合



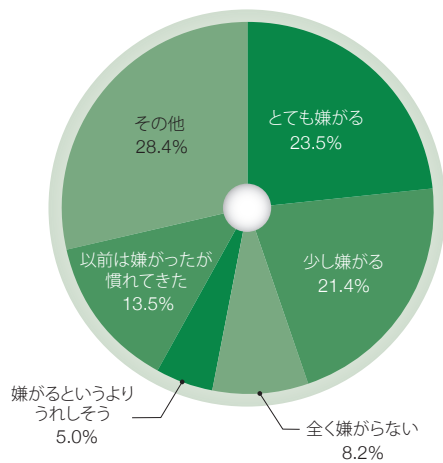
1-1-10 デンタルケアの方法

デンタルケアの方法（複数回答）	人数（人）	割合（%）
デンタルガムやデンタルケア用おもちゃを与える	1,499	47.2
歯ブラシで歯みがきをする	1,335	42.0
デンタルシートやガーゼなどで歯みがきをする	1,225	38.5
ジェルやペーストタイプのグッズでケアする	663	20.9
スプレータイプのグッズでケアする	255	8.0
普段の食事をデンタルケア用フードにする	74	2.3

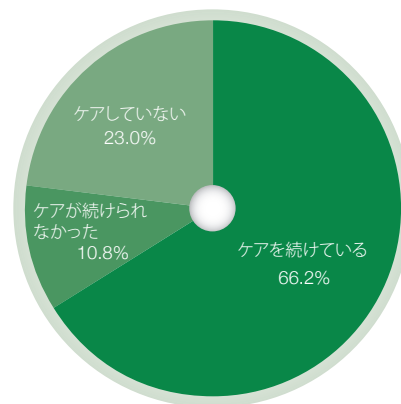


第1章 日本の家庭どうぶつ

1-1-11 デンタルケアに対する犬・猫の様子



1-1-12 デンタルケアの継続状況



1-1-13 デンタルケアを続けられなかった理由

デンタルケアを続けられなかった理由（複数回答）	人数（人）	割合（%）
愛犬（愛猫）が嫌がるので	250	72.7
つい忘れてしまって	104	30.2
愛犬（愛猫）が怒って咬むので	69	20.1
ケアをするのが面倒になったので	64	18.6
やり方がよくわからなかったので	60	17.4
効果がみられず、ケアをする必要性を感じなくなったので	35	10.2
ケアをする時間がなくなったので	35	10.2
その他	28	8.1

1-1-8～1-1-13

調査方法：アニコム損保の契約者に対し、インターネット上でアンケートを実施した。
実施期間：2014年5月9日～5月13日（有効回答数：3,179）。

第1章 日本の家庭どうぶつ

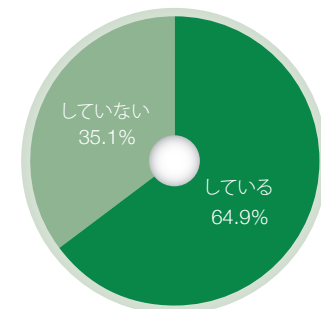
4. 家庭どうぶつのための防災対策

アニコム損保の契約者に対して、家庭どうぶつのための防災対策に関する調査を実施した。

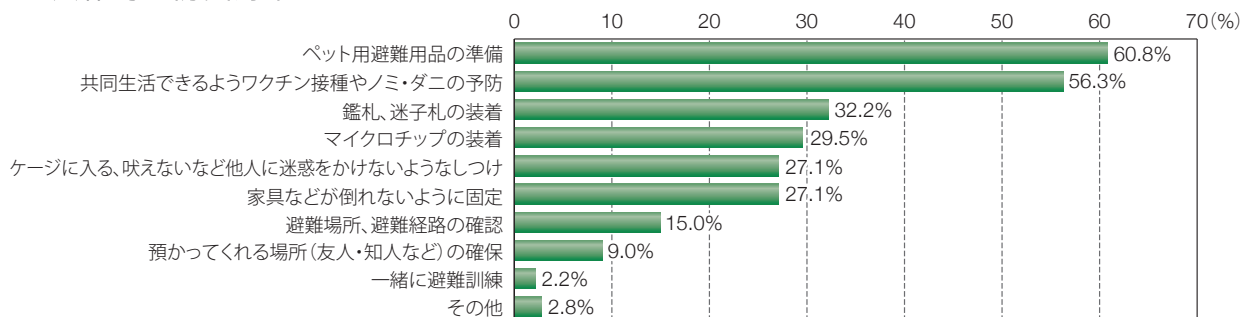
家庭どうぶつのための防災対策を行っているご家族が過半数を越えており、防災に対する意識は高いことが見受けられた。実際の対策としては移動用品（キャリーバッグ、リード）が最多となり、同行避難を重視していることがわかる。実際に災害に遭われた経験のあるご家族に対して、準備しておけば良かったと感じたものを聞いたところ、フード・水およびトイレ用品といった日常において使用するものや、マイクロチップ・迷子札の装着などが上位を占めていた。

防災対策は特別なことを行うのではなく、命や健康に関わるものを身近な所に置いておく・身元を示すものを身に付けておくといった「当たり前のこと」が重要であると考えられる。

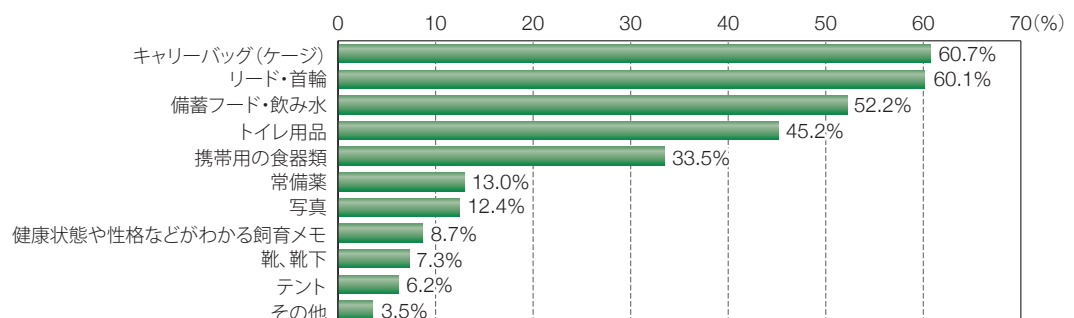
1-1-14 防災対策の有無



1-1-15 具体的な防災対策



1-1-16 避難用品として準備しているもの



1-1-17 準備しておけばよかったと感じたもの

準備しておけばよかったと感じたもの（複数回答）	人数（人）	割合（%）
備蓄フード・飲み水	122	5.1
トイレ用品	84	3.5
預かってくれる場所	64	2.7
マイクロチップ	63	2.6
鑑札、迷子札	61	2.6
避難場所、避難経路の確認	56	2.3
ケージなどに入れても落ち着いているしつけ	53	2.2
携帯用の食器類	50	2.1
避難用のキャリーバッグ（ケージ）	46	1.9
健康状態や性格などがわかる飼育メモ	44	1.8
常備薬	40	1.7
リード・首輪	39	1.6

1-1-14～1-1-17

調査方法：アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」契約者に対し、インターネット上でアンケートを実施。
実施期間：2014年8月13日～8月19日（有効回答数2,387）。



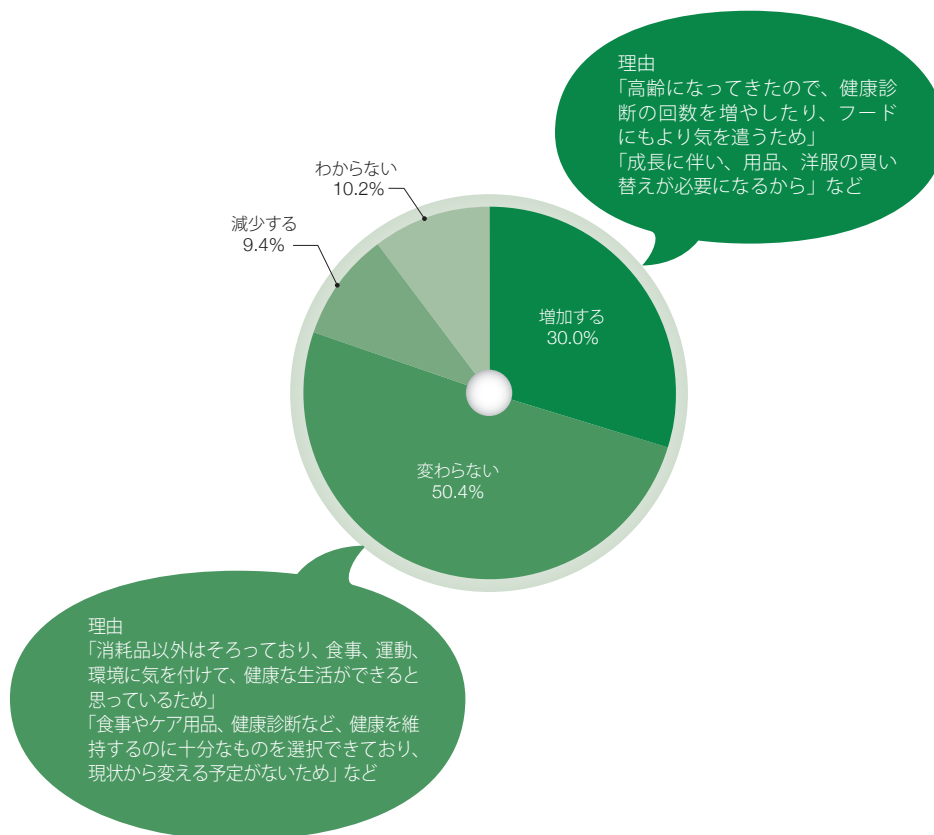
第1章 日本の家庭どうぶつ

5. 家庭どうぶつにかかる年間支出調査

1-1-18 1年間にかけた費用（犬・猫）

項目	犬			猫		
	2012年(円)	2013年(円)	前年比(%)	2012年(円)	2013年(円)	前年比(%)
病気やケガの治療費	74,506	75,400	101.2	45,712	35,599	77.9
フード・おやつ	46,140	47,965	104.0	46,944	36,182	77.1
しつけ・トレーニング料	40,488	34,128	84.3	—	—	—
シャンプー・カット・トリミング料	38,829	39,226	101.0	6,426	6,492	101.1
ペット保険料	35,005	34,564	98.7	27,538	28,054	101.9
ワクチン・健康診断などの予防費	27,311	26,986	98.8	13,391	13,117	98.0
ペットホテル・ペットシッター	23,134	20,237	87.5	15,976	20,704	129.6
日用品	17,010	18,064	106.2	17,116	19,173	112.0
洋服	14,650	13,925	95.1	3,436	5,182	150.8
ドッグランなど遊べる施設	7,216	7,058	97.8	—	—	—
防災用品	6,436	6,193	96.2	4,526	5,634	124.5
首輪・リード	6,309	7,280	115.4	3,078	3,035	98.6
合計	337,034	331,026	98.2	184,143	173,172	94.0
回答数	1,792	2,027	—	337	436	—
どうぶつの平均年齢（歳）	4.7	4.8	—	4.6	4.4	—

1-1-19 2014年にペットにかかる費用の見込み



1-1-18～1-1-19

調査方法：アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」の契約者に対し、ペット1頭へ支出した費用について、インターネット上でアンケートを実施した。

実施期間：

・2013年分調査：2014年1月15日～1月20日（有効回答数 2,564）。

・2012年分調査：2013年1月10日～1月15日（有効回答数 2,204）。

第1章 日本の家庭どうぶつ

6. どうぶつを迎えた後の家族の不安

ペットショップから子犬・子猫を迎えた際、飼育に慣れていないご家族であればちょっとした変化でも不安になるが、病院に連れて行くべきかどうか迷われる方が多い。とくにそのような場合について、2014年3月～8月の間にアニコムに寄せられた相談内容を分析した。

おもな相談内容は、「下痢をした」、「咳・くしゃみのようなものをしている」、「ごはんを食べてくれない」、「吐いてしまった」といったもので、いずれもペットショップでは発症していなかった症状が多かった。また、相談のあった時間帯では、動物病院が診察を終了した後の20時台がピークとなっていた。

子犬・子猫を家庭に迎えてから30日以内にあった問い合わせ件数は1,335件だった。このうち約25%が2日目までの問い合わせであった。とくに、家庭に迎えた日（0日目）の夜に相談が多く寄せられており、どうぶつの小さな身体には、移動や新しい環境が大きな負担になっていることがうかがえた。家庭に迎え入れた直後には、どうぶつに極力負担のかからない環境を整えることが大切であると考えられた。

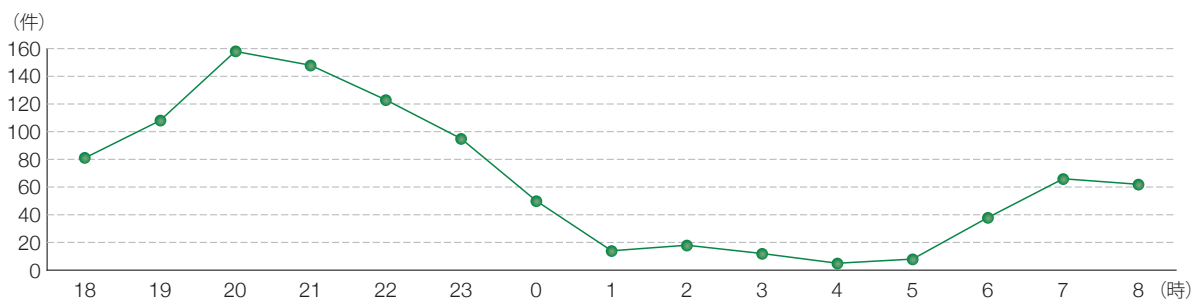
1-1-20 どうぶつをお迎えした後の相談内容

相談内容	件数(件)
咳・くしゃみ	226
下痢	195
フードについて	162
嘔吐	151
誤飲	97
元気消失	46
ふるえ・跛行	44
落下	44
皮膚トラブル	42
眼の異常	36
尿の異常	21
ワクチンアレルギー	17
低血糖を疑う症状	17
日常ケア・しつけ・サービス・その他	544
合計	1,642

1-1-20

2014年3月1日～8月31日までの間に、ペットショップから新しく犬・猫を迎えた直後の家庭から寄せられた電話相談1,642件の内容の内訳。

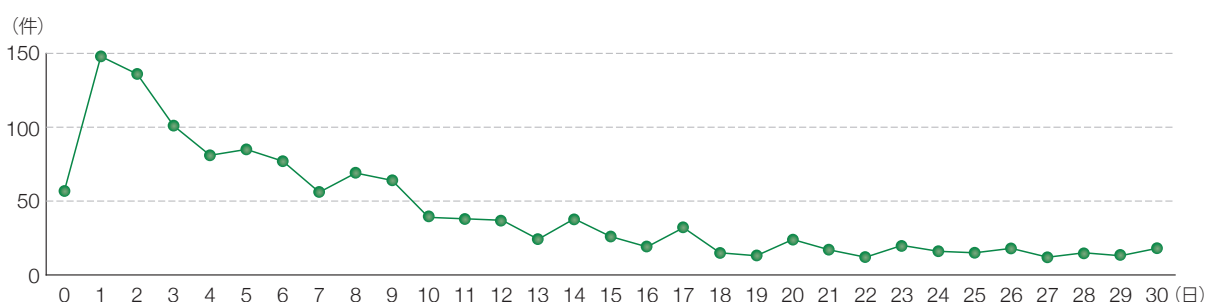
1-1-21 時間帯別の相談件数の推移



1-1-21

2014年3月1日～8月31日までの間に、ペットショップから新しく犬・猫を迎えた直後の家庭から寄せられた電話相談986件の受付時間帯（※9～18時は予約制のため除外した）。

1-1-22 お迎え後の日数と相談件数の推移



1-1-22

2014年3月1日～8月31日までの間に、寄せられた電話相談のうち、ペットショップから新しく犬・猫を迎えてから30日以内の相談1,335件のうち日ごとの件数を示した。



第 2 部

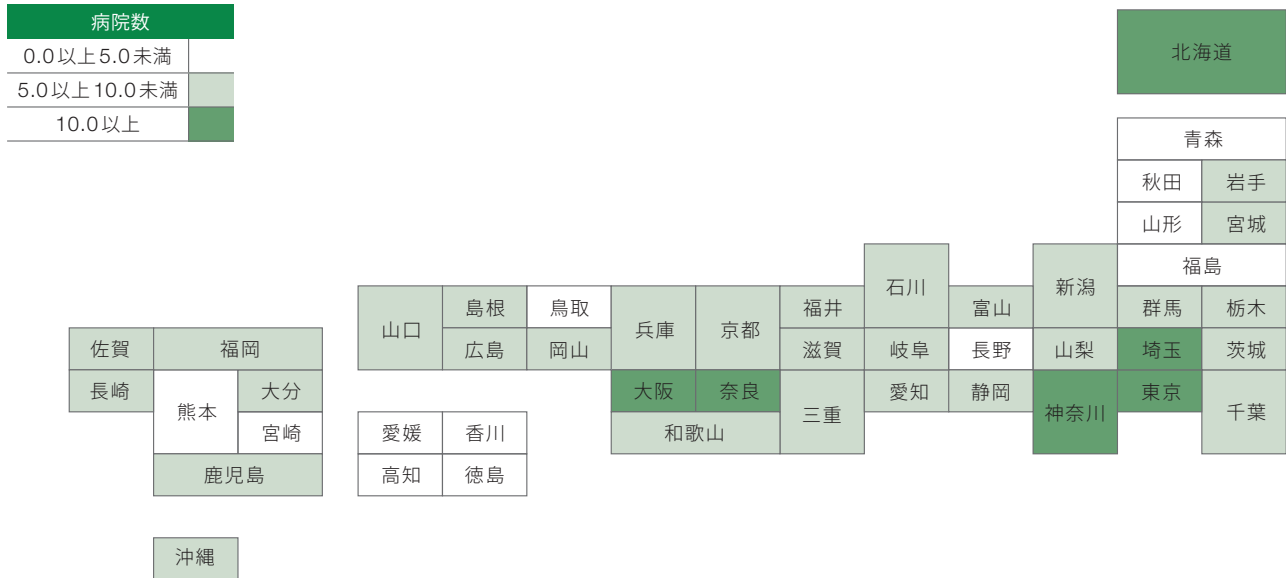
どうぶつ医療を取り巻く環境

2. Circumstances of animal health care

第1章 医療提供体制

1. 保険制度の普及

2-1-1 犬1万頭あたりの保険対応病院数



県名	犬の登録頭数* (頭)	対応病院数** (件)	1万頭あたり 病院数
北海道	278,801	296	10.6
青森県	68,564	27	3.9
岩手県	75,537	38	5.0
宮城県	133,095	90	6.8
秋田県	46,583	12	2.6
山形県	44,822	17	3.8
福島県	112,903	47	4.2
茨城県	186,975	101	5.4
栃木県	118,288	83	7.0
群馬県	131,387	68	5.2
埼玉県	379,635	390	10.3
千葉県	335,836	317	9.4
東京都	513,250	816	15.9
神奈川県	474,046	578	12.2
新潟県	106,254	66	6.2
富山県	49,794	32	6.4
石川県	51,658	47	9.1
福井県	33,885	28	8.3
山梨県	55,735	38	6.8
長野県	124,633	60	4.8
岐阜県	136,925	83	6.1
静岡県	234,771	186	7.9
愛知県	470,879	350	7.4
三重県	135,979	71	5.2
滋賀県	84,238	49	5.8
京都府	121,806	119	9.8
大阪府	382,430	439	11.5
兵庫県	328,389	274	8.3
奈良県	61,769	72	11.7
和歌山県	48,440	33	6.8
鳥取県	26,351	13	4.9
島根県	38,866	25	6.4
岡山県	105,081	61	5.8
広島県	145,335	124	8.5
山口県	87,393	47	5.4
徳島県	42,764	11	2.6
香川県	71,871	32	4.5
愛媛県	84,806	27	3.2
高知県	47,129	12	2.5
福岡県	268,234	182	6.8
佐賀県	48,309	24	5.0
長崎県	72,882	45	6.2
熊本県	112,543	42	3.7
大分県	70,369	39	5.5
宮崎県	66,975	28	4.2
鹿児島県	101,360	55	5.4
沖縄県	68,384	42	6.1
全国	6,785,959	5,636	8.3

2-1-1

*厚生労働省 都道府県別の犬の登録頭数（2012年度末）

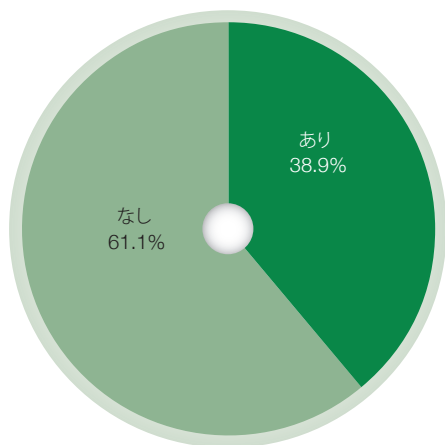
**2014年8月末時点のアニコム損保対応病院数。

第1章 医療提供体制

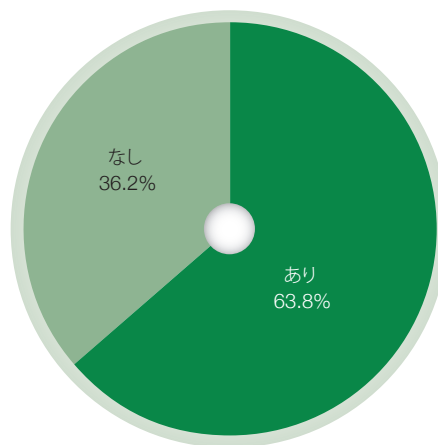
2. 動物病院の現状

アニコム損保対応動物病院5,636施設（2014年9月3日時点）において、実施している各種サービスの有無を調べたところ、トリミングを行っている動物病院は全体の40%程度、ホテル、往診は64%であった。また、駐車場は東京都の一部を除いてほぼすべての動物病院が併設していた。

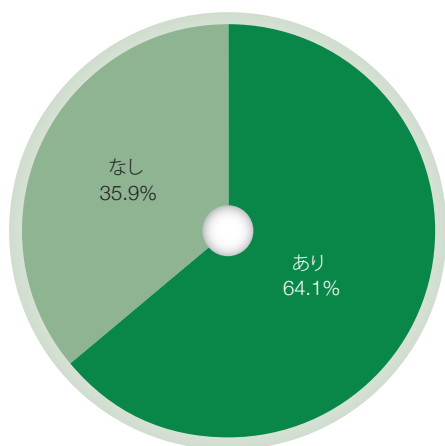
2-1-2 動物病院におけるトリミング実施



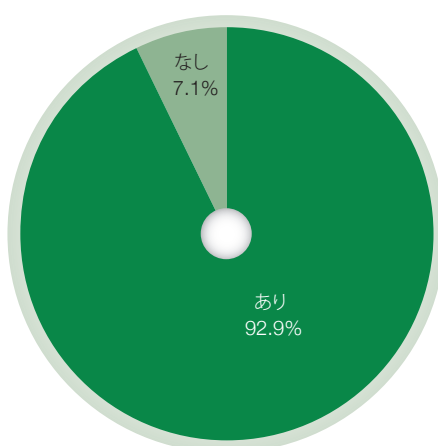
2-1-3 動物病院におけるホテル実施



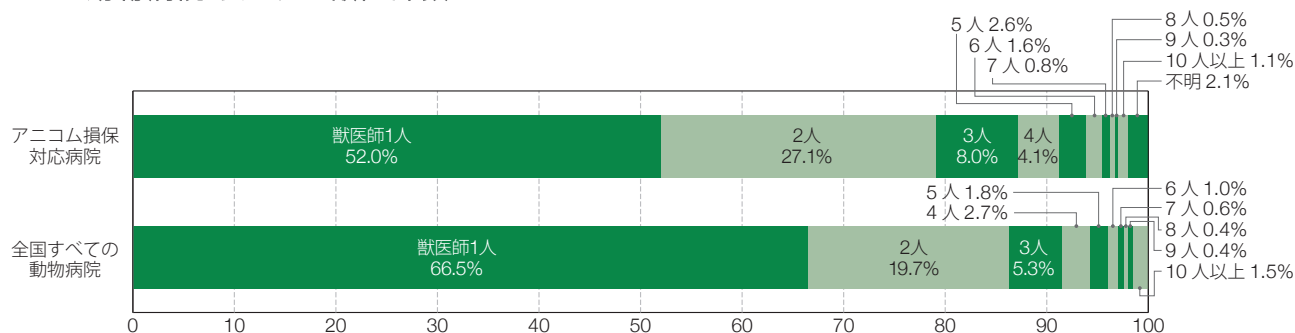
2-1-4 動物病院における往診の実施



2-1-5 動物病院における駐車場の有無



2-1-6 動物病院あたりの獣医師数



3. 地域別の診療費用

2-1-7 どうぶつ1頭あたりの年間診療費

[illegible]

2-1-7
2012年にアニコム損保のどうぶつ健保の契約を開始した犬、猫、うさぎ、鳥、フェレット442,046頭のうち、1年間の保険契約期間中に請求があった276,621頭の請求を集計し、1頭あたりの年間の診療費などを示した。



第1章

医療提供体制

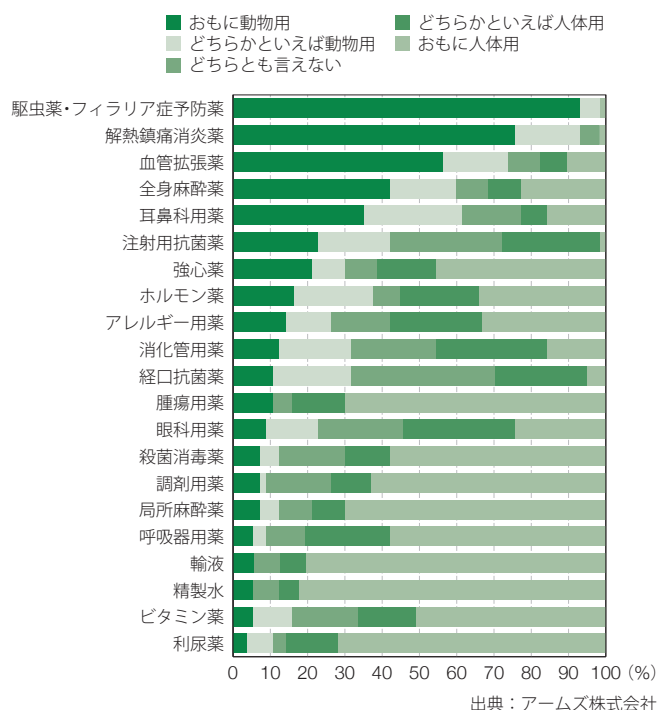
4. 動物病院における人体用医薬品の使用頻度

家庭どうぶつの診療において、獣医師は、診療上やむを得ない必要がある場合、承認された動物用医薬品以外の人体用医薬品などの効能外使用が認められている。実際の臨床現場において、どの程度動物用医薬品以外の薬品等が用いられているか、アームズ株式会社が調査したデータを掲載した。

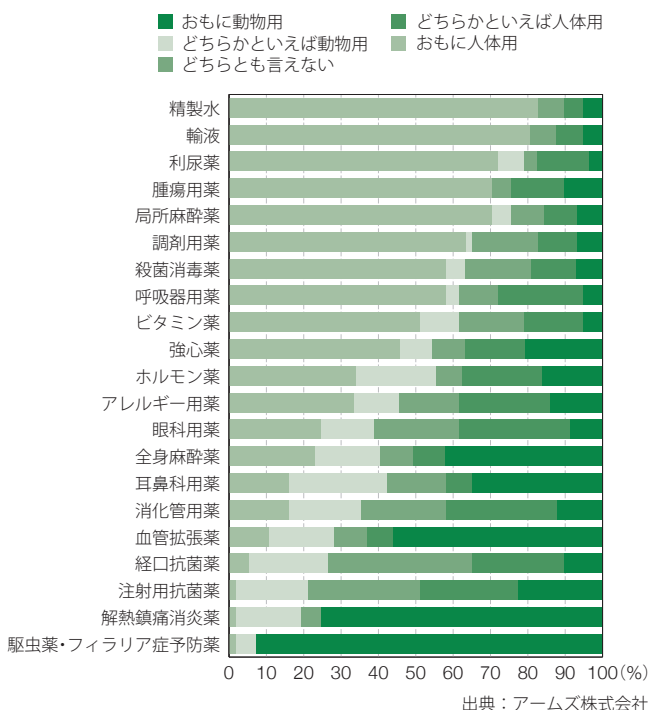
2-1-8のとおり、駆虫薬・フィラリア症予防薬、解熱鎮痛消炎薬、血管拡張薬（ACE阻害薬）など、すでに動物用として承認された製品投入が多くなされている領域では、動物用医薬品の使用頻度が高い傾向にあった。

人体用医薬品が獣医師の処方権により転用される頻度の高い領域は 2-1-9のとおりである。精製水・輸液は、種類が多く、価格も安価なため、人体用医薬品が多く使用されている。ほかにも、利尿薬、局所麻酔薬、腫瘍用薬、呼吸器用薬、殺菌消毒薬、ビタミン薬、強心薬などは、人体用医薬品の使用頻度が高い。

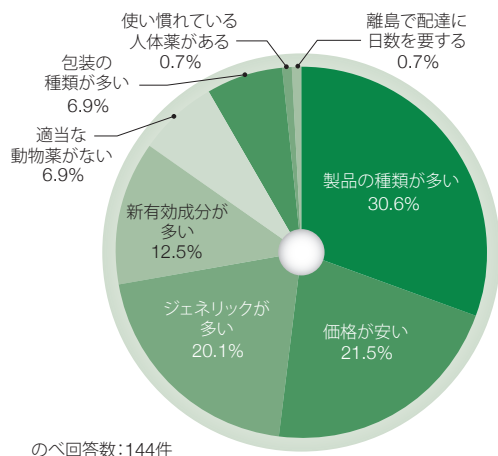
2-1-8 動物病院における人体用医薬品の使用頻度（動物用医薬品順）



2-1-9 動物病院における人体用医薬品の使用頻度（人体用医薬品順）



2-1-10 人体薬を使用・処方する理由



出典：アームズ株式会社

2013年2月、公益社団法人 日本薬剤師会講演資料より抜粋

獣医師に対して、診療するどうぶつに人体用医薬品を処方する理由を尋ねた調査では、2-1-10のとおり「製品の種類が多い」という回答が30.6%でもっとも多かった。次いで「人体薬は価格が安い（21.5%）」、「ジェネリックが多い（20.1%）」、「新有効成分が多い（12.5%）」、「人体薬に相当する適切な動物薬がない（6.9%）」などの理由があがった。つまり、適切な動物用医薬品がなく、人体用医薬品を選択するという側面と、価格が安い・ジェネリックが多いという経済的な側面が理由としてあげられている。

承認されている動物用医薬品では治療の効果が期待できないなど、診療上やむを得ない必要がある場合に人体用医薬品や未承認医薬品を使用する状況がみとれるが、そのような場合には、どうぶつの安全のためにも、適切なエビデンスの確認が必要となるだろう。



催吐薬『トラネキサム酸』投与の確立に向けて

誤飲事故の催吐処置とトラネキサム酸

当社は予防への取り組みの一環として、異物誤飲事故に着目し、2012年より「STOP 誤飲プロジェクト」を始動させた。保険金支払いデータや獣医師、飼い主向けアンケートを基にした事故発生状況の分析を行い、その結果を用いて、学会発表や専門誌などを通じた獣医師との情報共有や、マスメディアやWEB媒体を通じた飼い主への啓発活動に取り組んできた。誤飲事故状況の分析においては、好発年齢や品種などといったどうぶつ側の因子や、発生時の状況や日頃の意識などといった飼い主側の因子、事故発生時の獣医師の対応など、多岐にわたる点を考慮する必要があるが、本コラムでは催吐処置に着目した取り組みについて紹介する。

獣医師172人のアンケート（複数回答可）調査によると、誤飲に対する治療として「薬などで嘔吐させる（91%）」、「内視鏡で異物を取り出す（71%）」、「開腹手術で異物を取り

出す（96%）」、「点滴をする（69%）」、「内服薬を処方する（54%）」といった処置があげられた。そこで、犬の催吐処置でもに使用している薬剤を聞いたところ、「オキシドール（46%）」、「トラネキサム酸（38%）」、「食塩（1%）」、「トコンシロップ（3%）」、「メデトミジン（1%）」、「キシラジン（1%）」の回答を得た。このように、催吐処置には以前からオキシドールや食塩が用いられているが、オキシドールは胃潰瘍を、食塩は食塩中毒を惹起することが懸念されている。そのため、最近ではこれらの傷害を起こさない薬物としてトラネキサム酸が利用されている¹⁾。

トラネキサム酸はもともと止血薬として承認された医療用医薬品であり、副作用として嘔吐を引き起こすことから、小動物臨床現場ではこの作用を利用して、犬が異物を飲み込んだ際に嘔吐を誘発させることを目的として用いられている。実際に、静脈内投与後かなりの確率ですぐに嘔吐することが経験的に知られている。しかし、トラネキサム酸は催吐薬としての有効性と安全性が全く報告されていないため、医療事故が起こる可能性を否定できない。例えば、トラネキサム酸の有効用量が決まっていないことによる過剰投与の可能性や、トラネキサム酸の止血作用による過剰な血液凝固亢進の可能性が懸念されており、犬の健康に対するリスクは未知数である。また、不慮の事故が原因で獣医師と飼い主の間で訴訟が起こった場合には、トラネキサム酸の催吐薬としての科学的根拠が全く存在しないため、獣医師が不利な立場に立たされる可能性がある。以上のこ

図1 トラネキサム酸累積投与プロトコル

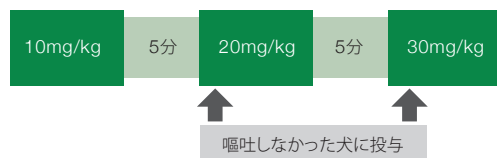


表1 トラネキサム酸累積投与結果

	トラネキサム酸静脈内投与用量		
	10 mg/kg	+20 mg/kg (計 30 mg/kg)	+30 mg/kg (計 60 mg/kg)
嘔吐頭数/トラネキサム酸投与頭数	0/10	5/10	5/5
累積嘔吐率	0%	50%	100%
嘔吐回数 (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	— —	1.6 ± 0.2 2 [1 - 2]	1.4 ± 0.2 1 [1 - 2]
投与から初回嘔吐までの時間 (秒) (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	— —	120.6 ± 18.9 139 [60 - 160]	102.4 ± 6.1 105 [82 - 120]
2回嘔吐した頭数 (頭)		3	2
初回嘔吐から2回目嘔吐までの時間 (秒) (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	— —	30.7 ± 9.7 22 [20 - 50]	46.5 ± 23.5 46.5 [23 - 70]
投与から2回目嘔吐までの時間 (秒) (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	— —	132 ± 20.0 114 [110 - 172]	156.5 ± 13.5 156.5 [143 - 170]



とから、トラネキサム酸の催吐薬としての有効性と安全性を示すことが、臨床上有益となると考えた。

アニコムグループでは、この問題を解決するために、麻布大学獣医学部生理学第二研究室の折戸謙介教授と2013年から共同研究を開始した。ラットを用いた基礎研究では、「トラネキサム酸誘発性嘔吐はニューロキニン1受容体が関与すること」が示唆された²⁾。また、犬を用いた前臨床研究では、「トラネキサム酸が嘔吐を起こす用量と効果（催吐作用）の関連および血液凝固への影響」を明らかにした³⁾。本稿では後者の研究内容を紹介する。詳細は原著論文を参照していただきたい。

トラネキサム酸が嘔吐を起こす有効用量

累積投与実験において、犬10頭にトラネキサム酸10mg/kgを静脈内投与した（図1）。嘔吐しない犬には、5分間隔で用量を段階的に上げ投与した。トラネキサム酸10mg/kgを投与すると、嘔吐する犬はいなかった。さらに、トラネキサム酸20mg/kgを投与すると5頭が嘔吐した。残りの5頭にトラネキサム酸30mg/kgを投与すると全頭が嘔吐した（表1）。この結果により、少なくともトラネキサム酸10mg/kgでは嘔吐行動を惹起しないことが示された。なお、全頭に有害事象は認められなかった。

単回投与実験において、犬10頭にトラネキサム酸20mg/kgを静脈内投与した（図2）。嘔吐しない犬には、7日間隔で用量を段階的に上げ投与した。その結果、用量依存性に嘔吐を誘発した（表2）。この結果により、トラネキサム酸単回投与では、20～50mg/kgが有効用量であることが示唆された。なお、全頭に有害事象は認められなかった。

図2 トラネキサム酸単回投与プロトコル

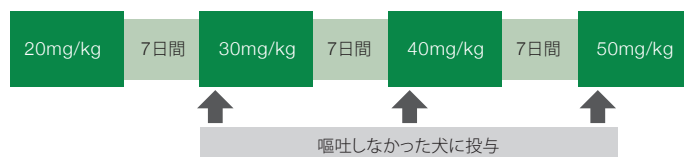


表2 トラネキサム酸単回投与結果

	トラネキサム酸静脈内投与用量			
	20 mg/kg	30 mg/kg	40 mg/kg	50 mg/kg
嘔吐頭数/トラネキサム酸投与頭数	1/10	3/9	4/6	2/2
累積嘔吐率	10%	40%	80%	100%
嘔吐回数 (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	2 —	1.3 ± 0.3 1 [1 - 2]	1.8 ± 0.3 2 [1 - 2]	1.0 ± 0.0 1 [1]
投与から初回嘔吐までの時間 (秒) (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	120 —	150.7 ± 23.5 142 [115 - 195]	170.5 ± 27.3 149 [135 - 250]	180 ± 7.0 180 [173 - 187]
2回嘔吐した頭数 (頭)	1	1	3	0
初回嘔吐から2回目嘔吐までの時間 (秒) (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	30 —	48 —	48.3 ± 14.2 60 [20 - 65]	— —
投与から2回目嘔吐までの時間 (秒) (平均値 ± 標準誤差) (中央値 [範囲])	150 —	190 —	192.3 ± 19.7 200 [155 - 222]	— —

トラネキサム酸の血液凝固への影響

犬10頭から採血を行い、Modified rotational thromboelastographyで血液凝固亢進の度合い測定した。そのパラメーターとして、測定開始から30、45、60分後の Lysis Index (LI₃₀、LI₄₅、LI₆₀) を用いた。トラネキサム酸投与の60分前、20分後、3時間後、24時間後に採血し測定した。トラネキサム酸は50mg/kgを静脈内投与した。その結果、トラネキサム酸の血液凝固促進作用は、投与20分後に高く、投与3時間後に若干残り、投与24時間後に完全に消失した(図3)。

結論

本研究により、トラネキサム酸は犬に対して用量依存性に嘔吐を誘発し、累積投与および単回投与はトラネキサム

酸誘発性嘔吐に適した投与方法であることが示唆された(表3)。また、トラネキサム酸による血液凝固促進作用は時間経過により減少し、24時間以内にほぼ完全に消失することが示唆された。

これらの研究成果は、トラネキサム酸による催吐処置における科学的根拠を示す最初の一步である。今後は、小動物臨床現場のトラネキサム酸投与症例を観察することにより、有効性および安全性における品種差、年齢差、性差などの追究が重要になると考えられる。獣医師の皆さまにはぜひ情報収集にご協力いただきたい。そして、小動物臨床現場における知見を積み重ね、有効性と安全性の礎を築き、わが国から催吐薬としての「トラネキサム酸」を確立していきたい。(垣内 仁志)

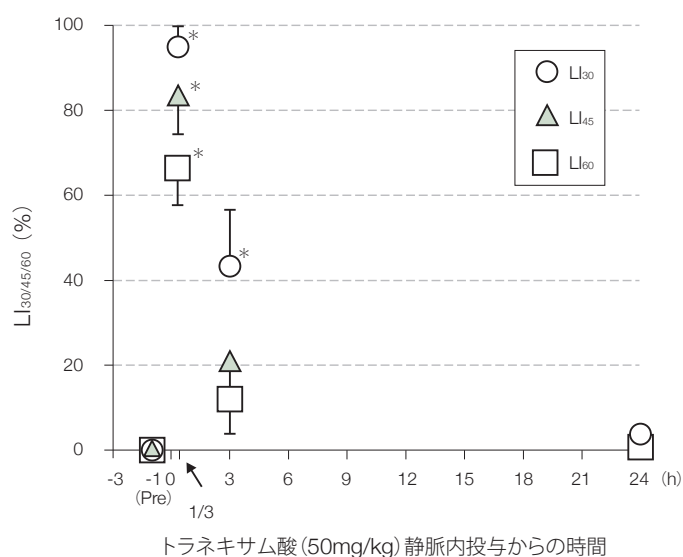


図3 トラネキサム酸の血液凝固亢進作用

グラフは平均値±標準誤差で示している。
*は対象 (Pre) と比較して危険率 $P < 0.01$ を示している (Dunnett multiple comparison test)。

表3 トラネキサム酸静脈内投与による催吐作用のまとめ

累積投与	単回投与	嘔吐	
		回数	嘔吐消失時間
(10) + 20 + 30 mg/kg	20 ~ 50 mg/kg	2回以下	250秒以下

参考文献：

- 1) 島村麻子：犬、猫の誤飲-傾向と対策- infoVets, No.155, 35-41, 2012.
- 2) Kakiuchi H. et al. : Tranexamic acid induces kaolin intake stimulating a pathway involving neurokinin 1 receptors in rats, Eur J Pharmacol, 723 : 1-6, 2014.
- 3) Kakiuchi H. et al. : Efficacy and safety of tranexamic acid as an emetic in dogs, Am J Vet Res, In press, 2014.



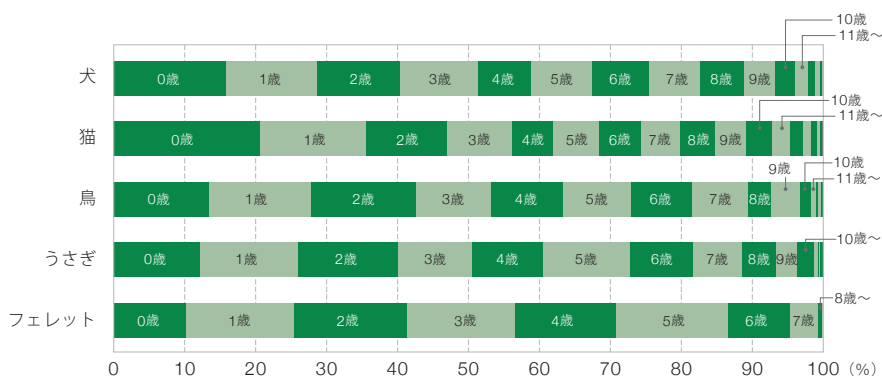
第 3 部

どうぶつの疾患統計

【本書における罹患率について】

本書では、「罹患率＝保険金支払いのあったどうぶつの数／保険に契約しているどうぶつの数」と定義した。保険契約期間は1年間であるため、継続契約であるかどうかにかかわらず、あくまで1年間で保険金支払いがあったどうぶつを罹患どうぶつとしてカウントしている。また、アニコム「どうぶつ健保」に契約しているどうぶつには、新規契約時に年齢制限があること、ペットショップからどうぶつを迎える際に保険契約を検討するケースが多いことにより、若齢どうぶつが多い（3-0-1）。そこで、年齢（または年齢・性別）による各群の母集団が10,000頭となるように補正した後に、全体平均を算出し、罹患率としている。

3-0-1 アニコム損保の「どうぶつ健保」契約どうぶつの年齢構成



対象：2012年4月1日から2013年3月31日までの間に、アニコム損保の「どうぶつ健保」の契約を開始した犬388,520頭、猫48,208頭、鳥537羽、うさぎ2,843頭、フェレット1,941頭（解除・取消を除く）。

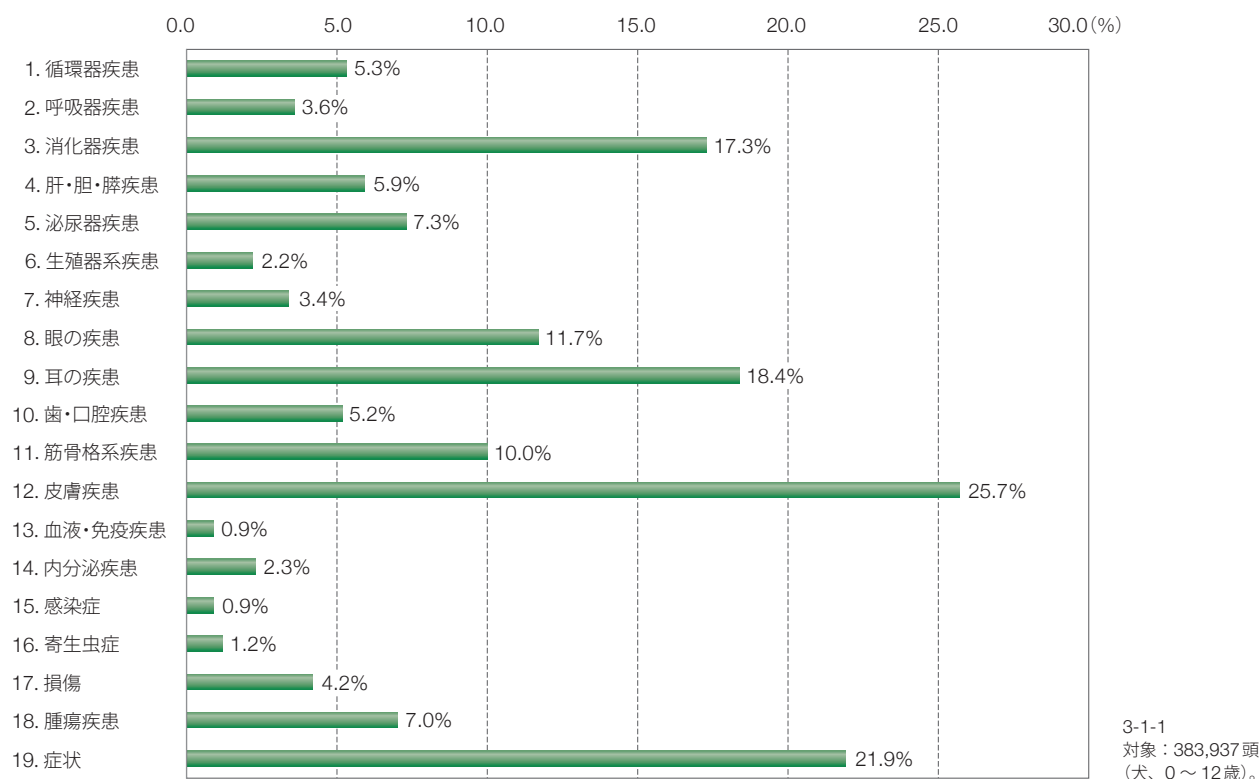
3. Statistics on household animal diseases

2012年4月1日から2013年3月31日までの間にアニコム損保の「どうぶつ健保」の契約を開始したどうぶつを対象とした。契約満了または死亡解約となった各個体の1年ごとの契約について、その契約が開始した年齢ごとに1契約＝1頭とみなして算出している。罹患率でとくに記載のないものは、0～12歳の平均とした。

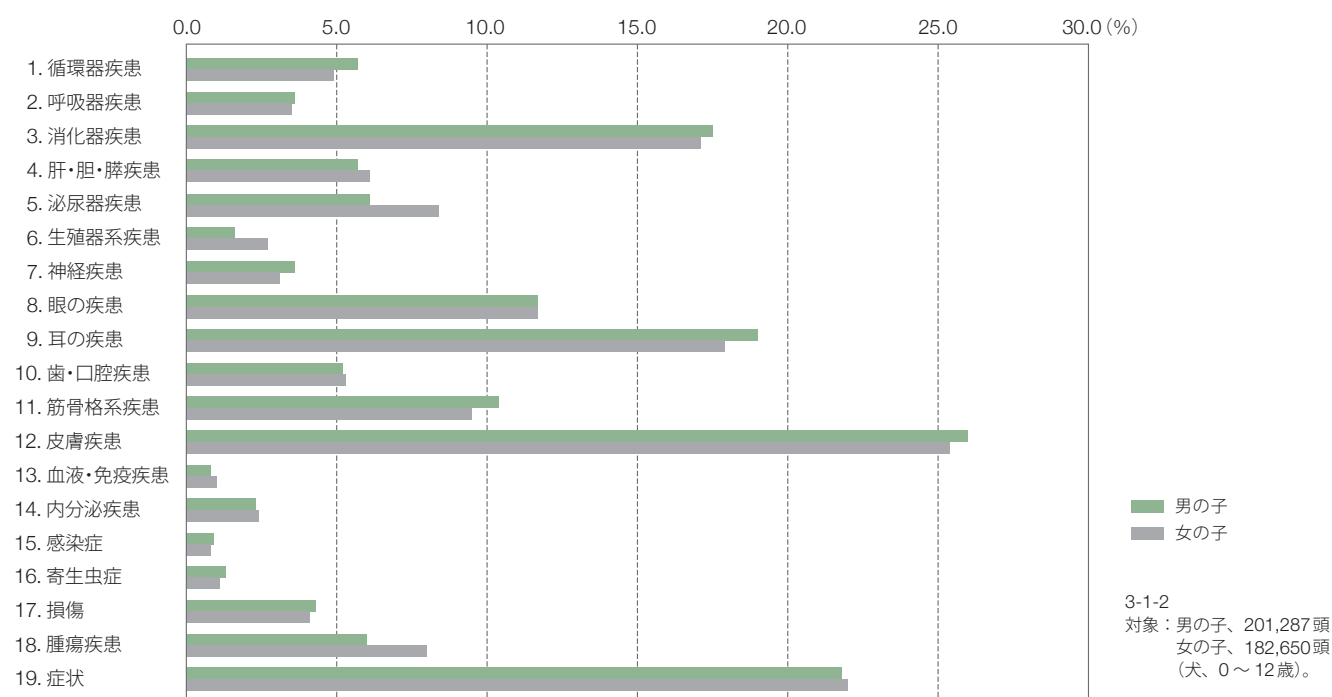
第1章 疾患（大分類単位）別の統計

1. 犬

3-1-1 犬の疾患（大分類単位）別の罹患率



3-1-2 犬の罹患率の男女比較

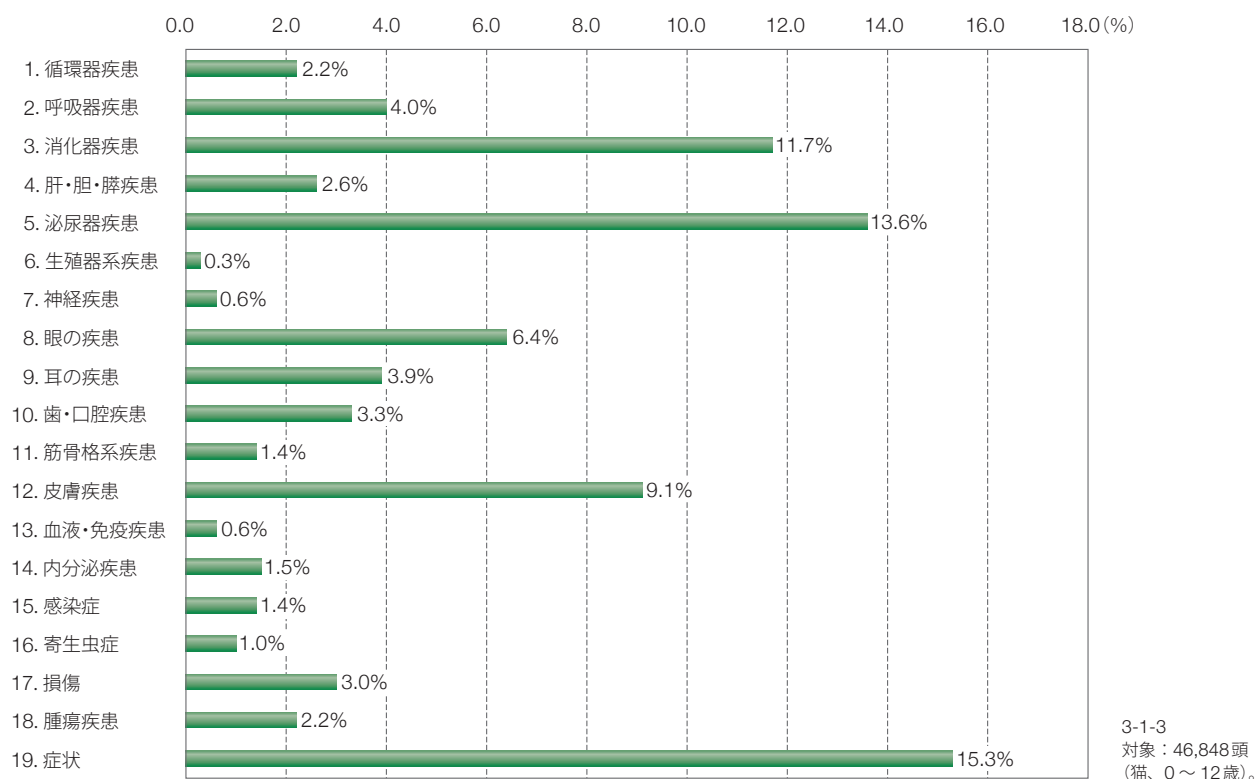




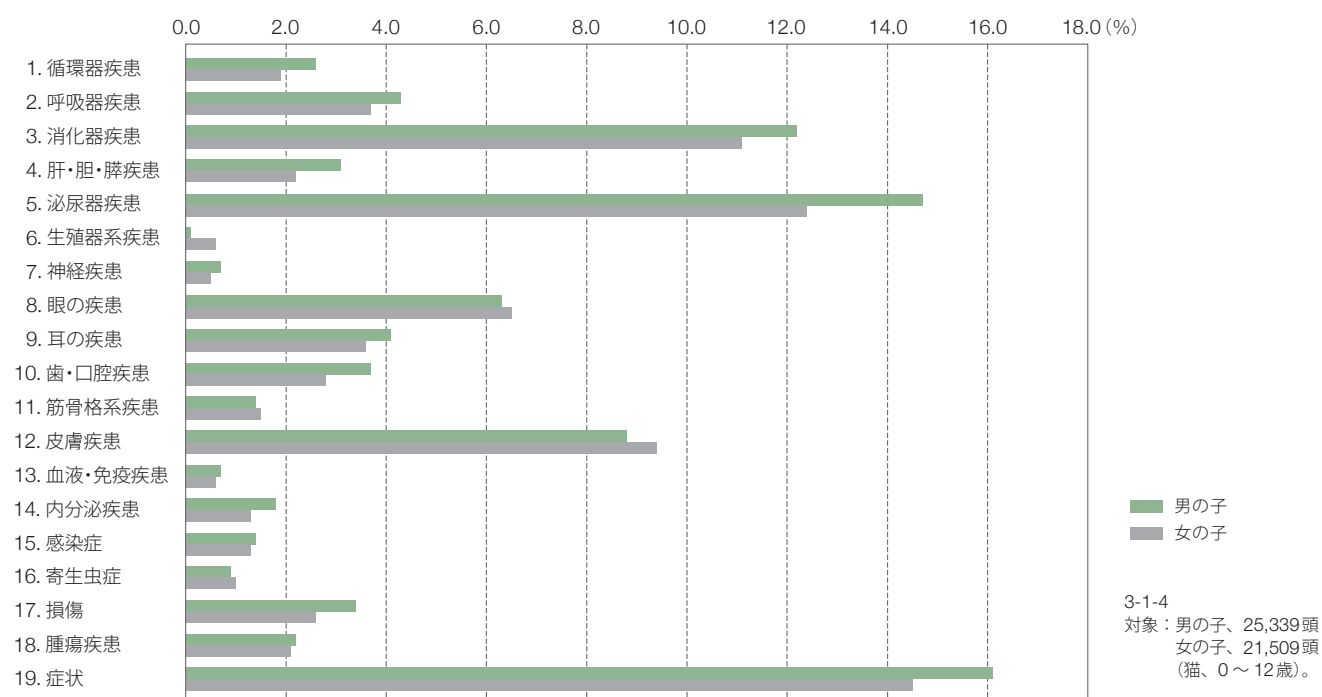
第1章 疾患（大分類単位）別の統計

2. 猫

3-1-3 猫の疾患（大分類単位）別の罹患率



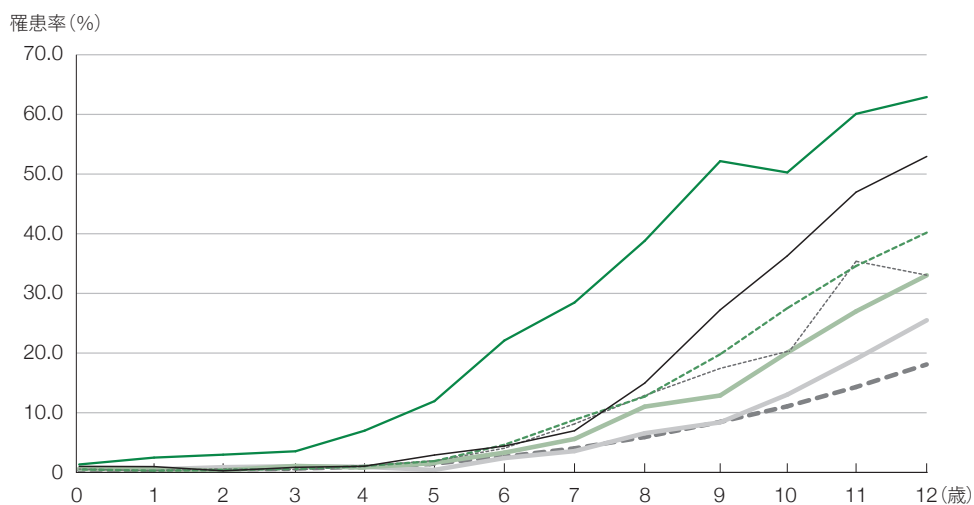
3-1-4 猫の罹患率の男女比較



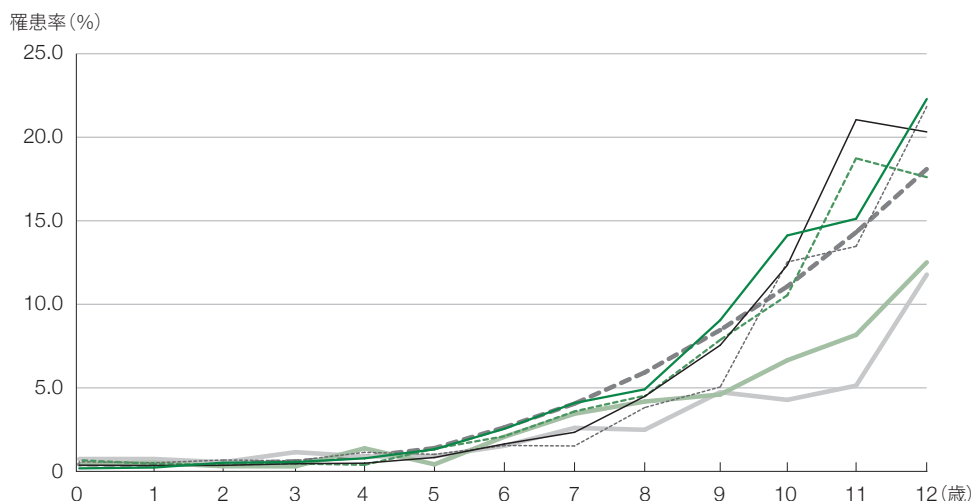
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

1. 循環器疾患

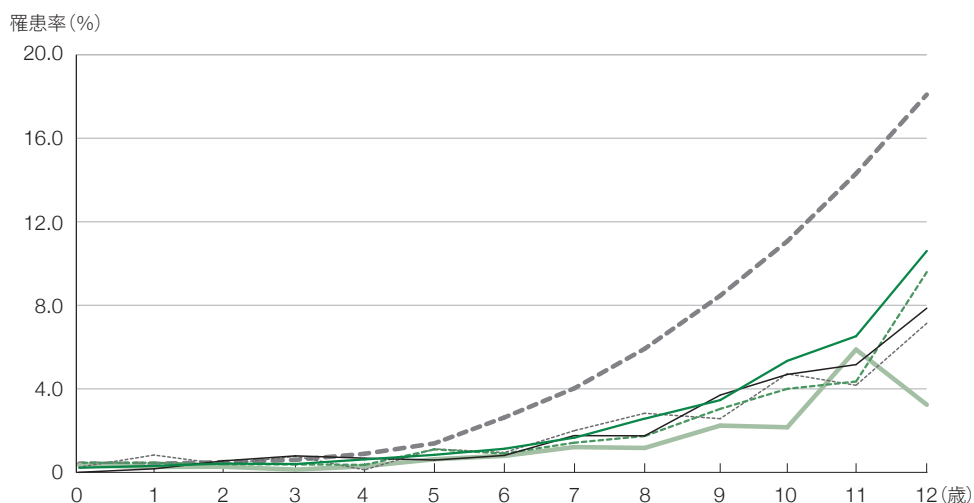
3-2-1 品種別の年齢推移①



3-2-2 品種別の年齢推移②



3-2-3 品種別の年齢推移③

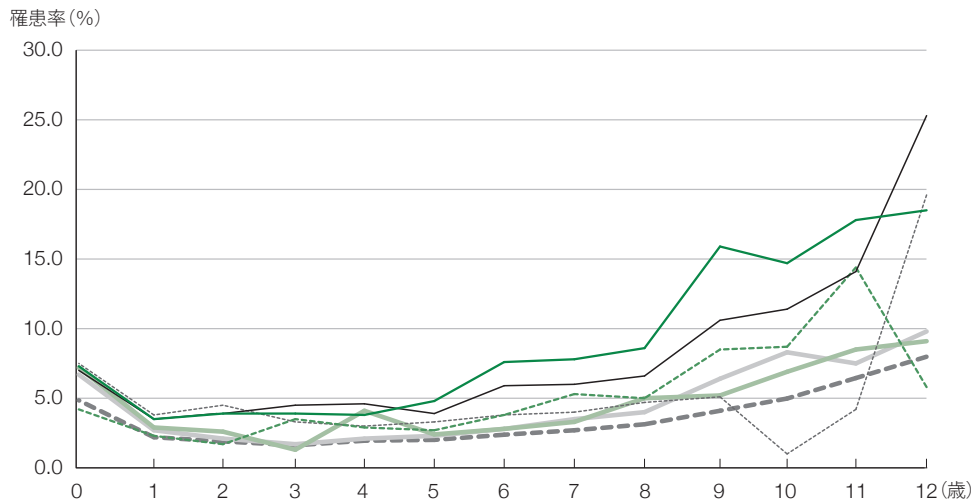


3-2-1 ~ 3-2-3
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

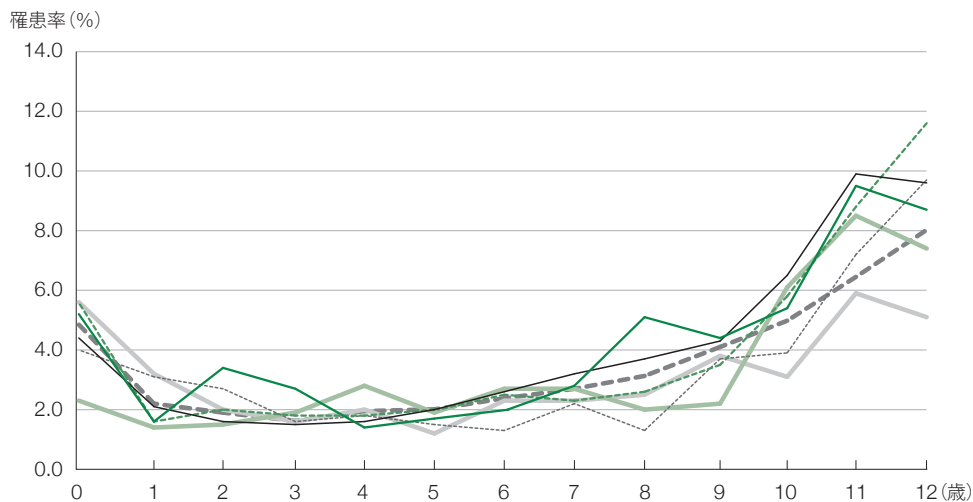


2. 呼吸器疾患

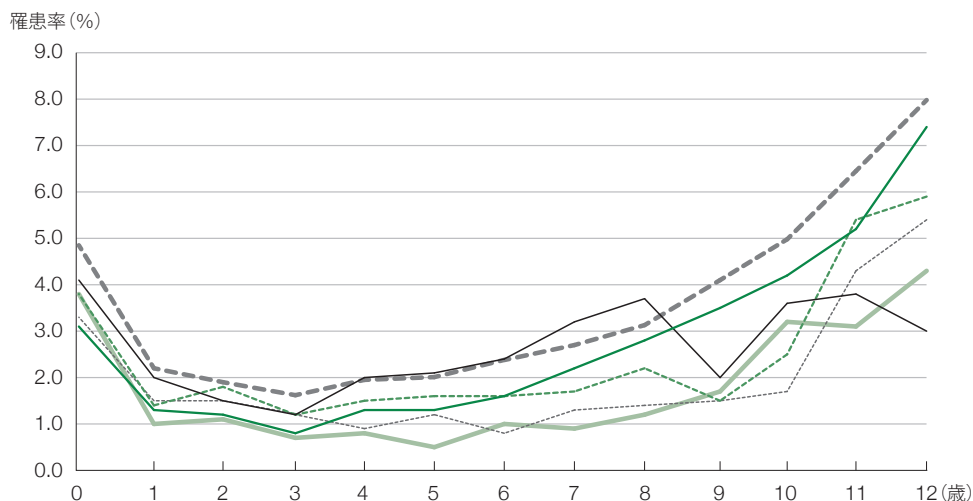
3-2-4 品種別の年齢推移①



3-2-5 品種別の年齢推移②



3-2-6 品種別の年齢推移③

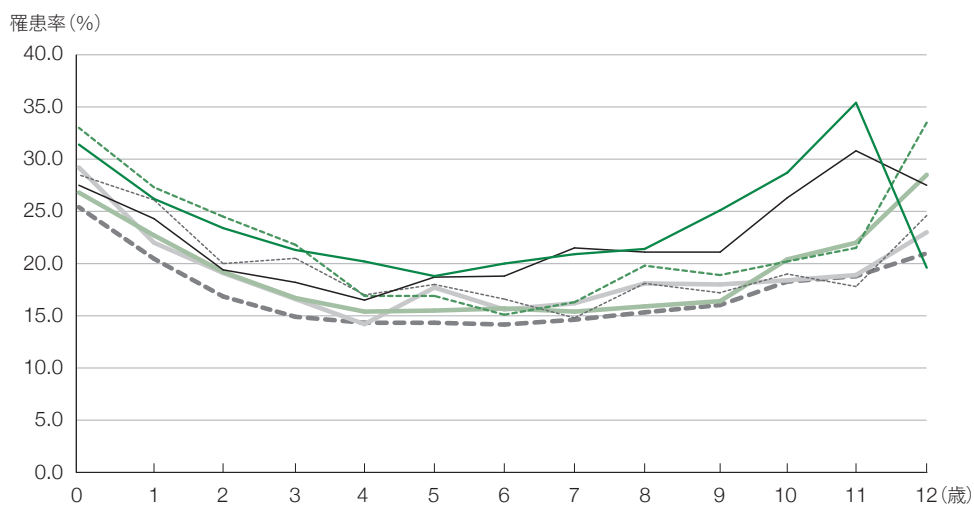


3-2-4～3-2-6
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

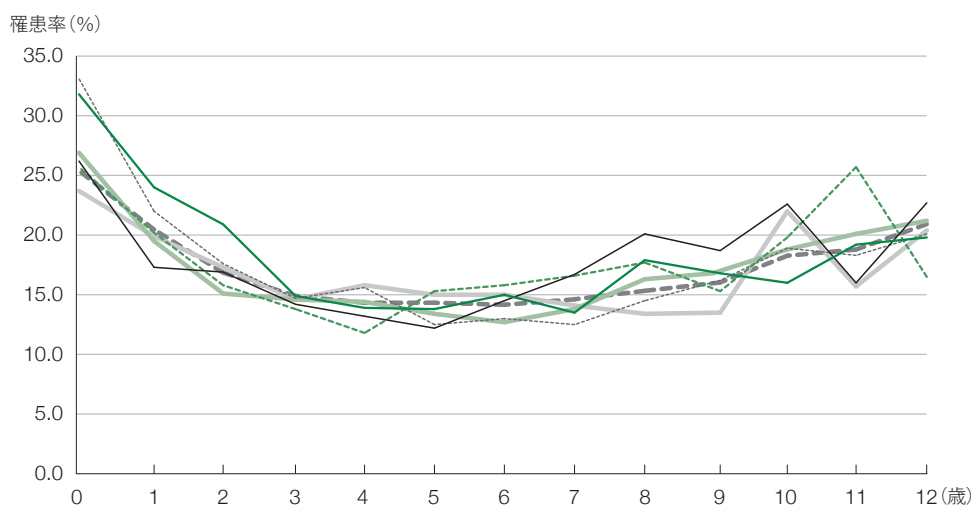
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

3. 消化器疾患

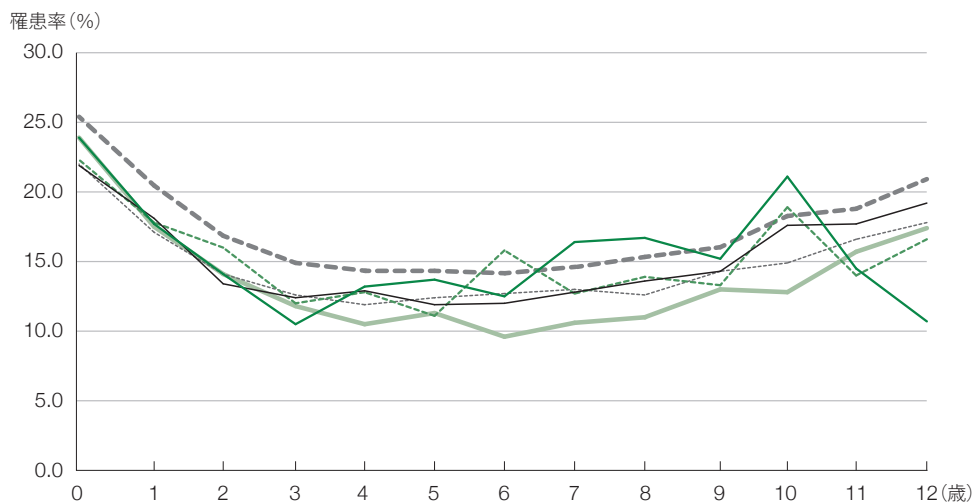
3-2-7 品種別の年齢推移①



3-2-8 品種別の年齢推移②



3-2-9 品種別の年齢推移③

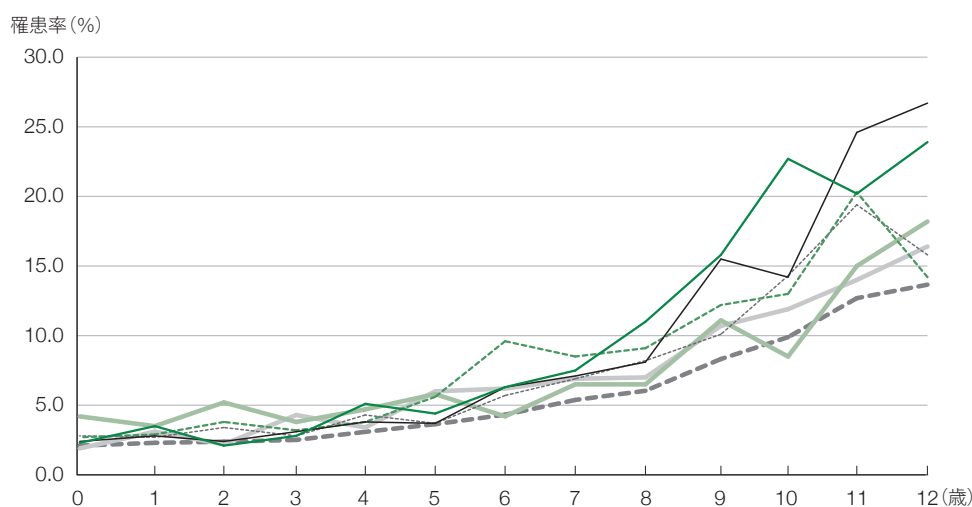


3-2-7～3-2-9
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

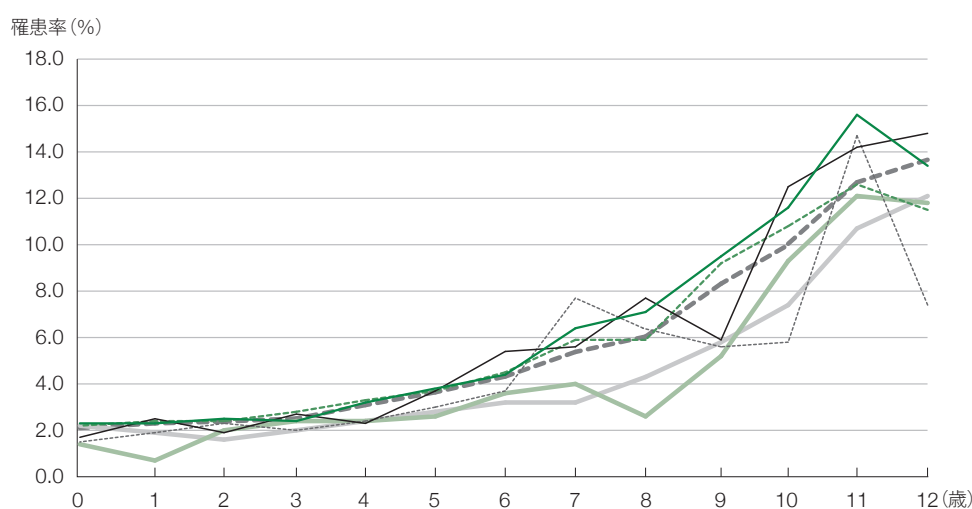


4. 肝・胆・膵疾患

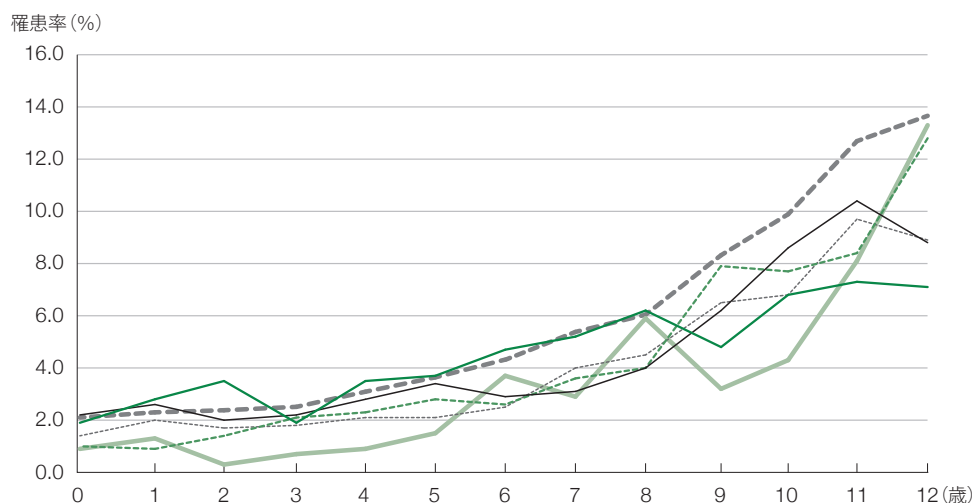
3-2-10 品種別の年齢推移①



3-2-11 品種別の年齢推移②



3-2-12 品種別の年齢推移③



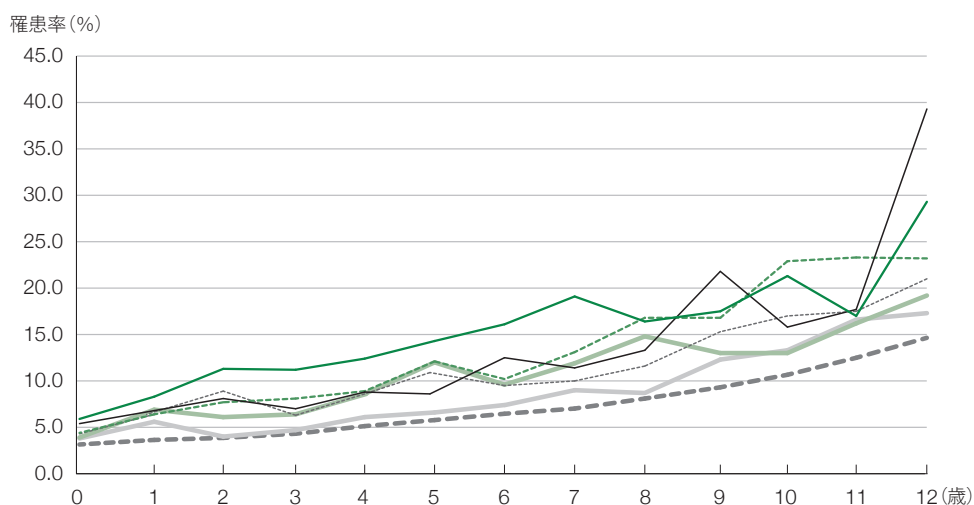
3-2-10～3-2-12
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

第2章 疾患別品種別の統計(犬)

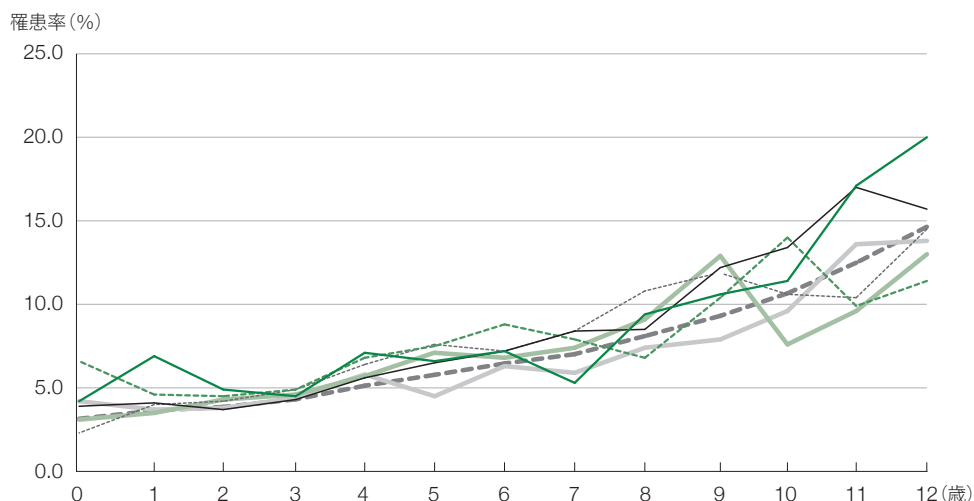
5. 泌尿器疾患



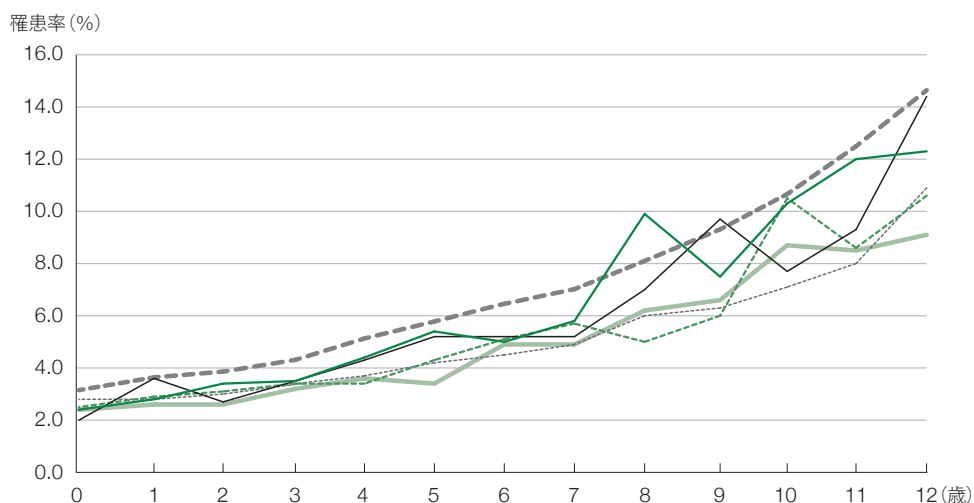
3-2-13 品種別の年齢推移①



3-2-14 品種別の年齢推移②



3-2-15 品種別の年齢推移③

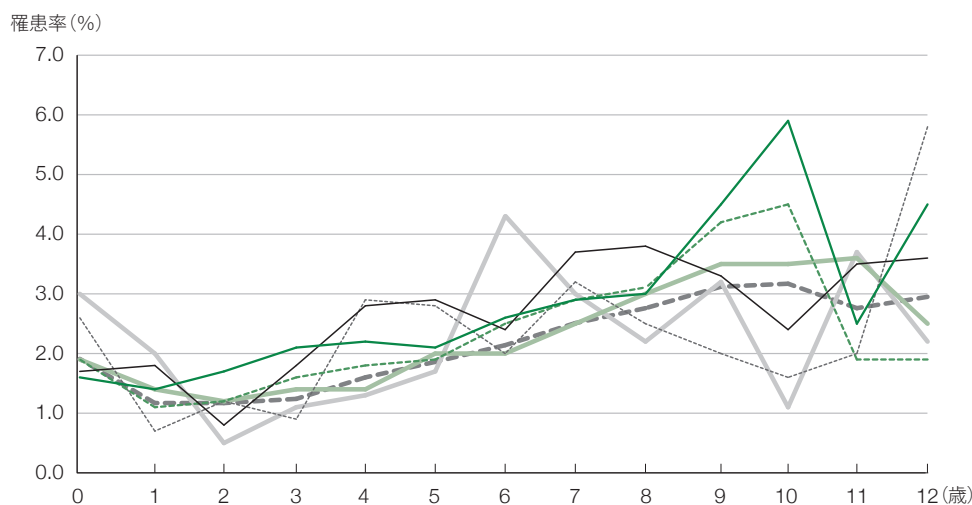
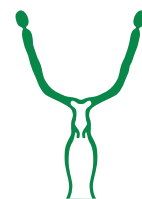


3-2-13～3-2-15
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

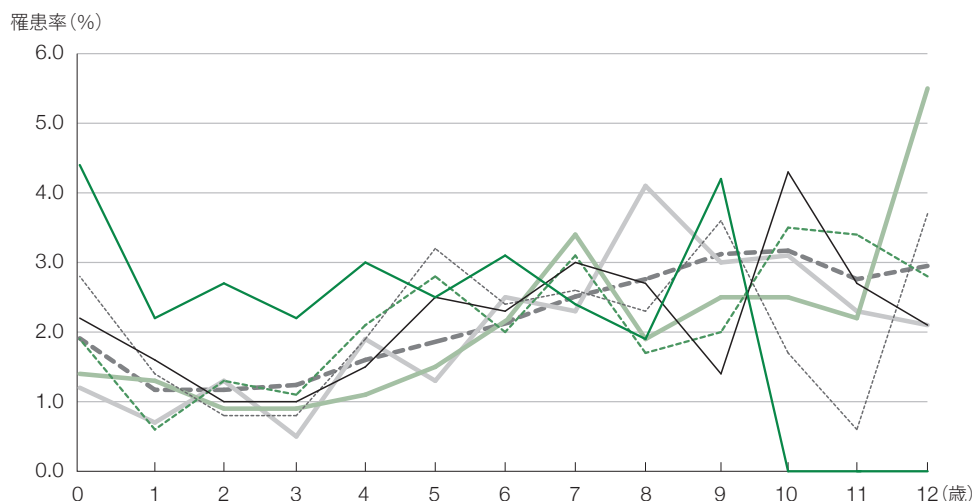


6. 生殖器疾患

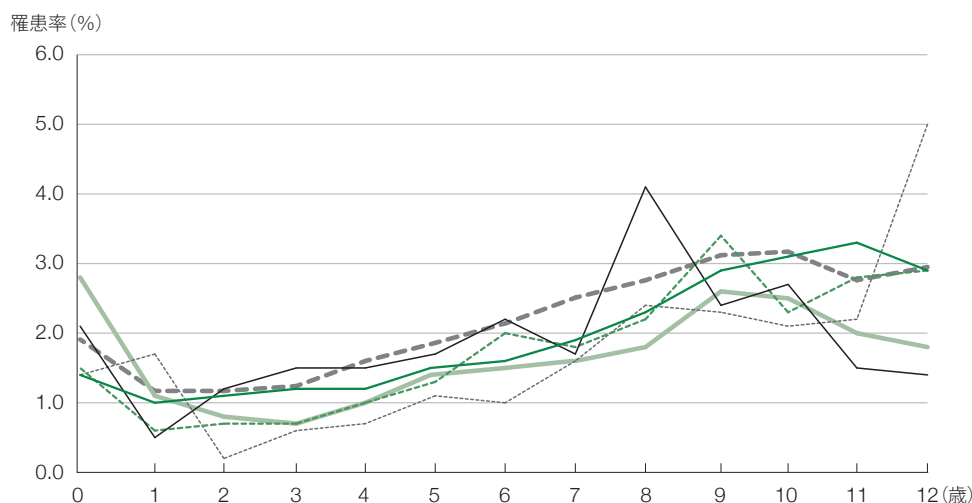
3-2-16 品種別の年齢推移①



3-2-17 品種別の年齢推移②



3-2-18 品種別の年齢推移③

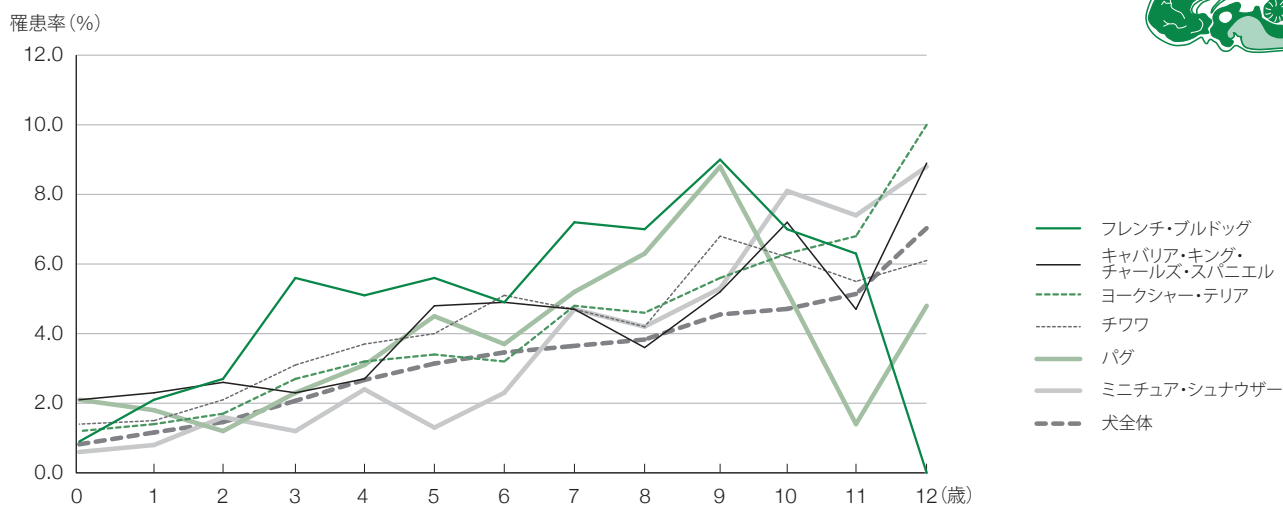


3-2-16～3-2-18
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

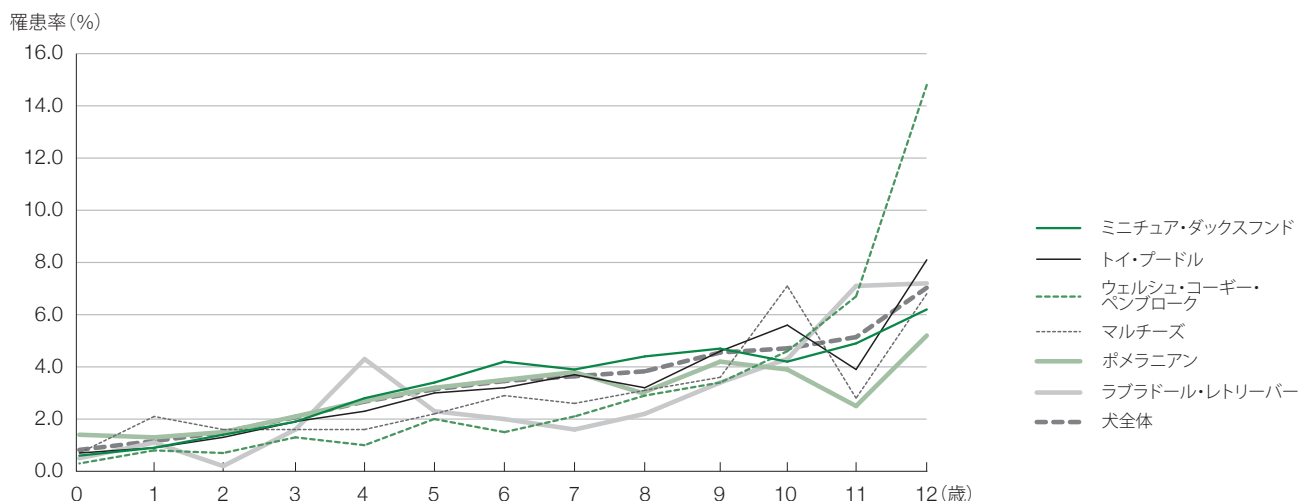
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

7. 神経系疾患

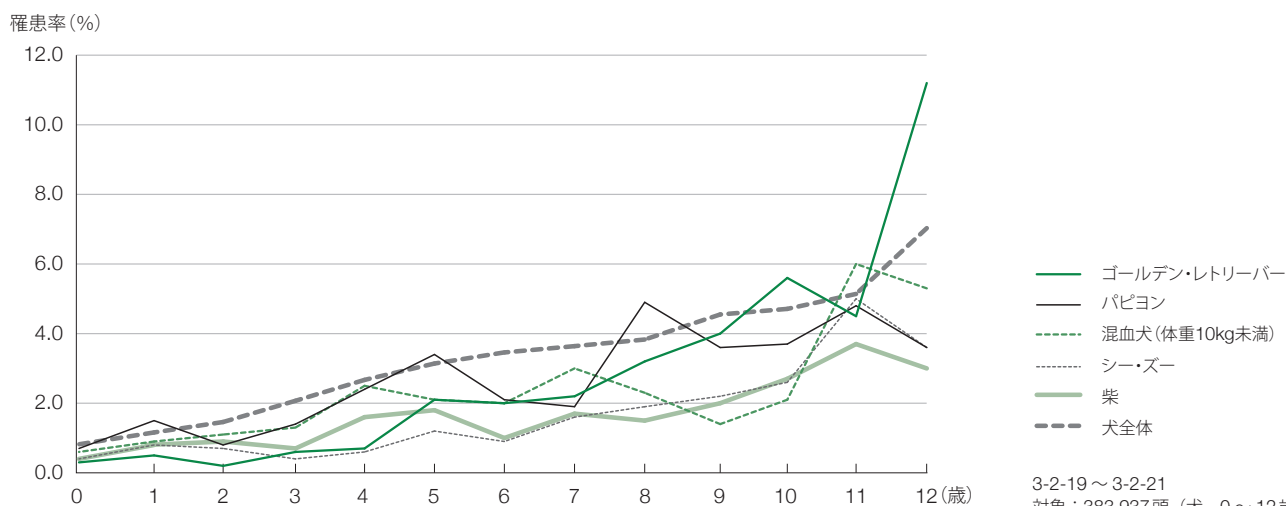
3-2-19 品種別の年齢推移①



3-2-20 品種別の年齢推移②



3-2-21 品種別の年齢推移③



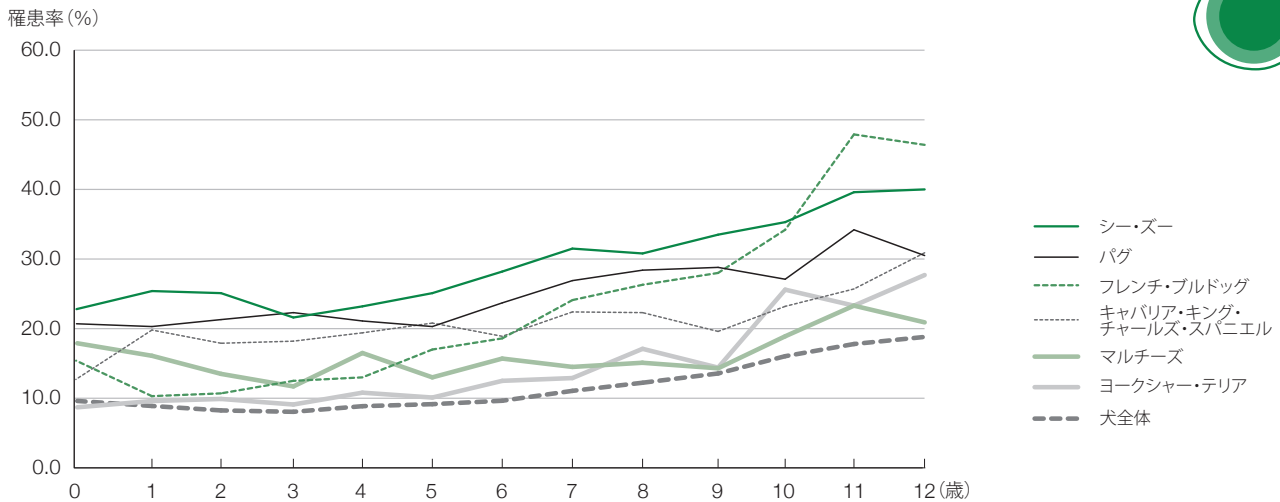
3-2-19～3-2-21
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

第2章 疾患別品種別の統計(犬)

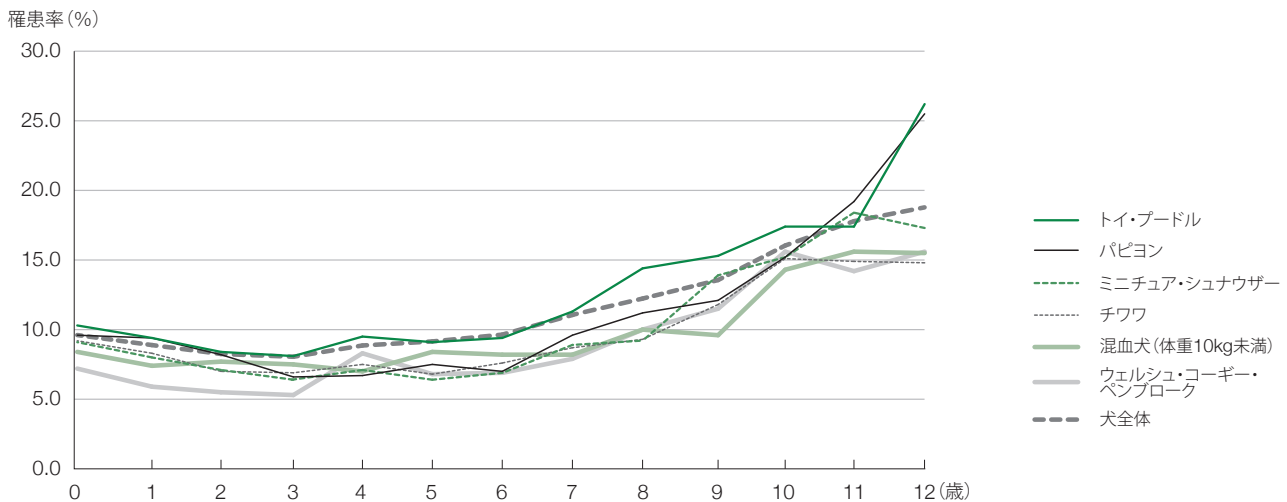


8. 眼および付属器の疾患

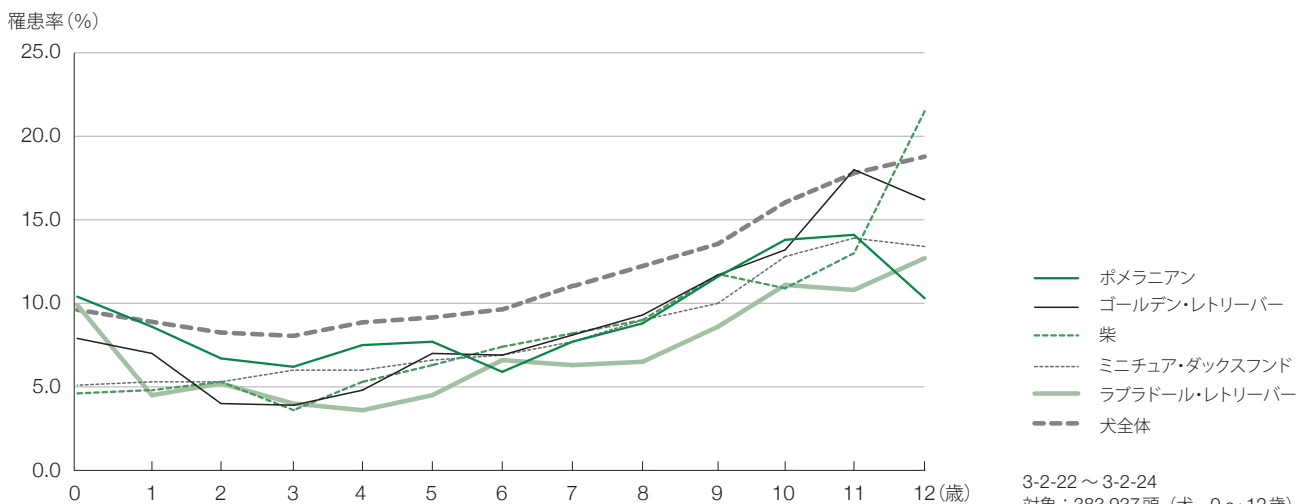
3-2-22 品種別の年齢推移①



3-2-23 品種別の年齢推移②



3-2-24 品種別の年齢推移③

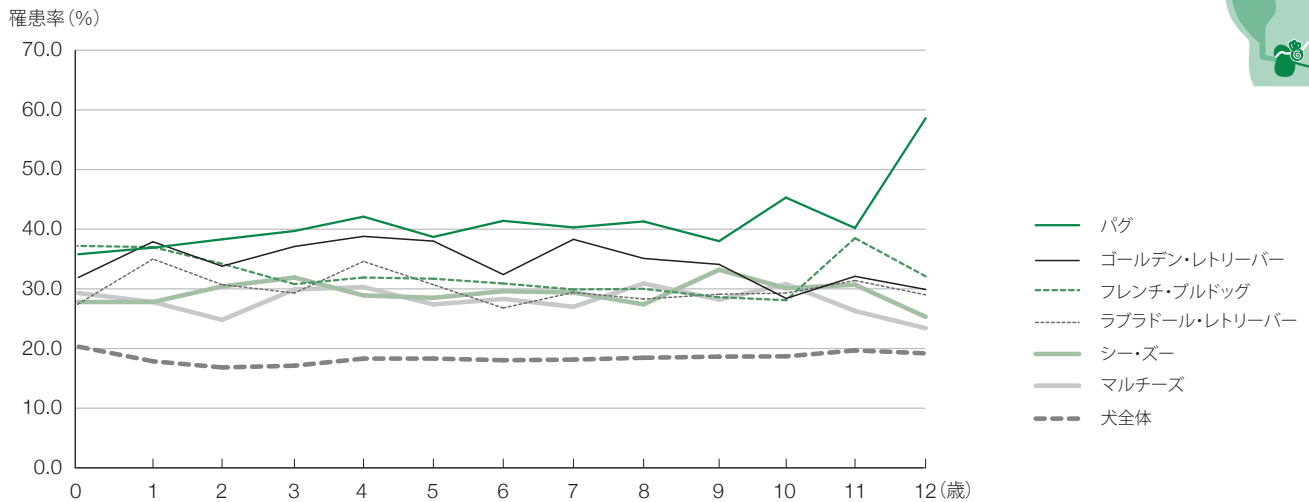


3-2-22～3-2-24
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

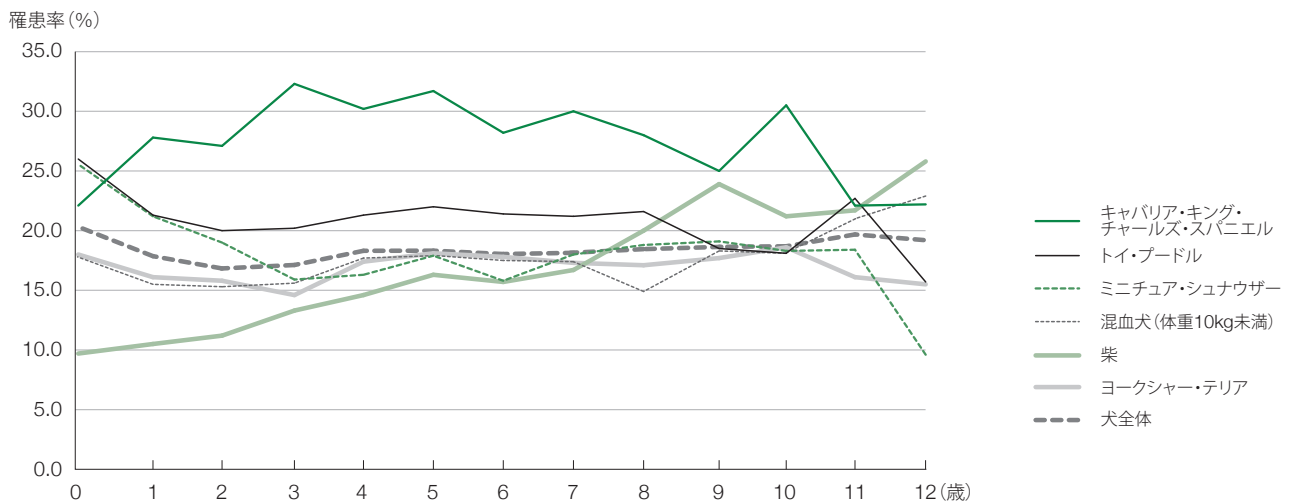
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

9. 耳の疾患

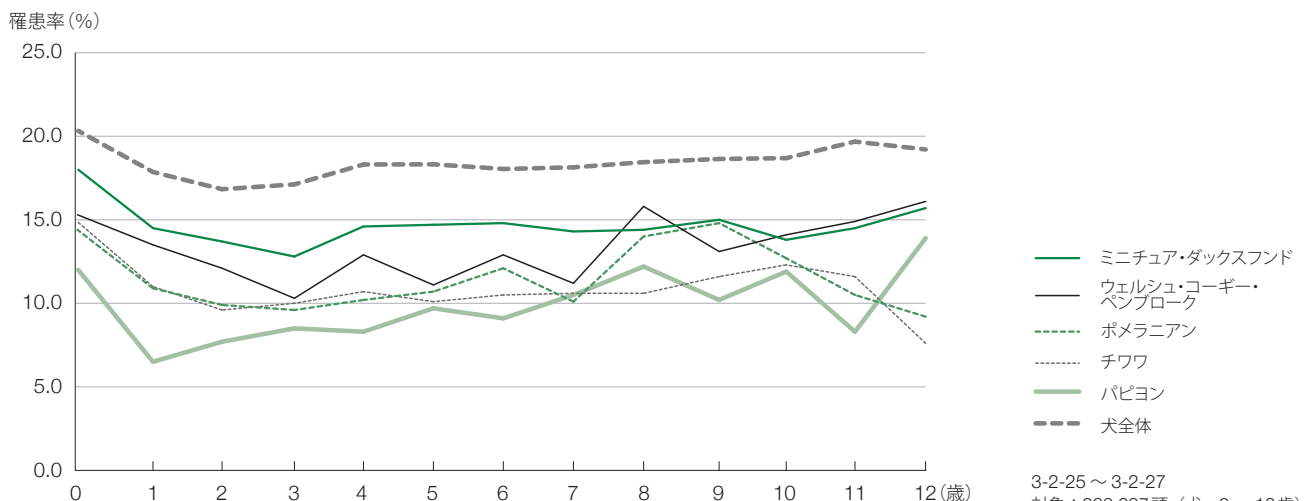
3-2-25 品種別の年齢推移①



3-2-26 品種別の年齢推移②



3-2-27 品種別の年齢推移③



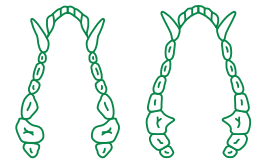
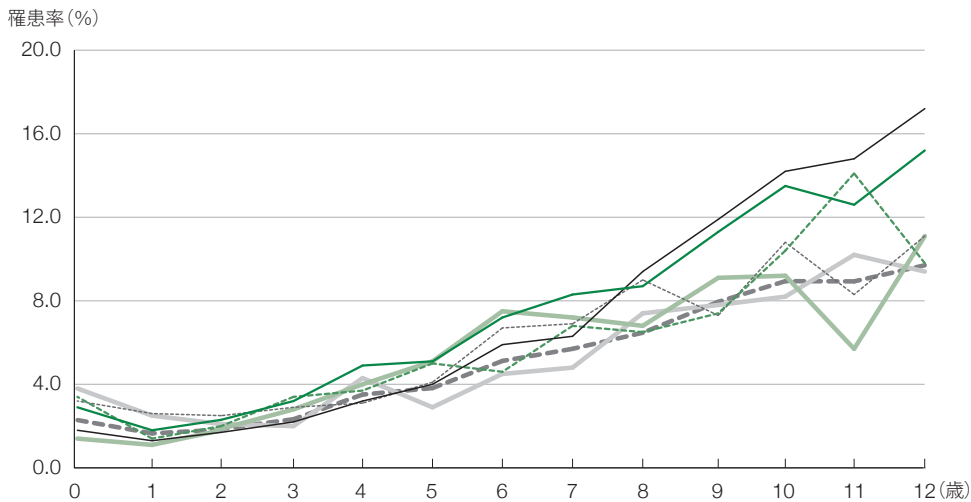
3-2-25～3-2-27
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。



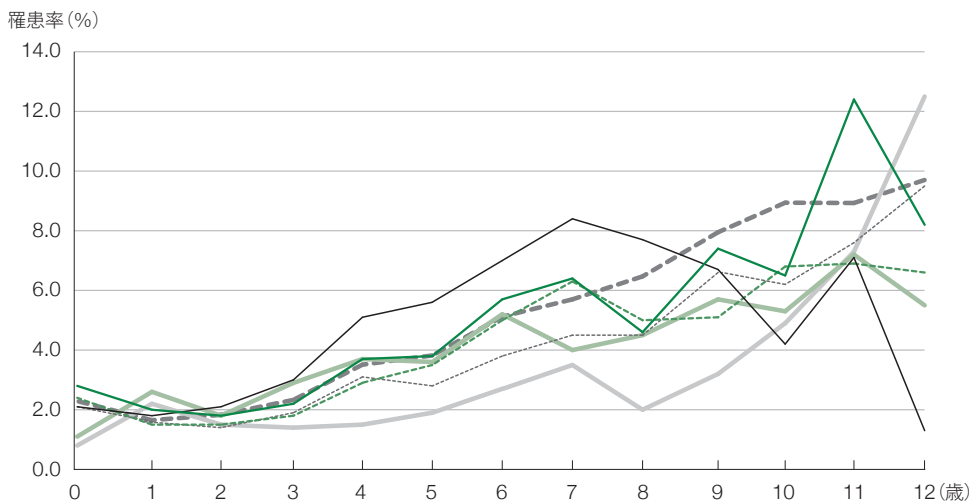
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

10. 歯および口腔の疾患

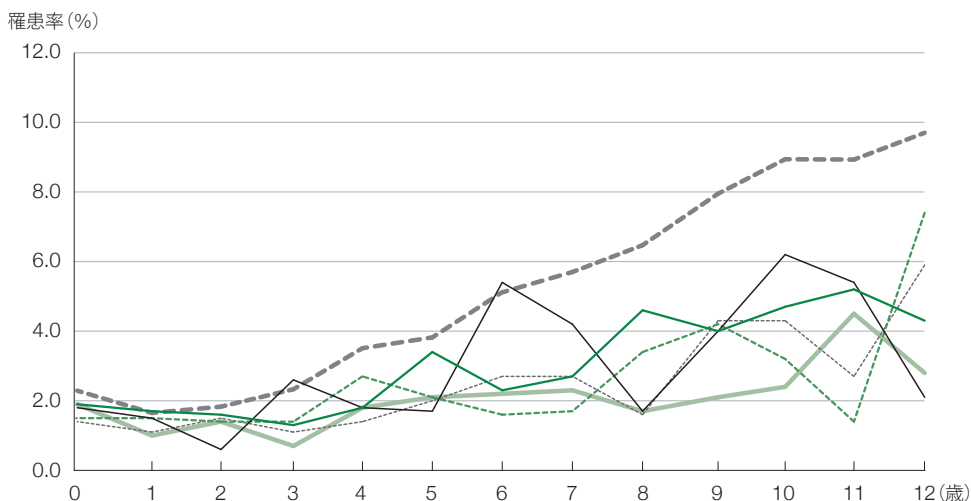
3-2-28 品種別の年齢推移①



3-2-29 品種別の年齢推移②



3-2-30 品種別の年齢推移③

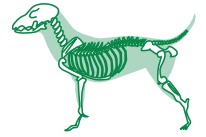
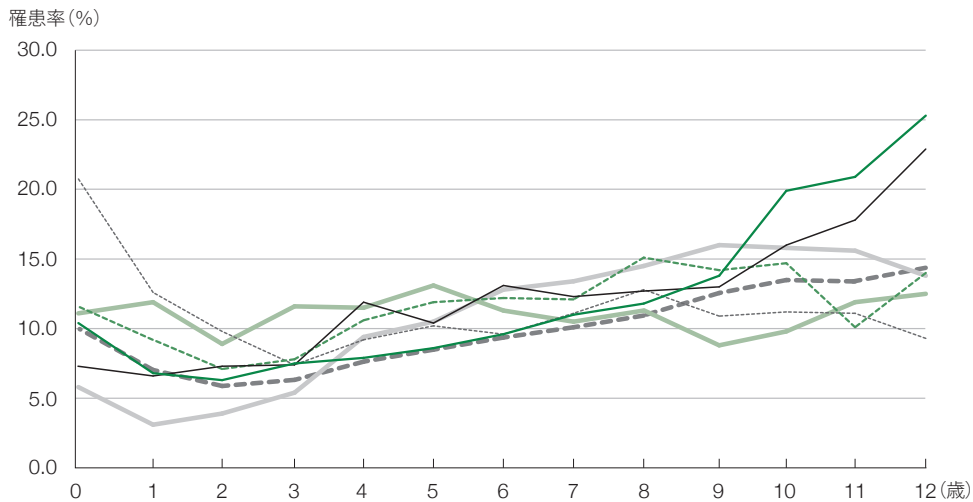


3-2-28～3-2-30
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

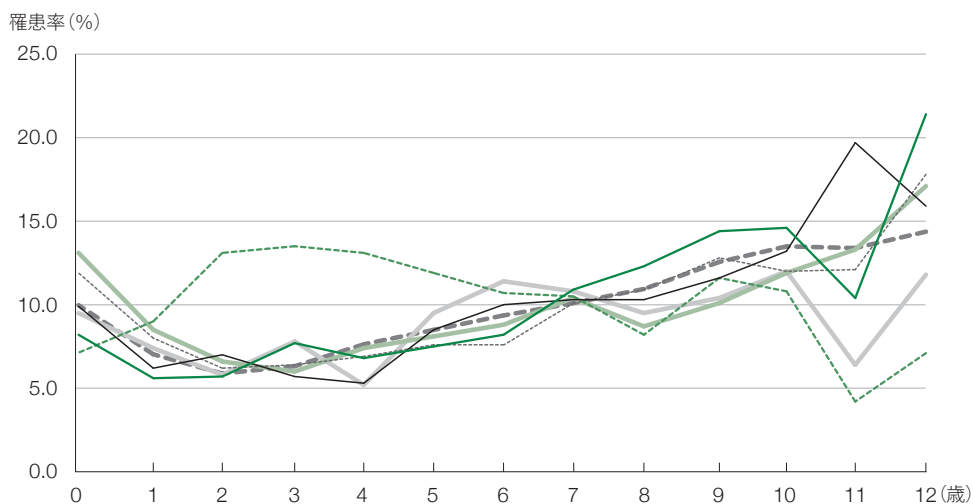
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

11. 筋骨格系疾患

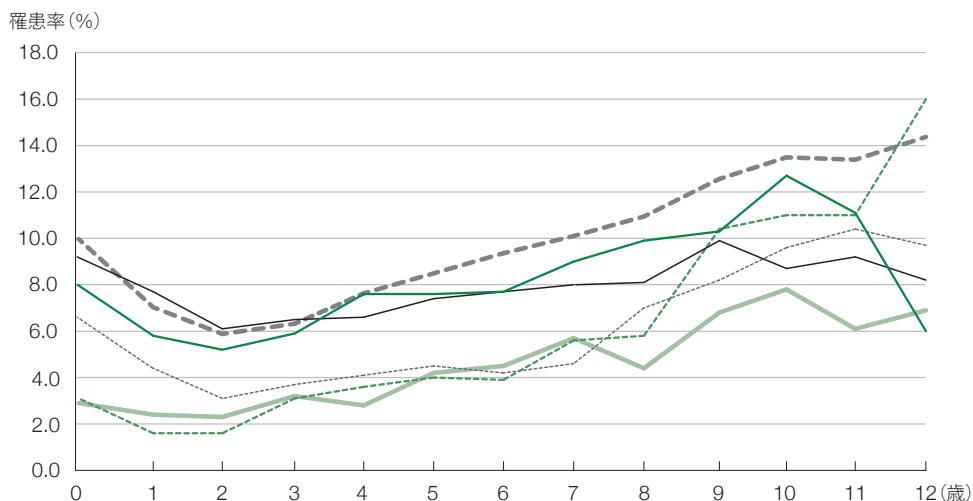
3-2-31 品種別の年齢推移①



3-2-32 品種別の年齢推移②



3-2-33 品種別の年齢推移③

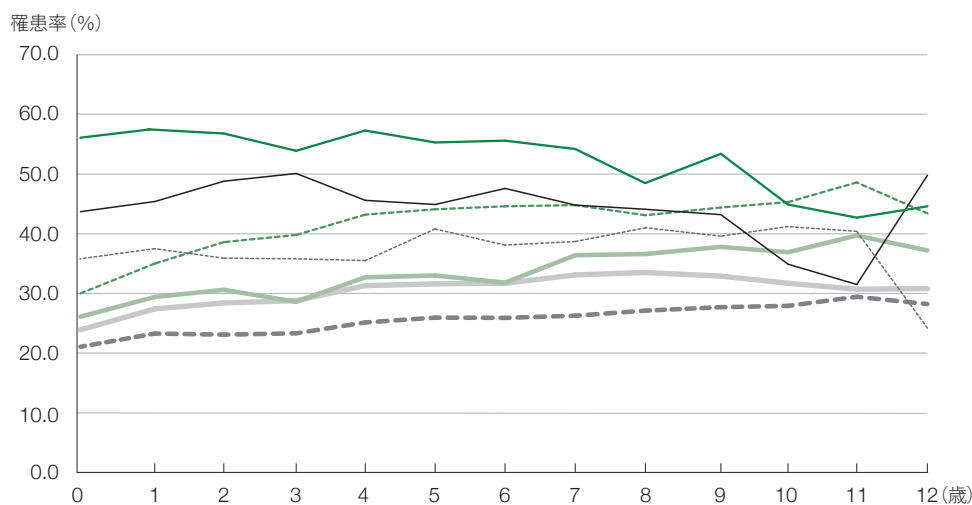


3-2-31～3-2-33
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

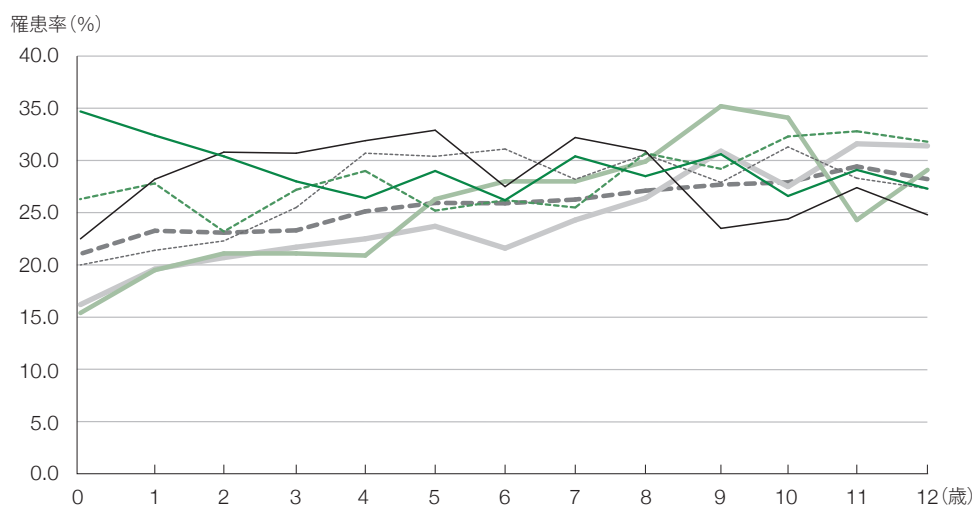
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

12. 皮膚疾患

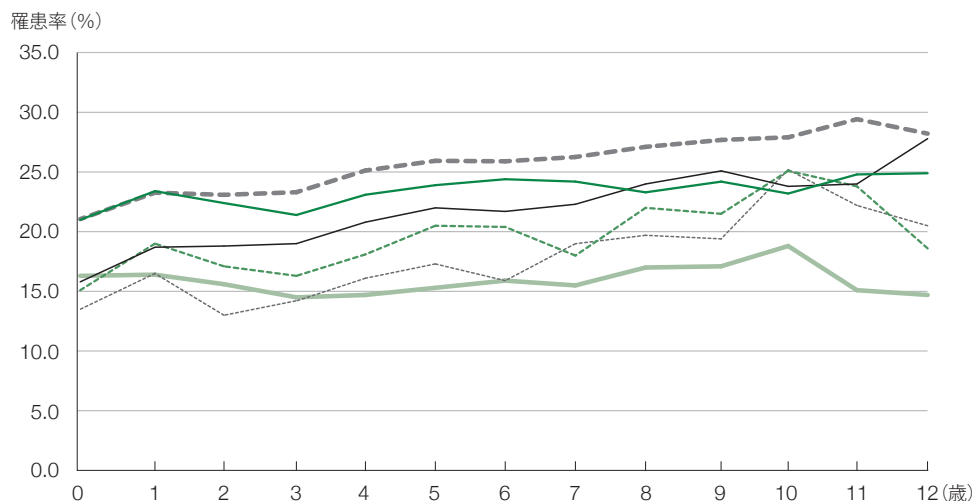
3-2-34 品種別の年齢推移①



3-2-35 品種別の年齢推移②



3-2-36 品種別の年齢推移③

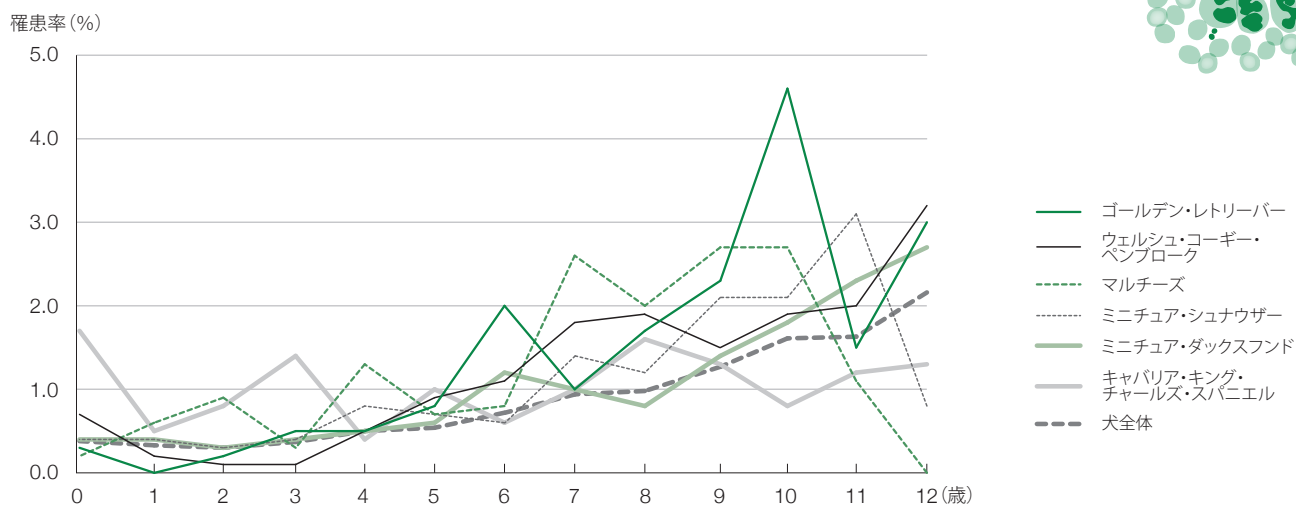


3-2-34～3-2-36
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

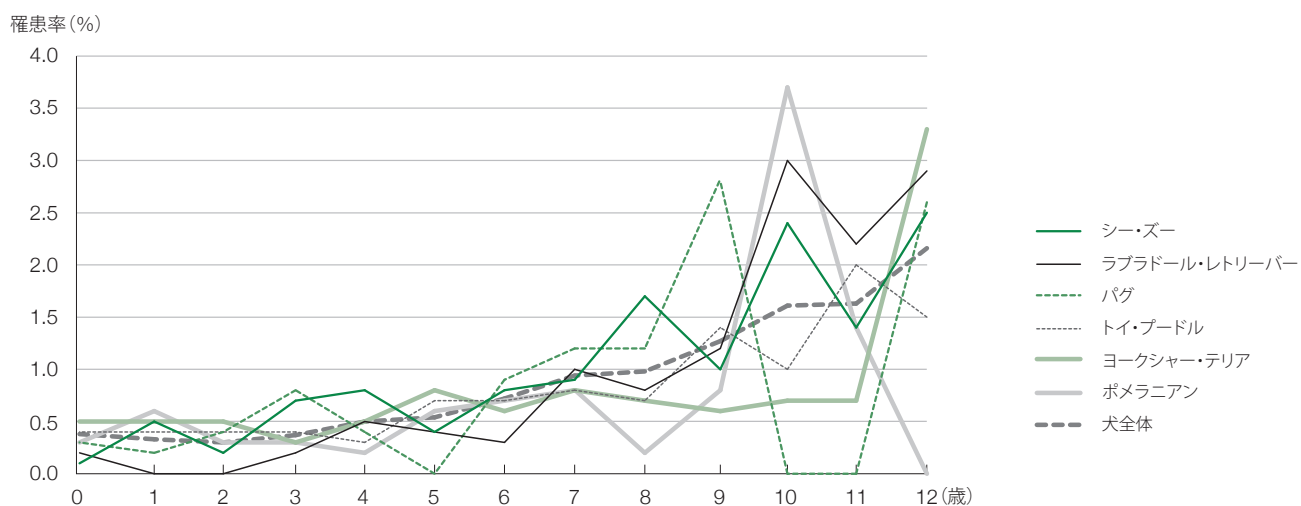
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

13. 血液・免疫疾患

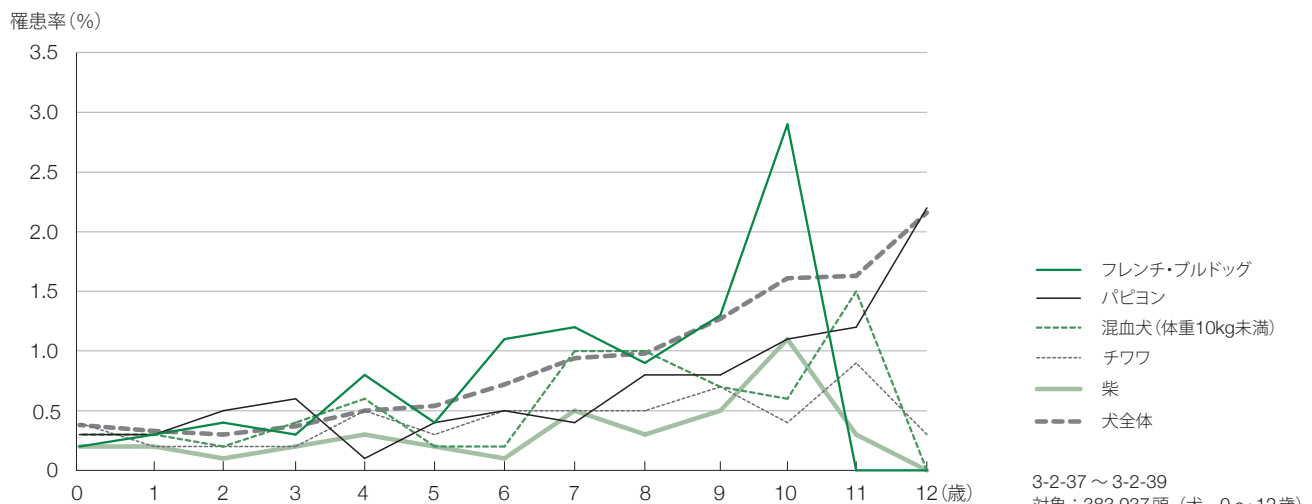
3-2-37 品種別の年齢推移①



3-2-38 品種別の年齢推移②



3-2-39 品種別の年齢推移③

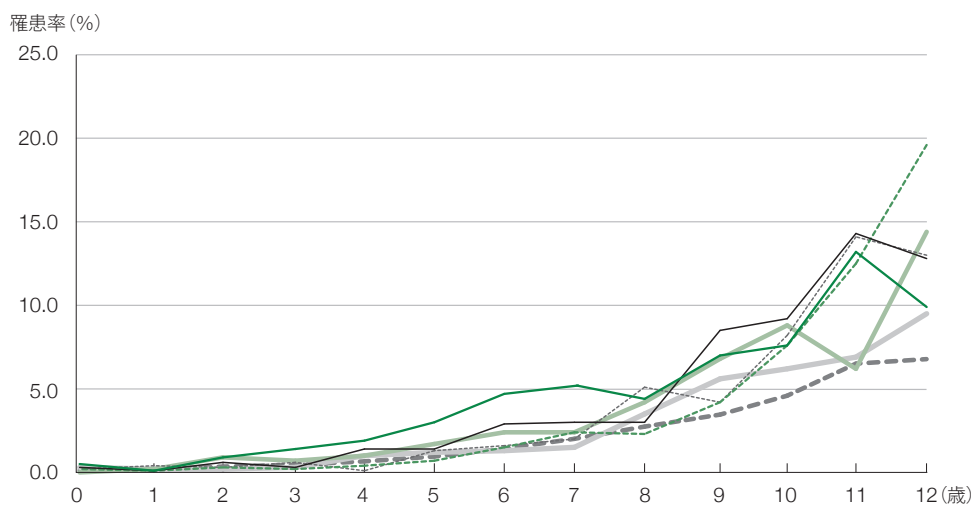
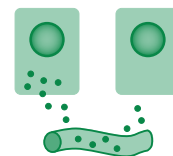


3-2-37～3-2-39
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

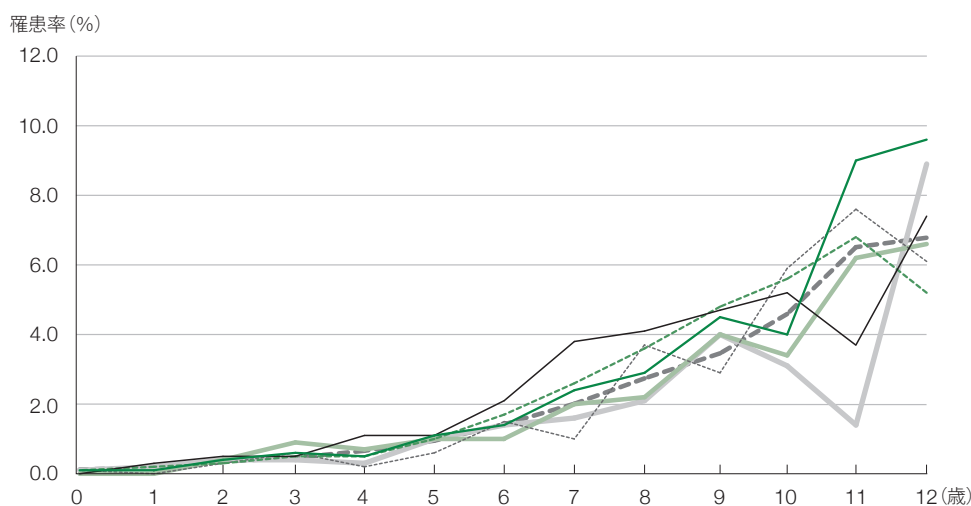


14. 内分泌疾患

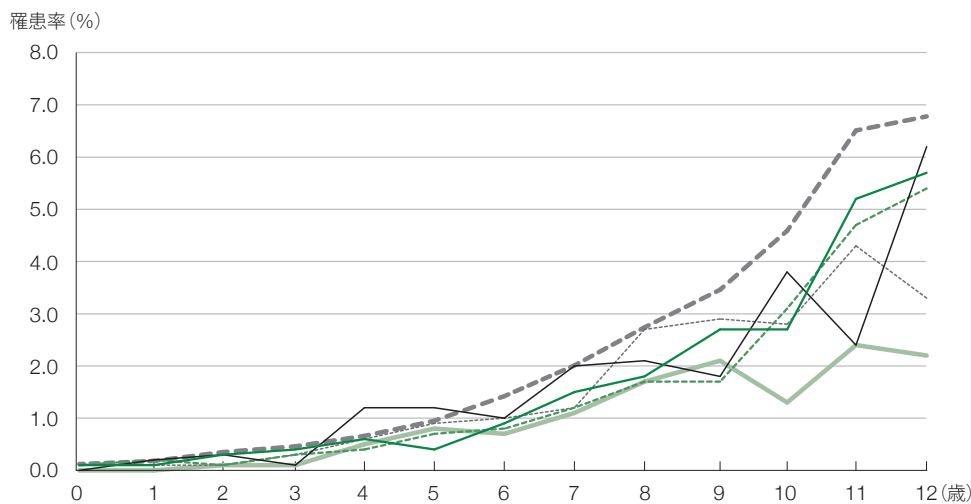
3-2-40 品種別の年齢推移①



3-2-41 品種別の年齢推移②



3-2-42 品種別の年齢推移③

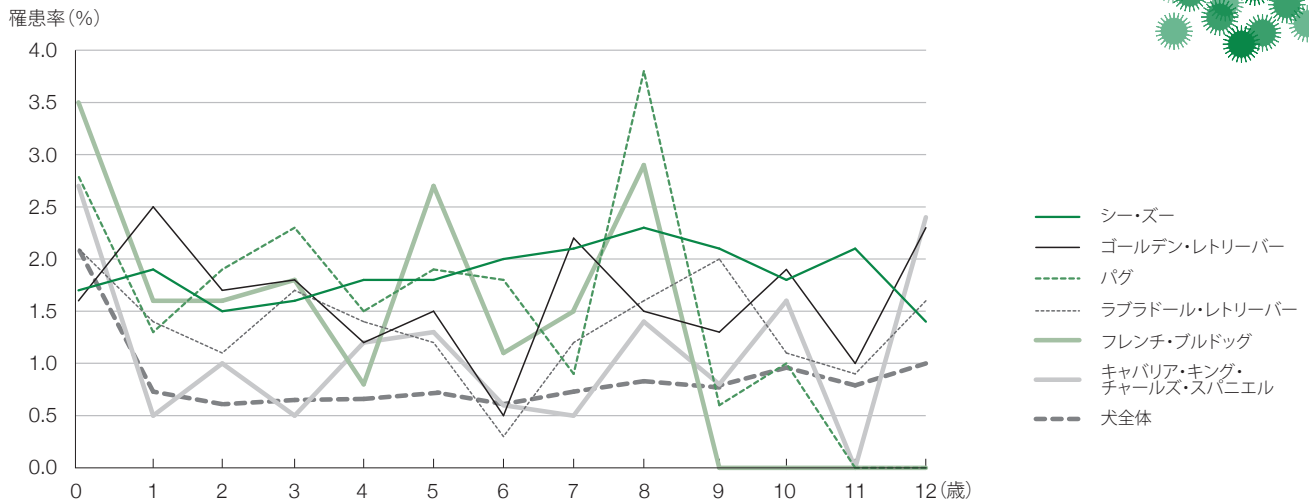


3-2-40～3-2-42
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

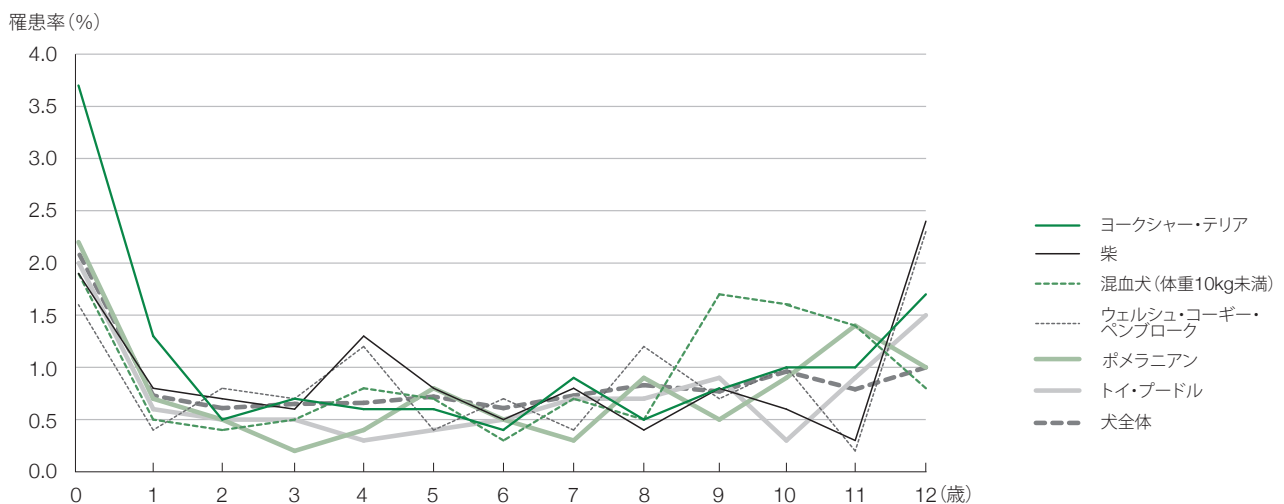
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

15. 感染症

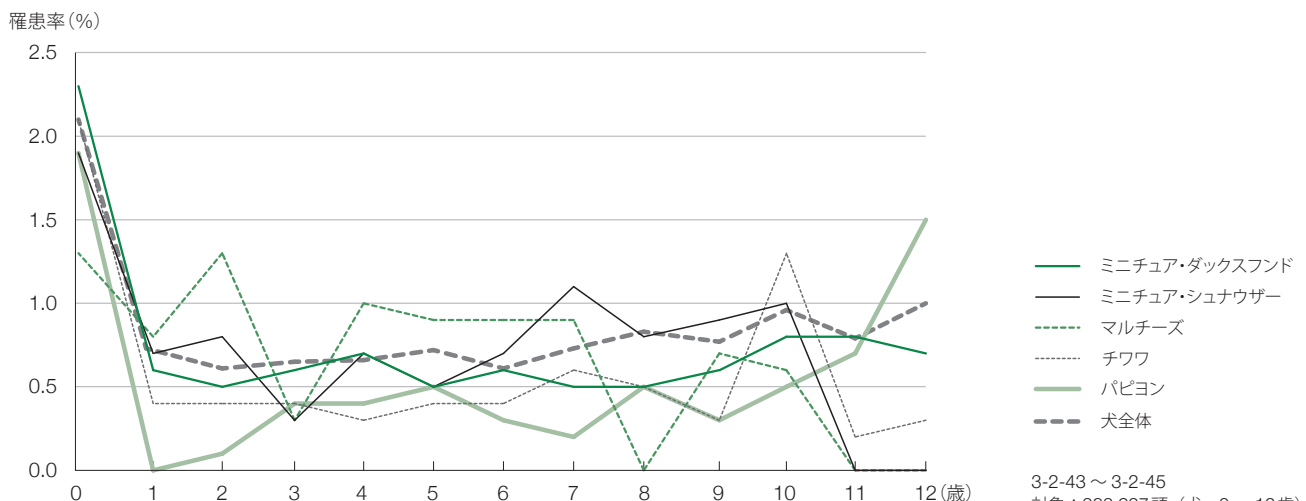
3-2-43 品種別の年齢推移①



3-2-44 品種別の年齢推移②



3-2-45 品種別の年齢推移③

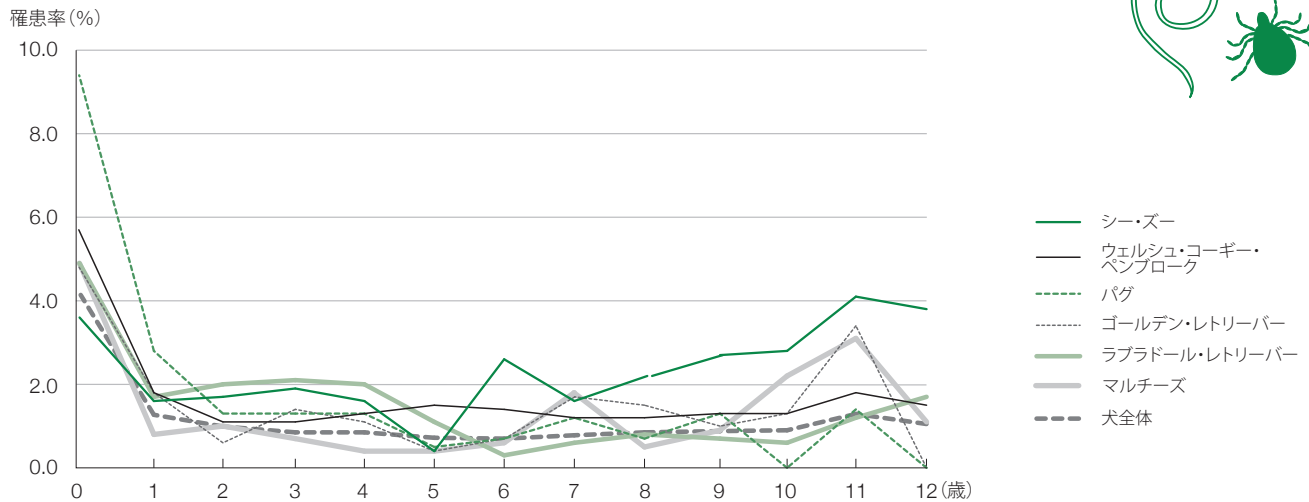


3-2-43～3-2-45
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

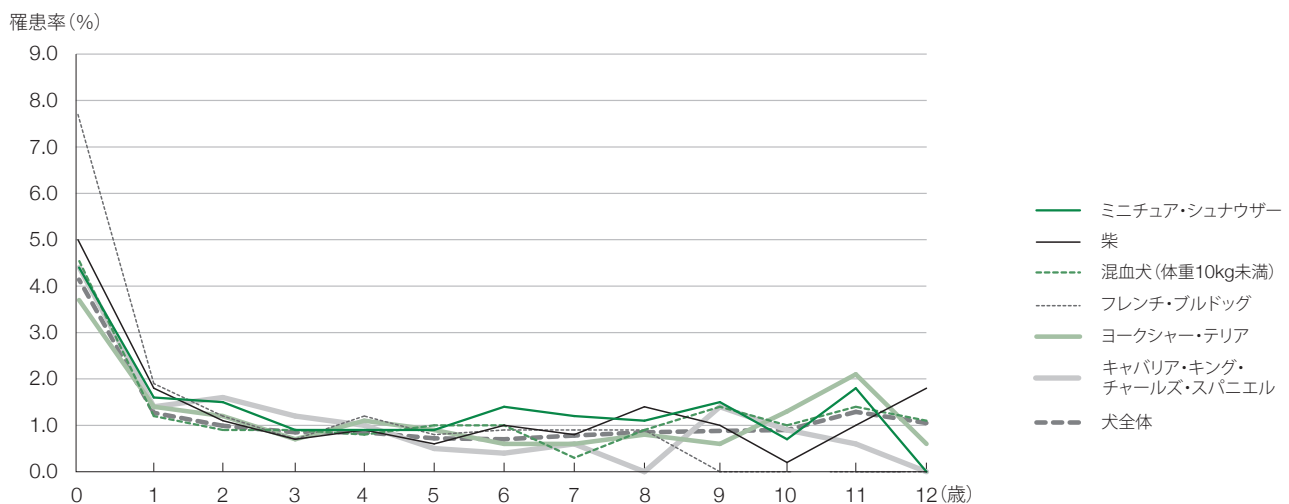
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

16. 寄生虫症

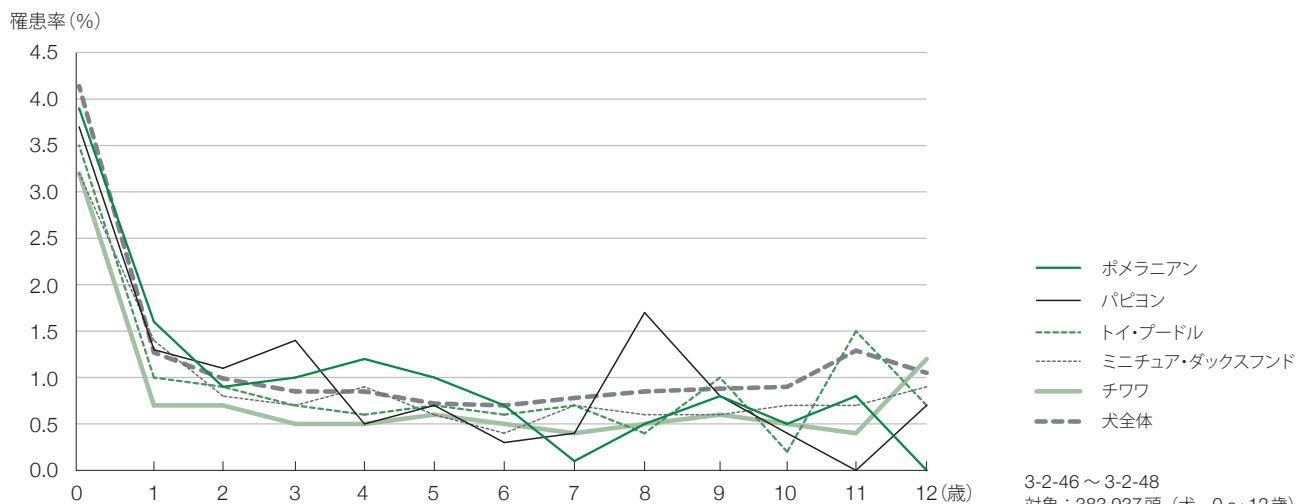
3-2-46 品種別の年齢推移①



3-2-47 品種別の年齢推移②



3-2-48 品種別の年齢推移③

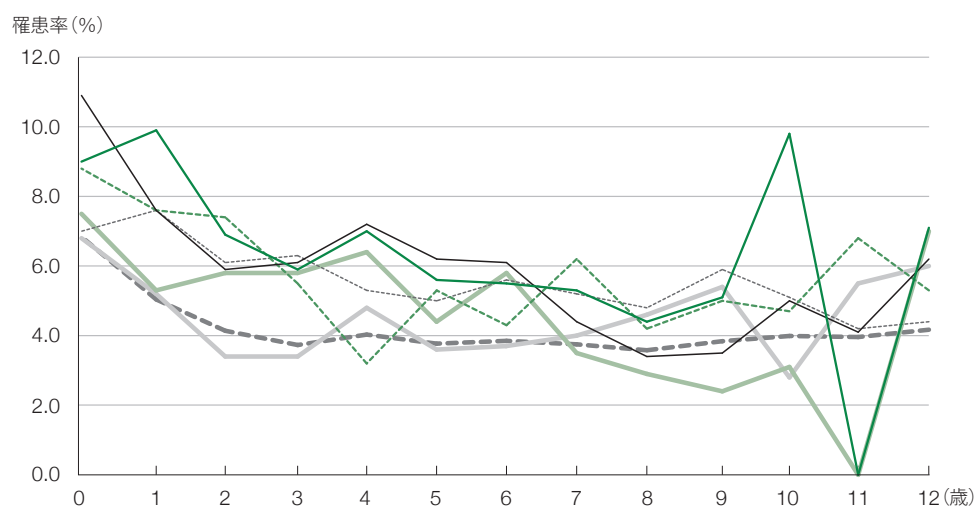


3-2-46～3-2-48
対象：383,937頭（犬、0～12歳）。

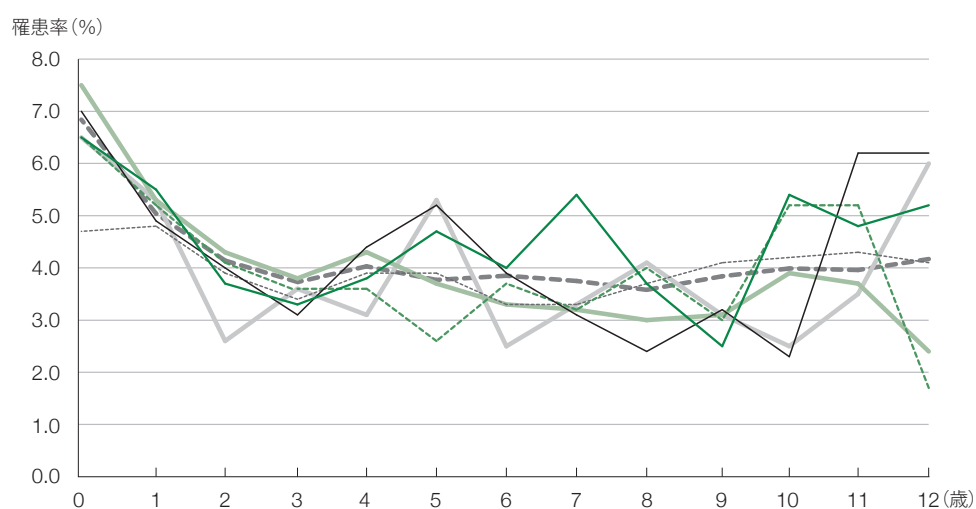
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

17. 損傷、中毒およびその他の外因の影響

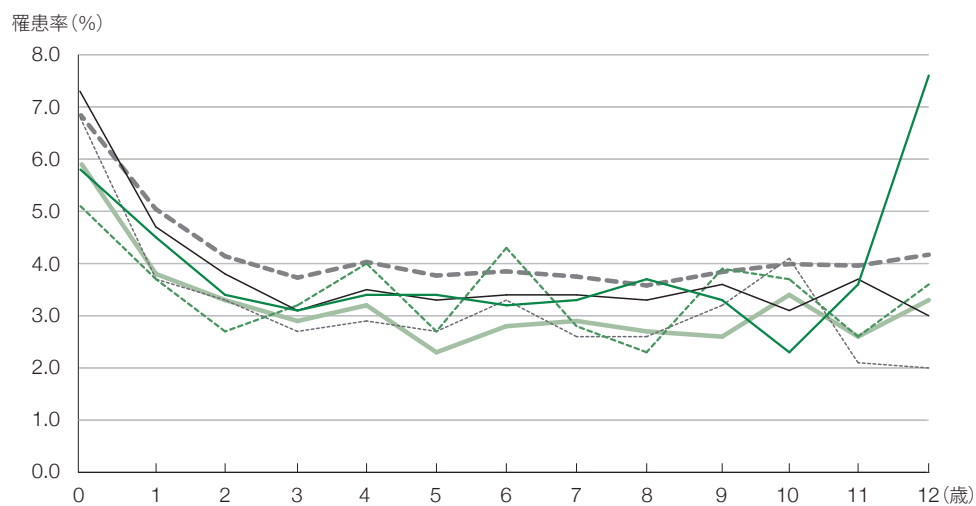
3-2-49 品種別の年齢推移①



3-2-50 品種別の年齢推移②



3-2-51 品種別の年齢推移③

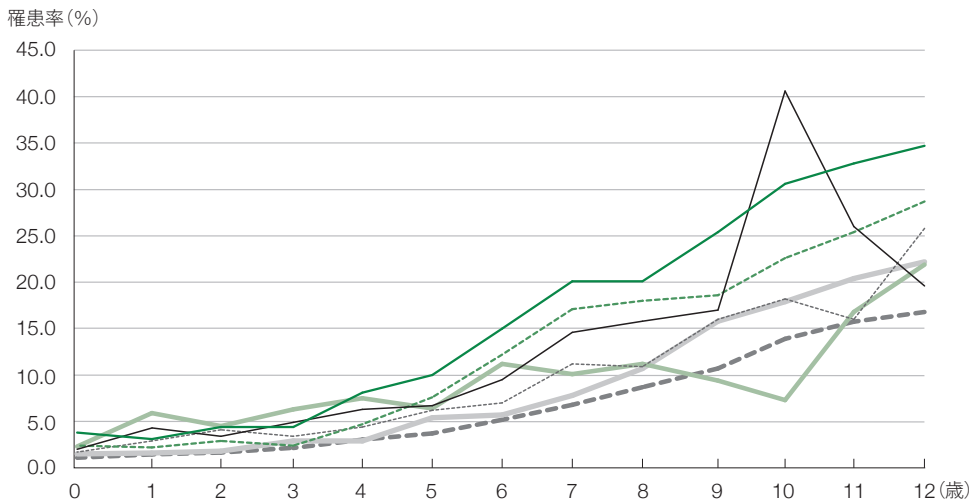


3-2-49～3-2-51
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

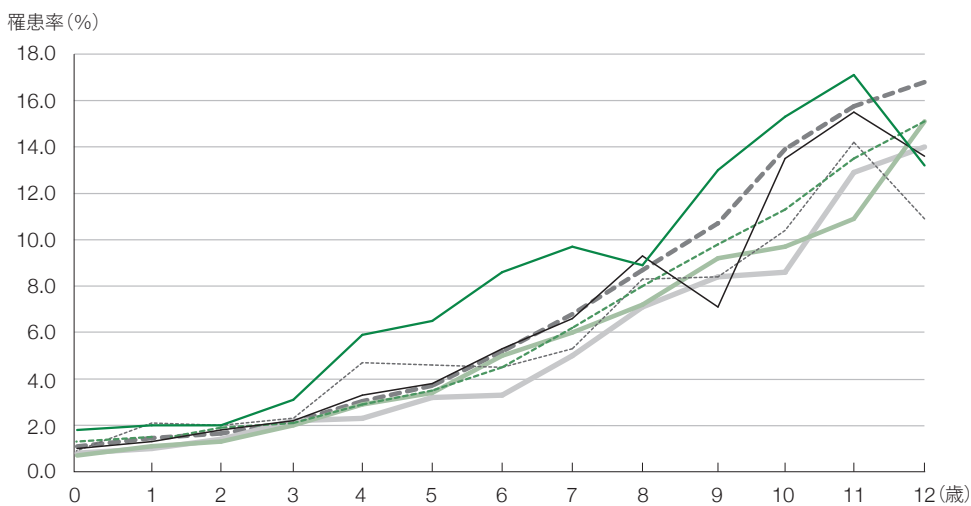
第2章 疾患別品種別の統計(犬)

18. 腫瘍疾患

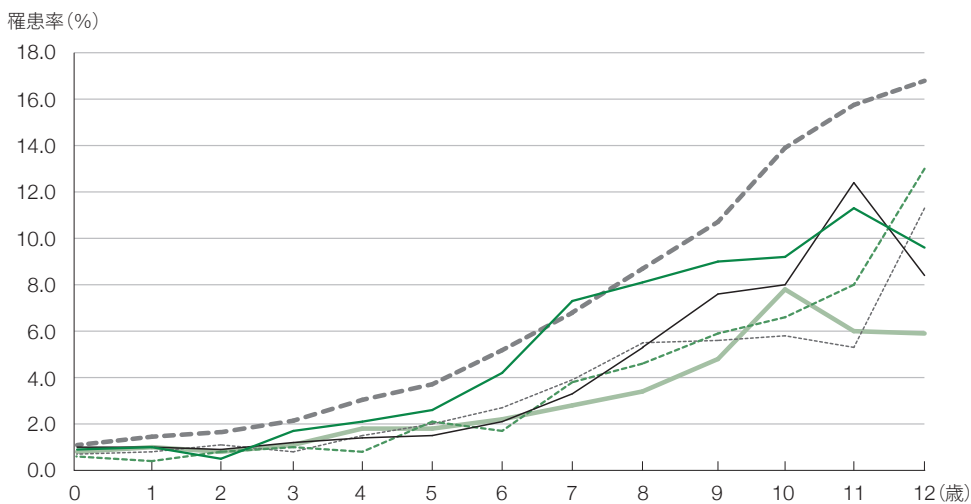
3-2-52 品種別の年齢推移①



3-2-53 品種別の年齢推移②



3-2-54 品種別の年齢推移③

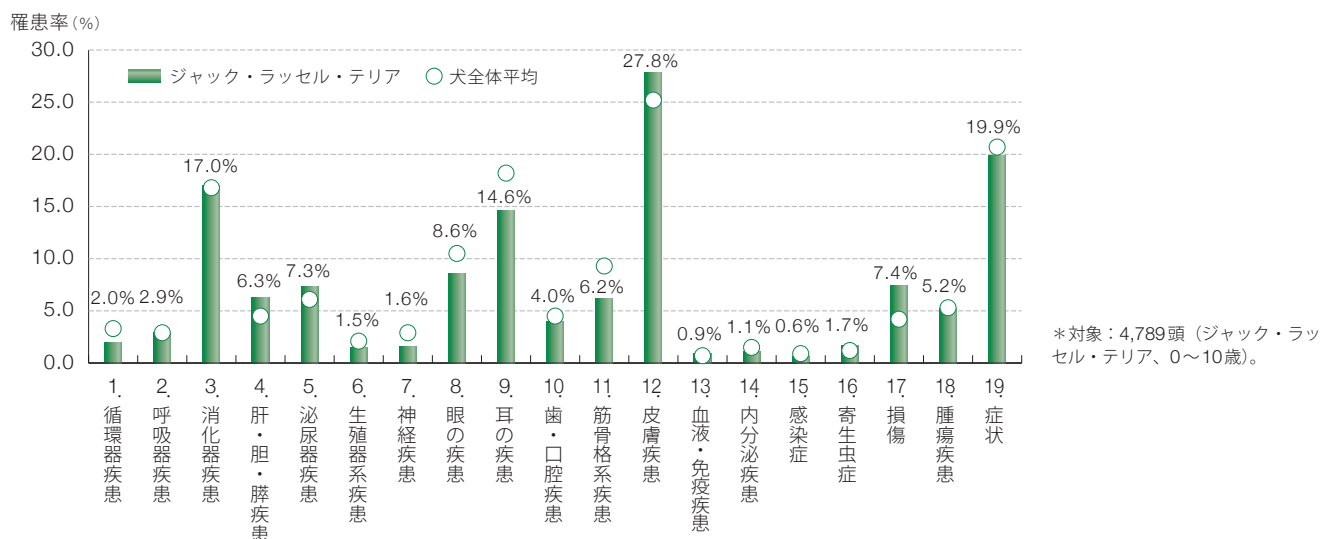


3-2-52～3-2-54
対象：383,937頭(犬、0～12歳)。

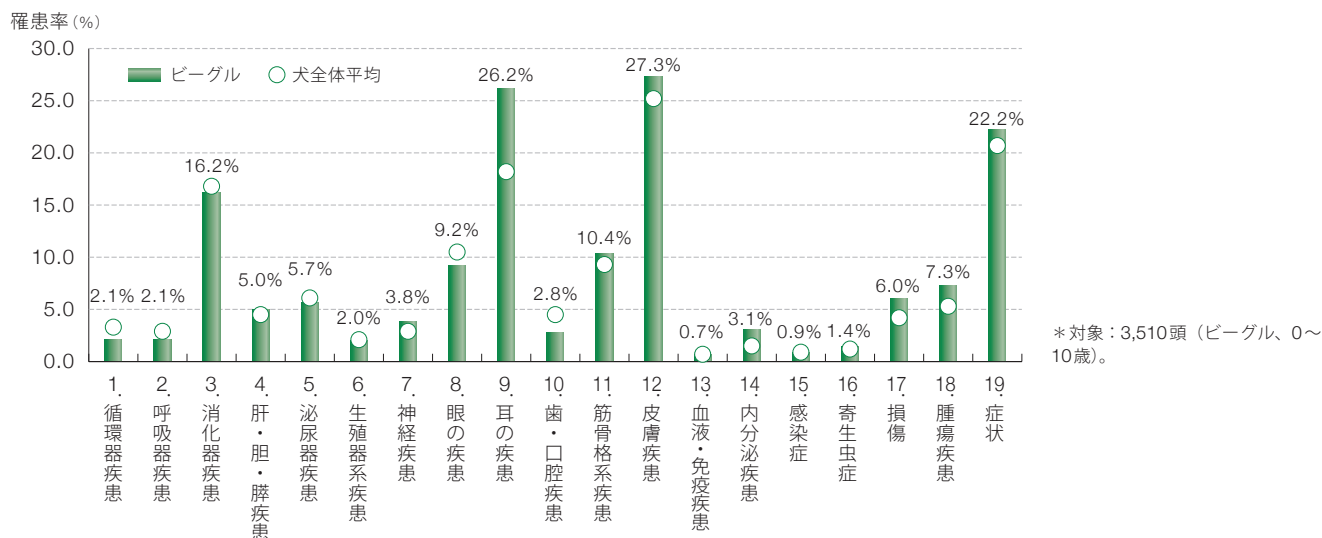
第2章 品種別の統計(犬)

19. ジャック・ラッセル・テリア、ビーグル、ミニチュア・ピンシャー

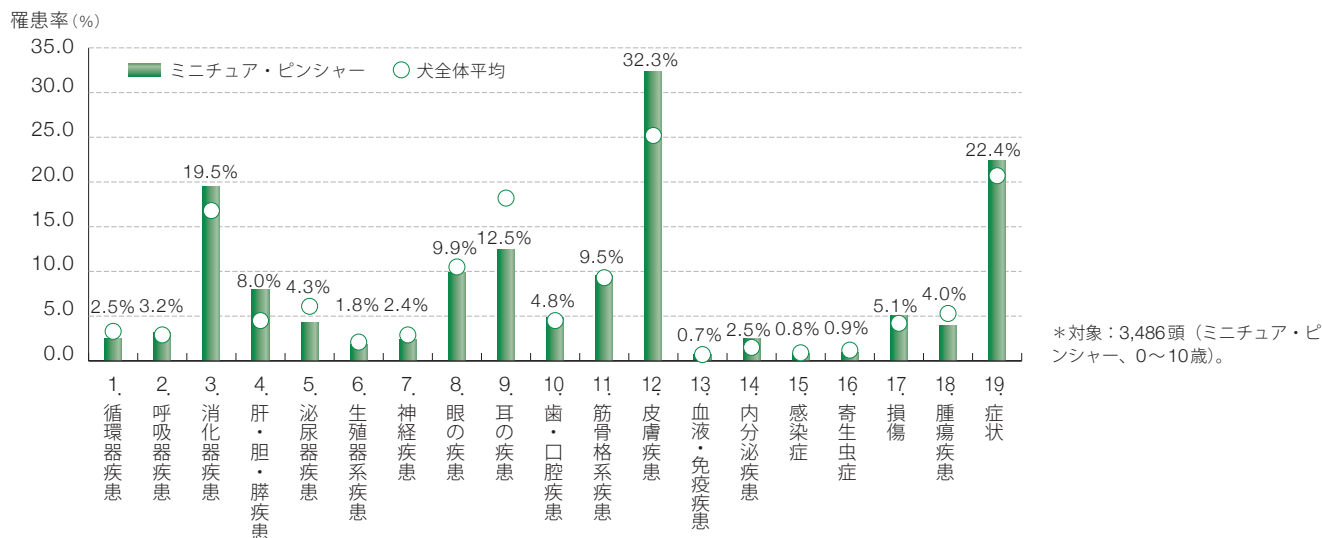
3-2-55 ジャック・ラッセル・テリア



3-2-56 ビーグル



3-2-57 ミニチュア・ピンシャー

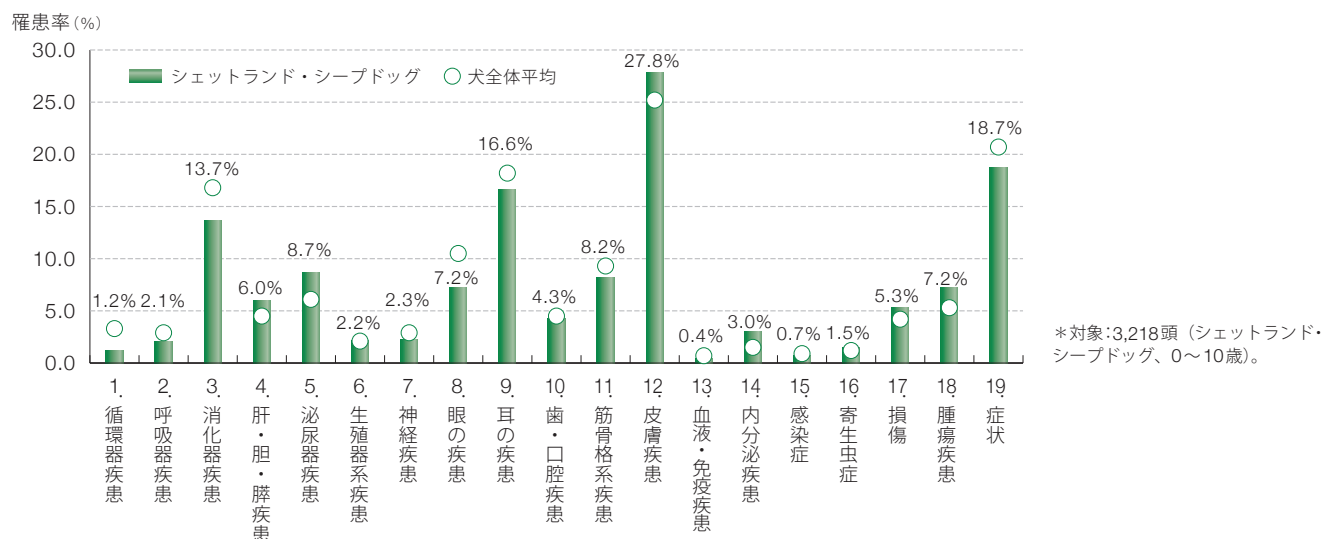




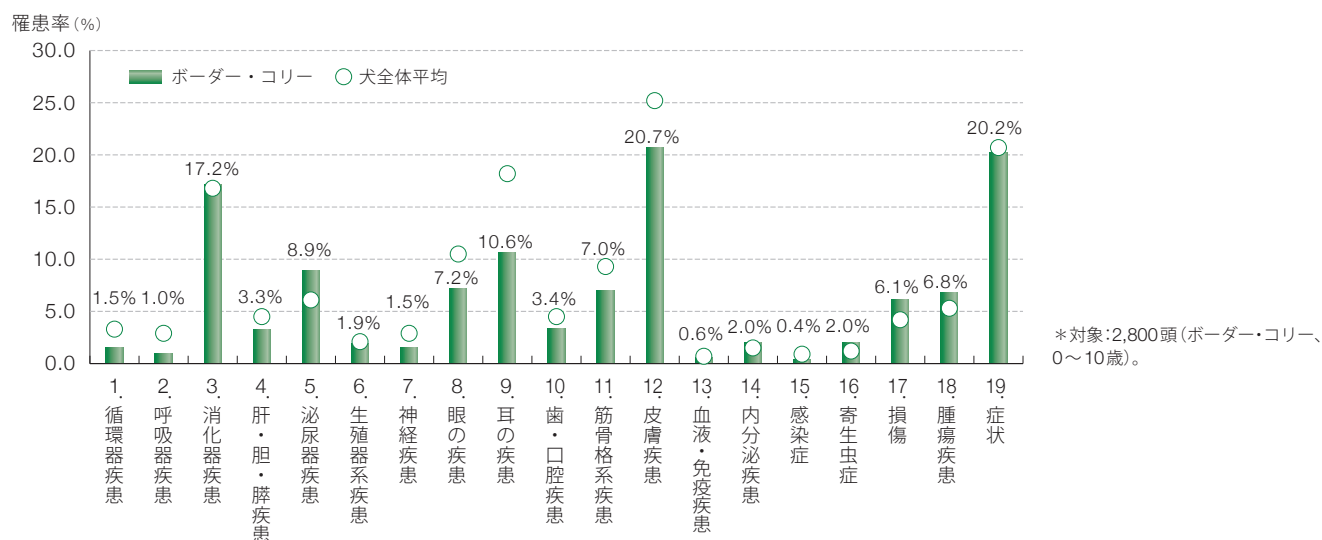
第2章 品種別の統計(犬)

20. シェットランド・シープドッグ、ボーダー・コリー、混血犬(体重10kg以上20kg未満)

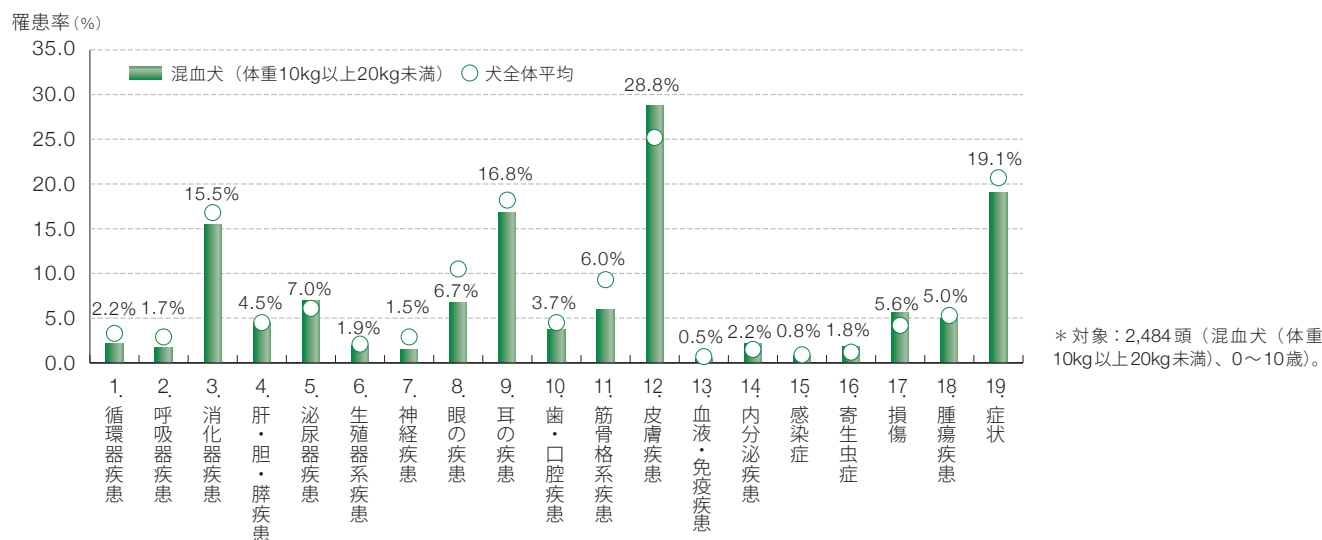
3-2-58 シェットランド・シープドッグ



3-2-59 ボーダー・コリー



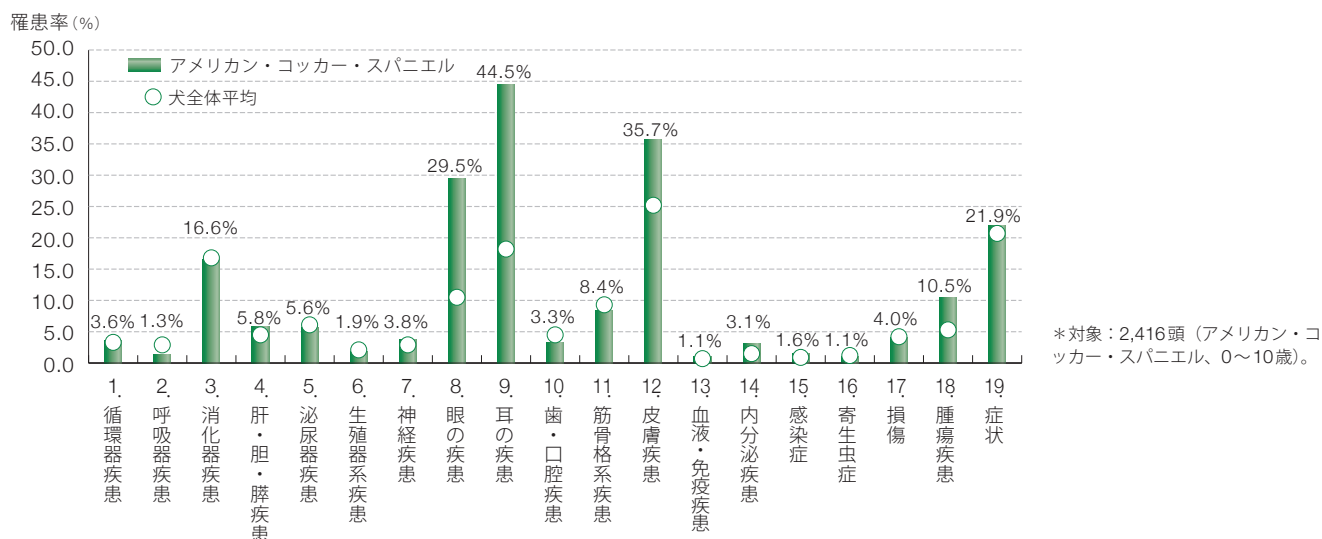
3-2-60 混血犬(体重10kg以上20kg未満)



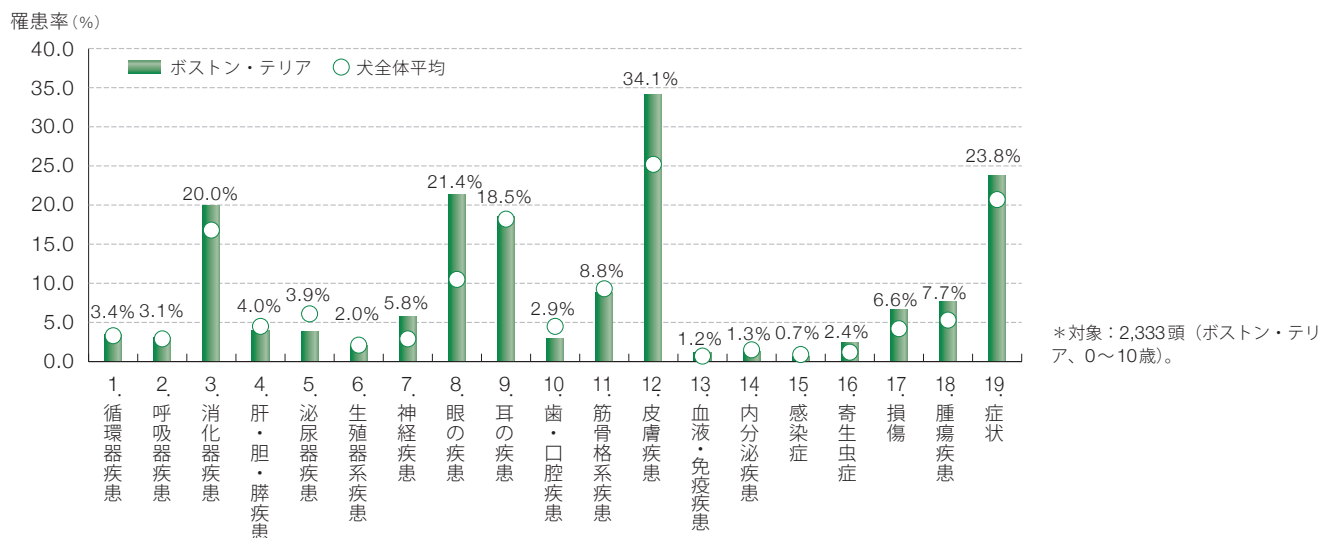
第2章 品種別の統計(犬)

21. アメリカン・コッカー・スパニエル、ボストン・テリア、イタリアン・グレーハウンド

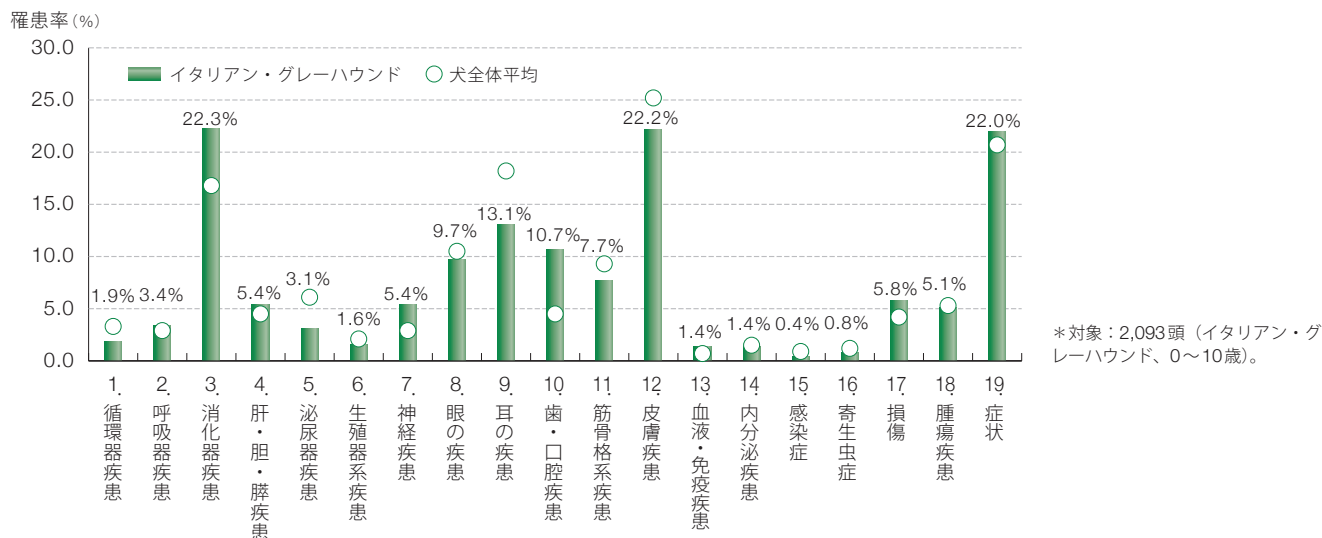
3-2-61 アメリカン・コッカー・スパニエル



3-2-62 ボストン・テリア



3-2-63 イタリアン・グレーハウンド

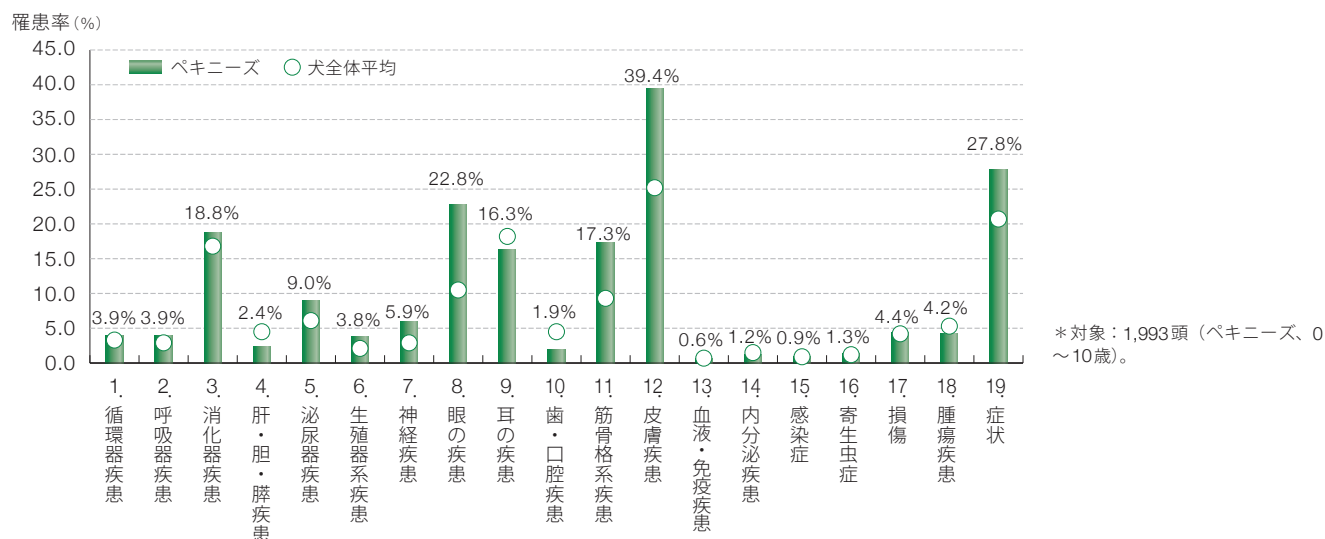




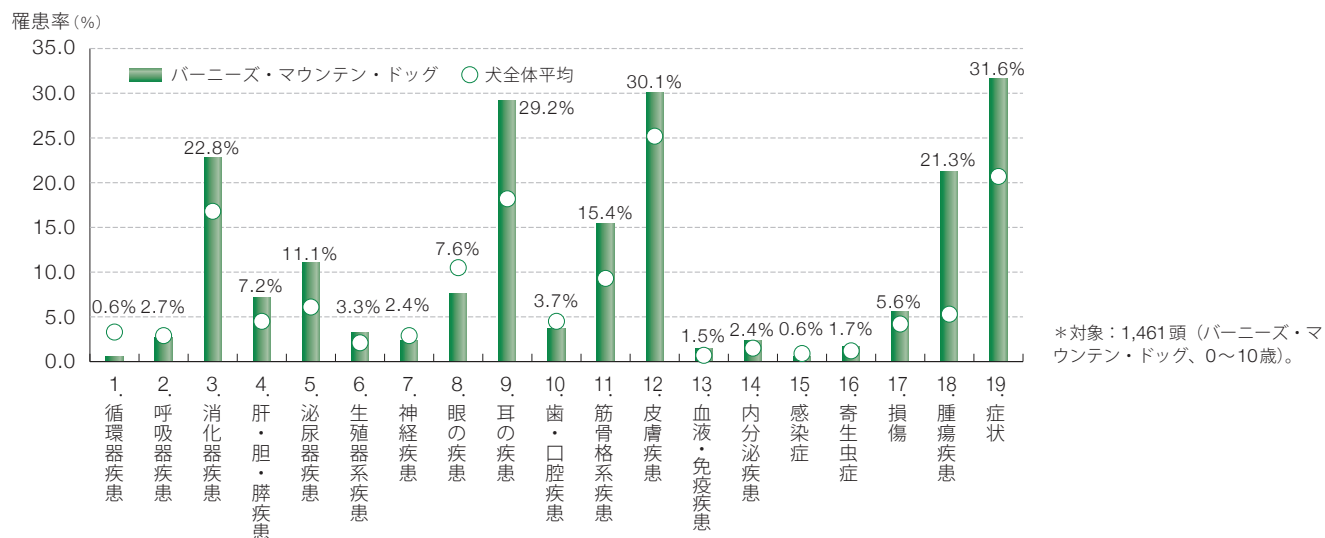
第2章 品種別の統計(犬)

22. ペキニーズ、バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア

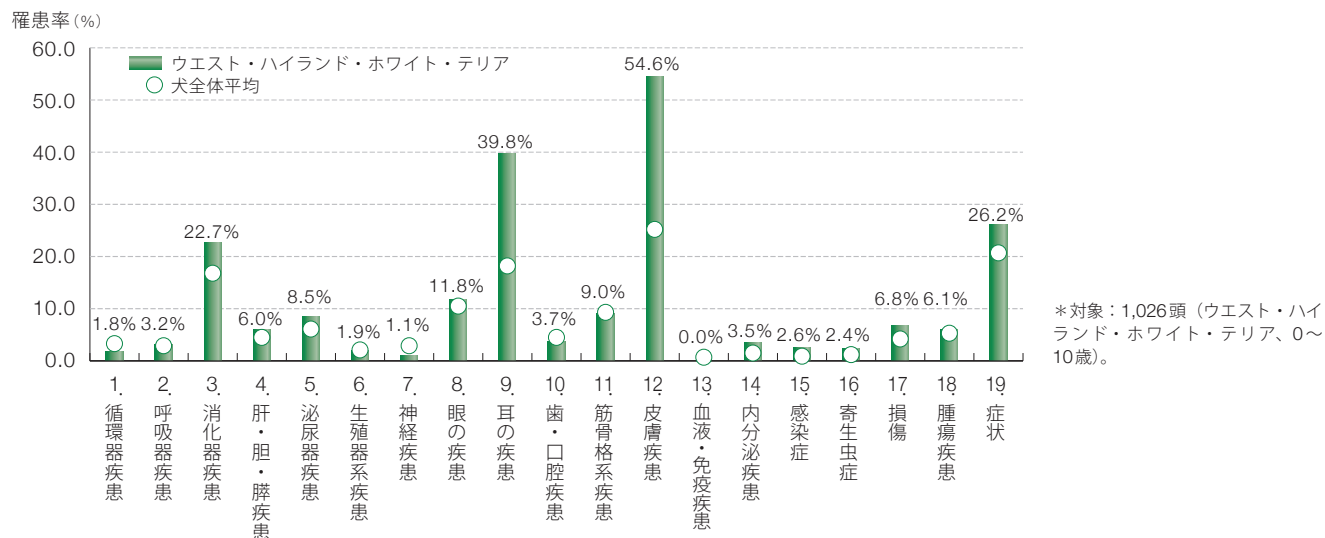
3-2-64 ペキニーズ



3-2-65 バーニーズ・マウンテン・ドッグ



3-2-66 ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア



弁膜症を中心とした疫学的考察

JASMINE どうぶつ循環器病センター 高野裕史

1. はじめに

犬の循環器疾患における罹患率や好発品種の情報はこれまでにいくつか認められているが^{1,3)}、そのほとんどは海外における報告であり、日本国内の調査ではない。日本での血統や人気品種の差などにより、罹患傾向は海外のそれとは大きく異なる可能性が考えられる。疾患の疫学情報を診療や研究に生かすには日本国内の情報が必須である。本稿では、アニコム損保における循環器疾患に対する請求より疫学情報を抽出し、診断の内訳、男女差、品種による特性などの比較・検討を行った。

2. 対象および検討方法

調査対象は2012年度にどうぶつ健保の契約を開始した犬430,655頭とし、1年間の契約を満了もしくは死亡解約するまでのそれぞれ1年間を観察期間とした。対象契約から循環器系疾患で請求があった犬を発症個体として、罹患率を算出した。また、重複する同一個体の請求は除外した。罹患率の比較にはオッズ比を用いた。請求対象の診断内訳を表1に示す。

表1 循環器疾患で請求があった犬の疾患分類の内訳*

分類	発症頭数(頭)
後天性心疾患	6,705
その他(詳細な診断が不明な循環器疾患)	3,277
先天性心疾患	121
リンパ管、リンパ節、血管、血栓の疾患	53
合計	10,156

*重複する同一個体の請求は除外した。

3. 結果および考察

I 請求における循環器疾患の割合

全請求数のなかで循環器疾患の占める割合は4.2%であった(図1)。これは21に分類された項目のなかで第6位であった。

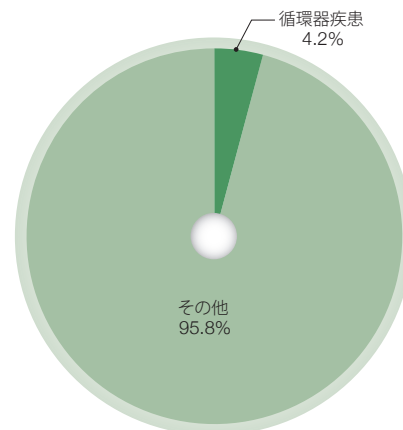


図1 全請求における循環器疾患の請求の割合

II 循環器疾患罹患率の男女差

全年齢における循環器疾患の罹患率は、全体で2.36%、男の子で2.57%、女の子で2.13%であった**。
男の子が若干多い割合を示し(図2)、有意な罹患率の男女差が認められた($P<0.0001$ 、オッズ比 1.21)。犬の心疾患の多くは弁膜症(粘液腫様変性による房室弁閉鎖不全症)であり、この疾患は男の子に多いことが知られている^{3,5)}。今回の検討においても弁膜症の罹患患者が多く含まれていることが予想された。

**年齢補正は行っていない。

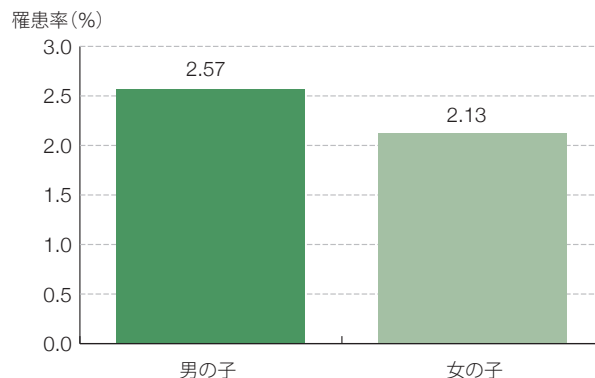


図2 循環器疾患罹患率の雌雄差**



III 循環器疾患の罹患率の年齢推移

罹患率は加齢にしたがって増加傾向を示した（図3）。15歳以上は「15+」として同一のグループとした。この傾向はその他の加齢性疾患と同様である。また5～6歳から徐々に罹患率は増加しており、これらの傾向には循環器疾患の多くを占める弁膜症の罹患傾向が多分に影響していると思われる⁴⁾。もちろん比較的若齢での診断が多い先天性心疾患もこのグラフに含まれているが、全体に占める割合は1.9%と少ないため、このグラフの傾向にはほとんど影響していないようである。

男の子は女の子と比較して常にやや高めの傾向を示した。

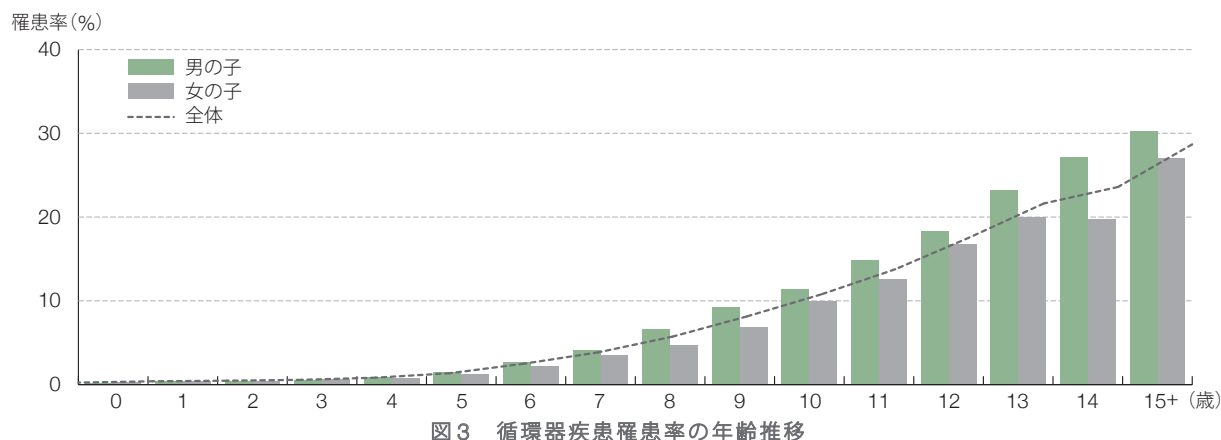


図3 循環器疾患罹患率の年齢推移

IV 品種別にみた循環器疾患罹患率

全品種での循環器疾患罹患率は2.36%であった***。図4では契約がある全品種のなかで、犬全体の罹患率を上回っており、なおかつ契約頭数が100頭以上の品種を選出し降順に列挙した。小型品種を緑のグラフで、中～大型品種をグレーのグラフで示している。

結果、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルが顕著に高い罹患率を示していることがわかった。これは同品種の弁膜症の罹患率が高いことが影響していると思われる。

第2位のシー・ズーの後には大型犬も続いていることがわかる。これらの品種には拡張型心筋症の好発品種も含まれている⁵⁾。わが国では大型犬の飼育頭数が少ないため、循環器疾患罹患患者の絶対数は少ないが、特定の大型品種では高率に循環器疾患に罹患していることがわかる。

また、わが国においてとくに人気の高い（今回は契約頭数が5,000件を超える）品種においては、オッズ比および有意差検定を実施した（全品種に対する特定品種のオッズ比として算出した。図5および表2）。

チワワはJASMINE どうぶつ循環器病センターにおいて僧帽弁修復術を実施する犬のなかでもっとも多い品種であるが、今回の結果ではオッズ比はさほど高くないことがわかる。実際の症例数が多いのは、顕著に多い飼育頭数（全体の約16%）が影響した結果かもしれない。またヨークシャー・テリアに関しては有意な差も認めていない。今回の検討では重症度や予後追跡調査は行っていないため、それらの品種による特性を含めた評価・解釈が今後必要であろう。

***年齢補正は行っていない。

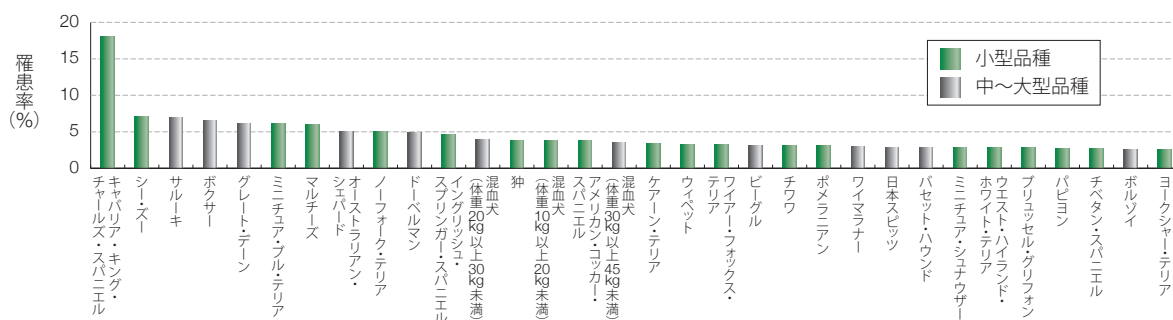


図4 品種別の循環器疾患罹患率***

表2 人気小型品種における循環疾患罹患率のオッズ比

	罹患頭数 (頭)	契約頭数 (頭)	罹患率 (%)	オッズ比	P値
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	1,216	6,750	18.01	10.199	<0.001*
シー・ズー	760	10,705	7.00	3.339	<0.001*
マルチーズ	438	7,262	6.03	2.732	<0.001*
チワワ	2,229	69,910	3.19	1.466	<0.001*
ポメラニアン	451	14,512	3.11	1.343	<0.001*
ミニチュア・シュナウザー	319	11,071	2.88	1.236	<0.001*
パピヨン	292	10,561	2.76	1.183	0.005*
ヨークシャー・テリア	379	14,826	2.55	1.090	0.106

*P値<0.05

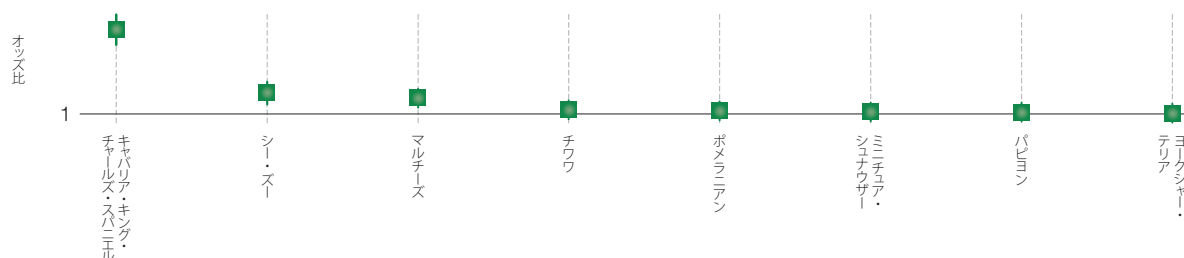


図5 人気小型品種における循環器疾患罹患率のオッズ比

V 小型品種における房室弁閉鎖不全症罹患率の男女差

IVの検討にて選出した8品種において、房室弁閉鎖不全症罹患率男女差を個別に比較した(表3)。“房室弁閉鎖不全症”は、診断項目のなかから、「僧帽弁閉鎖不全症」、「三尖弁閉鎖不全症」、「弁閉鎖不全症・弁膜症」をまとめたものとした。

結果、ヨークシャー・テリア、チワワ、ポメラニアン、シーズー、マルチーズでは有意な男女差が認められたものの、その他のミニチュア・シュナウザー、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、パピヨンでは有意な差は認められなかった。弁膜症は男の子で好発することが知られているが^{3,5)}、品種によっては差がないことが判明した(図6)。

品種間で男女差に幅があることは、興味深い結果であった。このことは品種ごとにリスク因子が異なることを示し、臨床予後評価に大変有用な情報となるであろう。

表3 小型品種における房室弁閉鎖不全症罹患率の男女差

	男の子の罹患率(%)	女の子の罹患率(%)	オッズ比	P値
パピヨン	1.16	1.15	1.009	0.963
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	9.99	9.11	1.108	0.217
ミニチュア・シュナウザー	1.61	1.29	1.247	0.169
マルチーズ	3.28	2.43	1.359	0.033*
シー・ズー	3.44	2.51	1.385	0.005*
ポメラニアン	1.59	1.12	1.432	0.015*
チワワ	1.82	1.17	1.565	<0.001*
ヨークシャー・テリア	1.04	0.67	1.566	0.015*

*P値<0.05

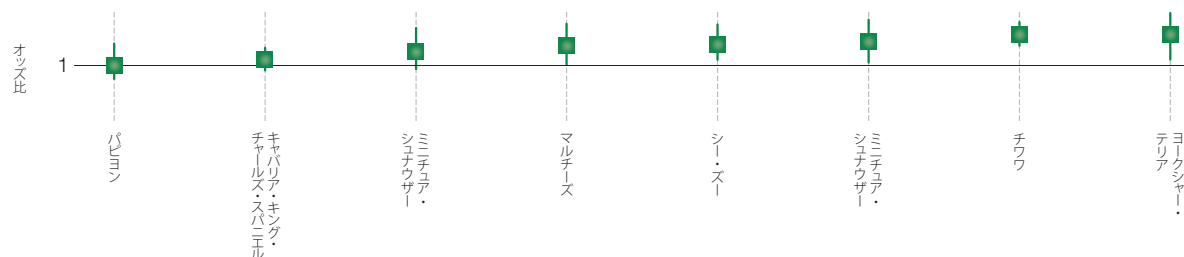


図6 小型品種の男の子における房室弁閉鎖不全症罹患率のオッズ比



VI 小型品種における房室弁閉鎖不全症罹患率の年齢推移

Vの検討で選出した品種および疾患群において、罹患率の年齢推移も評価を行った（図7）。各品種において、加齢的に罹患率の増加傾向を示していることは同一の所見であるが、他品種では5～6歳から罹患率が増加してくる傾向が認められるのに対して、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルでは3～4歳と、ほかの品種より若齢から罹患率が増加していることがわかる。これはこれまでの報告と同様で³⁾、弁膜症（房室弁閉鎖不全症）は心雑音の聴取をきっかけに診断が下されることが多いため、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルではより若齢から僧帽弁逆流が生じていることがうかがわれる。

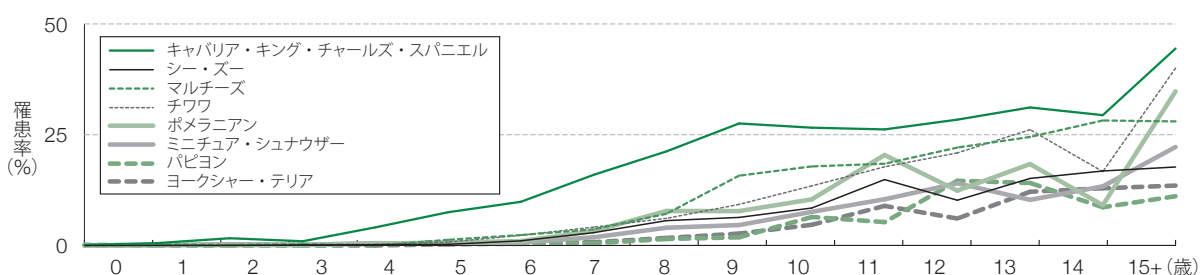


図7 小型品種における房室弁閉鎖不全症罹患率の年齢推移の比較

4. 結論

今回の結果より、日本の家庭飼育犬における循環器疾患の罹患率やその特性が明らかとなった。母集団は保険加入犬のみであり、年齢や飼い主の意識などのバイアスを考慮すべきであるが、循環器疾患による請求件数が1万件以上のデータ量での分析である点では、有意義な情報であると考えられる。

今回の検討では犬の循環器疾患罹患率には品種特異性が認められた。日本では大型品種の循環器疾患に遭遇することは多くないが、特定の大型品種では罹患率が高いことも結果から読み取れた。全体に占める割合が多い後天性心疾患が罹患率に影響していることが予想され、罹患率の高い品種から推測するとやはり弁膜症と心筋症が大きく影響していることがうかがわれる。

また、近年人気が高い小型品種に絞って検討すると、やはりキャバリア・キング・チャールズ・スパニエルの循環器疾患罹患率が顕著に高いことがわかった。チワワは契約頭数や請求頭数は多いが、循環器疾患罹患率自体はさほど高値ではないこと、ヨークシャー・テリアにおいては有意に高い罹患率は認められないことも判明した。

さらに弁膜症に疾患を絞り検討を行うと、品種によっては循環器疾患罹患率に男女差がほとんど認められず、興味深い結果が得られた。またこれまでの報告どおり、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルでは、より若齢から弁膜症の発症が始まっていることが示唆された。

品種により循環器疾患の罹患率や年齢推移の傾向が異なり、男女差の割合が異なることは、罹患に対するリスク管理において非常に有用な情報となるであろう。昨今の日本の飼育犬の品種などを鑑みると、わが国独自の情報であることが重要となる。今後は疾患の特定、予後を追跡しての継続的な評価や、重症度を含めた評価などを行い、多角的に評価・検討実施していくことで循環器疾患の罹患傾向がより詳細に明らかになると考えられた。

また、今回の結果は弁膜症の原因である粘液腫様変性の病態解明にも役に立つ情報であることが考えられ、さらなる研究の発展が可能であると考えている。このように、日本の臨床獣医師の日々の診療情報を蓄積・検討し、診療現場で活用できるエビデンスへと還元する好循環を作っていきたい。

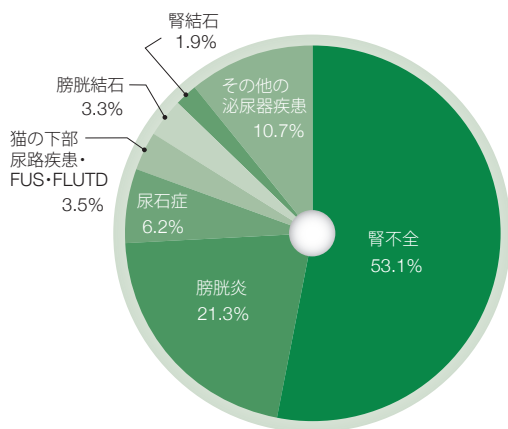
参考文献：

- 1) Egenvall A., Bonnett B. N., Haggstrom J. : Heart disease as a cause of death in insured Swedish dogs younger than 10 years of age, J Vet Intern Med, 20: 894-903, 2006.
- 2) Oliveira P., Domenech O., Silva J., et al. : Retrospective review of congenital heart disease in 976 dogs, J Vet Intern Med, 25: 477-83, 2011.
- 3) Serfass P., Chetboul V., Sampedrano C. C., et al. : Retrospective study of 942 small-sized dogs: Prevalence of left apical systolic heart murmur and left-sided heart failure, critical effects of breed and sex, J Vet Cardiol, 8 : 11-8, 2006.
- 4) Borgarelli M., Haggstrom J. : Canine degenerative myxomatous mitral valve disease: natural history, clinical presentation and therapy, Vet Clin North Am Small Anim Pract, 40: 651-63, 2010.
- 5) Atkins C., Bonagura J., Ettinger S., et al. : Guidelines for the diagnosis and treatment of canine chronic valvular heart disease, J Vet Intern Med, 23:1142-50, 2009.
- 6) Martin M. W., Stafford Johnson M. J., Celona B. : Canine dilated cardiomyopathy: a retrospective study of signalment, presentation and clinical findings in 369 cases. J Small Anim Pract, 50:23-9, 2009.

第3章 疾患（小分類単位）別の統計

1. 猫の腎不全

3-3-1 猫の泌尿器疾患の請求内訳



猫は泌尿器疾患、とくに腎不全が多い

猫の泌尿器疾患の請求内訳をみると、もっとも多かったのは腎不全53.1%であり、続いて膀胱炎21.3%であった。

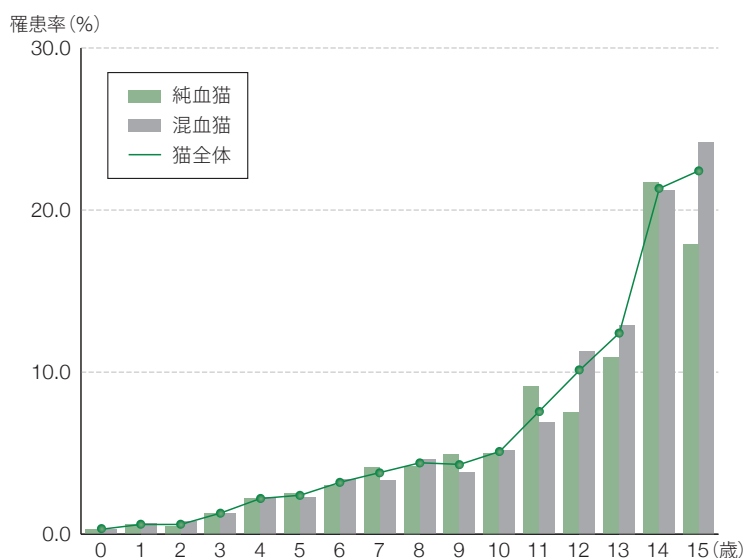
腎不全は加齢に伴い増加する

腎不全の罹患率の年齢推移をみると、猫全体において0歳齢は0.3%でもっとも低く、10歳齢は5.1%、15歳齢は22.4%となり、加齢とともに罹患率が上昇する傾向を示した。

腎不全の治療には回数と費用が必要である

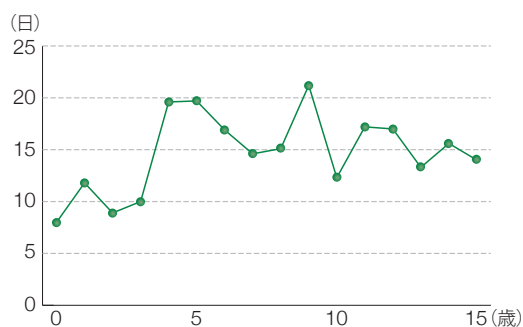
腎不全の猫における1年間の診療日数（通入院日数）および診療費を調査したところ、純血猫と混血猫に差はなく、猫全体の診療日数は16日、診療費は107,409円であった。

3-3-2 猫の腎不全の罹患率

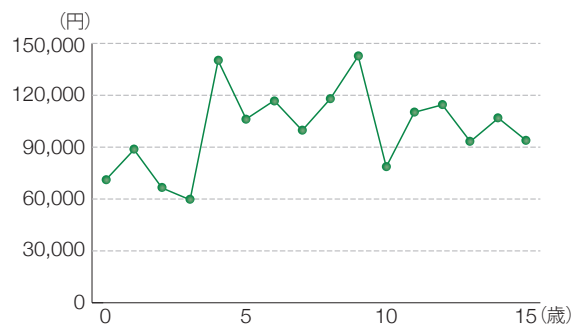


年齢	純血猫 (%)	混血猫 (%)	猫全体 (%)
0	0.3	0.3	0.3
1	0.6	0.7	0.6
2	0.5	0.8	0.6
3	1.3	1.3	1.3
4	2.2	2.3	2.2
5	2.5	2.3	2.4
6	3.0	3.4	3.2
7	4.1	3.3	3.8
8	4.2	4.6	4.4
9	4.9	3.8	4.3
10	5.0	5.2	5.1
11	9.1	6.9	7.6
12	7.5	11.3	10.1
13	10.9	12.9	12.4
14	21.7	21.2	21.3
15	17.9	24.2	22.4
0～15歳平均	6.0	6.5	6.4

3-3-3 腎不全の診療日数（猫全体）



3-3-4 腎不全の診療費（猫全体）



3-3-1～3-3-4

*対象：2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した猫48,208頭（全年齢）を対象に、1年間の契約における腎不全で請求があった猫の罹患率や診療日数、診療費を調査した。

第3章 疾患（小分類単位）別の統計

2. スコティッシュ・フォールドの関節炎

スコティッシュ・フォールドに多い関節炎

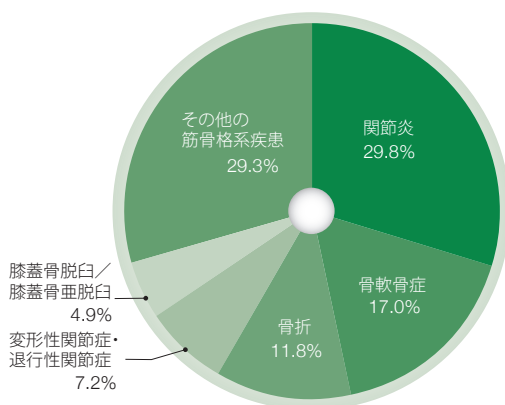
スコティッシュ・フォールドは骨格異常、とくに関節の異常を多く呈することが知られており、こうした障害は遺伝性骨形成異常症と呼ばれている。そこで、スコティッシュ・フォールドとその他の猫品種において、まず大分類である筋骨格系疾患の罹患率を調査したところ、他品種1.1%に対しスコティッシュ・フォールドは3.2%と高い割合を示した。次に、スコティッシュ・フォールドの筋骨格系疾患の保険金請求内訳を調査したところ、関節炎による請求割合が全体の29.8%を占めておりもっとも多かった。また、関節炎の罹患率を調査したところ、他品種0.5%に対しスコティッシュ・フォールドは0.7%とわずかに高い傾向を示した。罹患率の差がわずかであった理由として、スコティッシュ・フォールドはここ数年で人気が出てきた品種であり、若齢の契約個体が多く、関節炎を罹患しやすい高齢の契約個体数が少ないことが考えられた。

関節炎の治療期間が長く、費用負担が増加

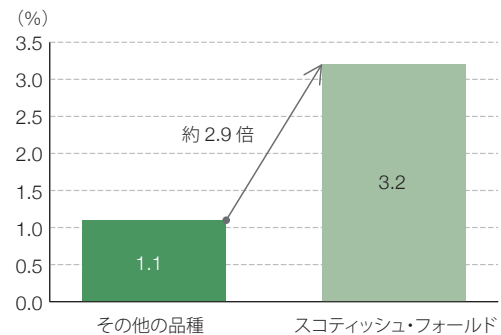
関節炎による1年間の診療日数（通入院日数）および診療費を調査したところ、他品種は診療日数4.1日で診療費は11,740円であるのに対し、スコティッシュ・フォールドの診療日数は5.9日と長く、診療費は14,871円と高かった。

以上により、スコティッシュ・フォールドは関節炎に比較的罹患しやすく、罹患した場合は治療までの日数が長引き、診療費が高額となる傾向にあることが疾患統計により示唆された。

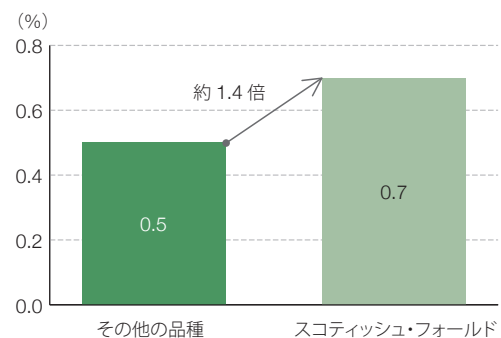
3-3-6 スコティッシュ・フォールドの請求内訳



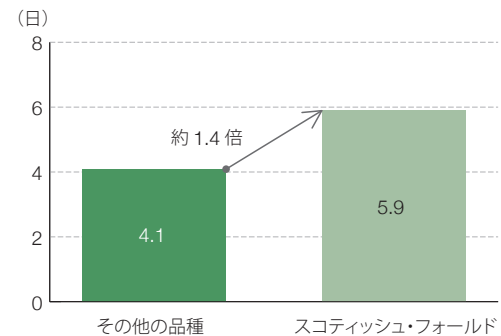
3-3-5 筋骨格系疾患の罹患率（年齢補正なし）



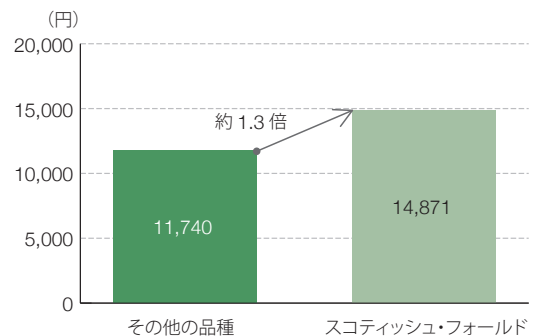
3-3-7 関節炎の罹患率（年齢補正なし）



3-3-8 関節炎の診療日数（1年間の平均）



3-3-9 関節炎の診療費（1年間の平均）

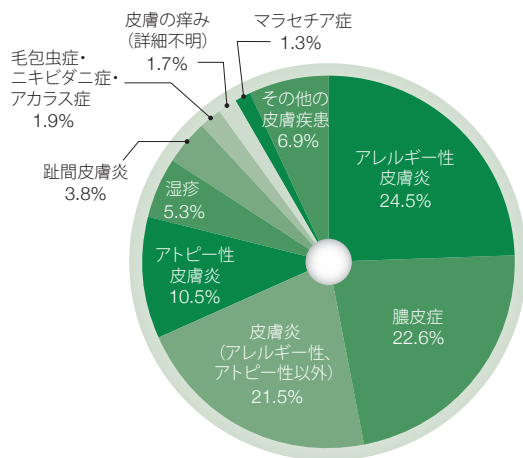


3-3-5～3-3-9

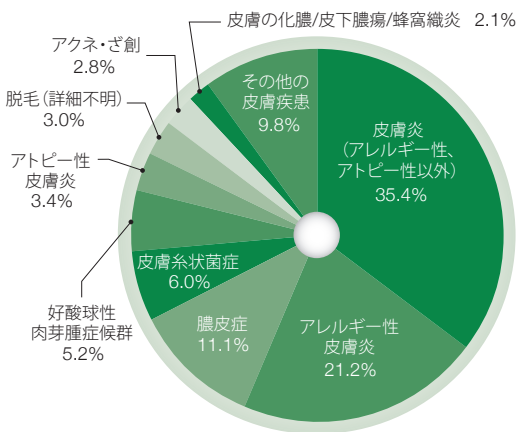
*対象：2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した猫48,208頭（全年齢）を対象に、1年間の契約における筋骨格系の疾患で請求があったスコティッシュ・フォールドの罹患率や診療日数、診療費を調査した。

3. 犬と猫の皮膚疾患

3-3-10 犬の皮膚疾患の請求内訳



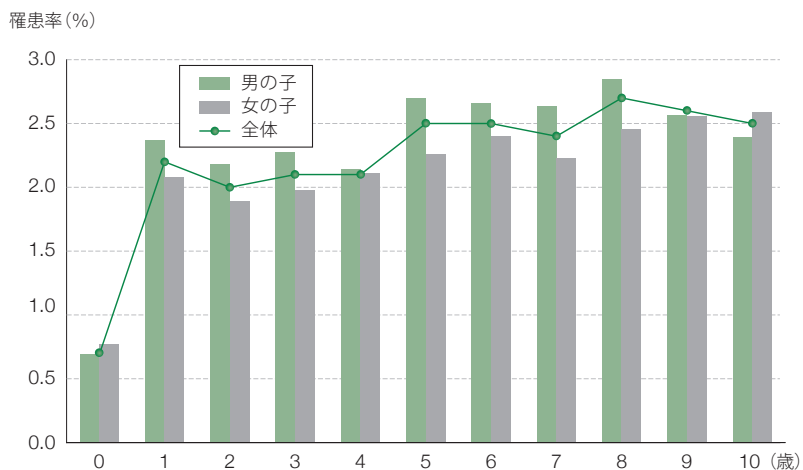
3-3-11 猫の皮膚疾患の請求内訳



3-3-10
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭を対象に、1年間の契約における、皮膚に関連する疾患で請求があった412,913件の内訳を示した。

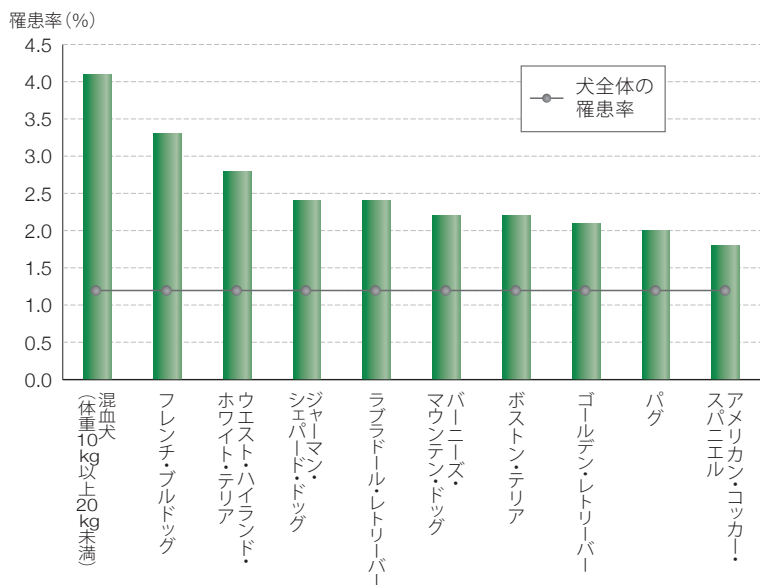
3-3-11
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した猫48,208頭を対象に、1年間の契約における、皮膚に関連する疾患で請求があった13,558件の内訳を示した。

3-3-12 犬の膿皮症の罹患率の年齢推移



年齢	罹患率 (%)		
	全体	男子	女子
0歳	0.7	0.69	0.77
1歳	2.2	2.37	2.08
2歳	2.0	2.18	1.89
3歳	2.1	2.28	1.98
4歳	2.1	2.14	2.11
5歳	2.5	2.70	2.26
6歳	2.5	2.66	2.40
7歳	2.4	2.64	2.23
8歳	2.7	2.85	2.46
9歳	2.6	2.57	2.56
10歳	2.5	2.39	2.59

3-3-13 犬の膿皮症の品種別罹患率（年齢補正なし）



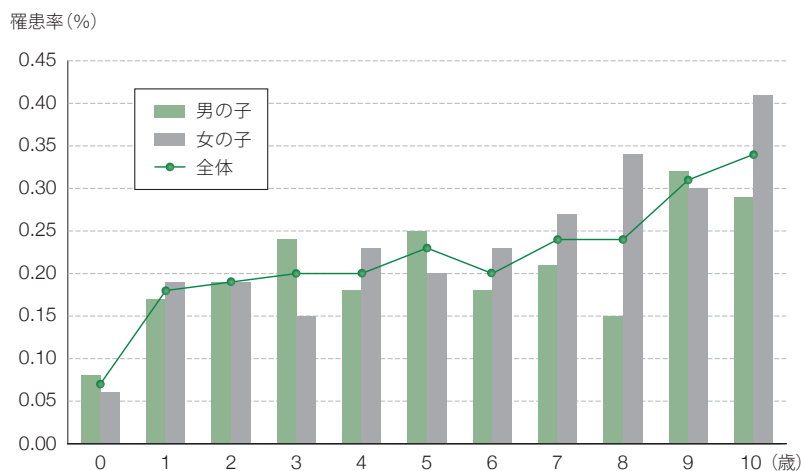
品種	罹患率 (%)
混血犬（体重10kg以上20kg未満）	4.1
フレンチ・ブルドッグ	3.3
ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	2.8
ジャーマン・シェパード・ドッグ	2.4
ラブラドル・レトリバー	2.4
バーニーズ・マウンテン・ドッグ	2.2
ボストン・テリア	2.2
ゴールデン・レトリバー	2.1
パグ	2.0
アメリカン・コッカー・スパニエル	1.8
犬（0～10歳）	1.2

3-3-12、3-3-13
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬383,937頭（0～10歳）を対象に、1年間の契約における、膿皮症で請求があった犬の罹患率を年齢別に調査した。



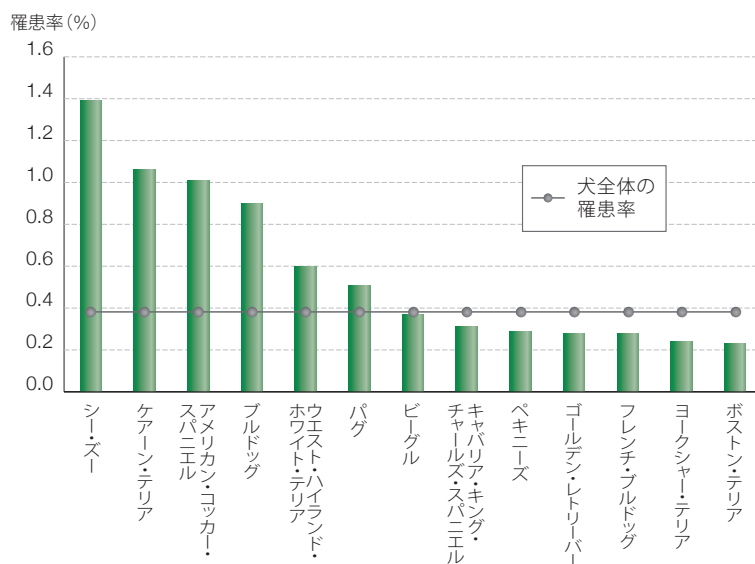
第3章 疾患（小分類単位）別の統計

3-3-14 犬の脂漏症の罹患率の年齢推移



年齢	罹患率 (%)		
	全体	男の子	女の子
0歳	0.07	0.08	0.06
1歳	0.18	0.17	0.19
2歳	0.19	0.19	0.19
3歳	0.20	0.24	0.15
4歳	0.20	0.18	0.23
5歳	0.23	0.25	0.20
6歳	0.20	0.18	0.23
7歳	0.24	0.21	0.27
8歳	0.24	0.15	0.34
9歳	0.31	0.32	0.30
10歳	0.34	0.29	0.41

3-3-15 犬の脂漏症の品種別罹患率（年齢補正なし）



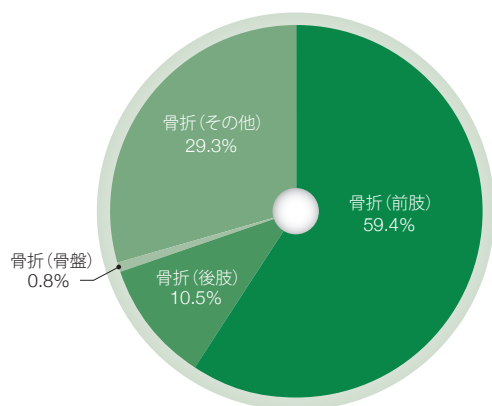
品種	罹患率 (%)
シー・ズー	1.39
ケアン・テリア	1.06
アメリカン・コッカー・スパニエル	1.01
ブルドッグ	0.90
ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	0.60
パグ	0.51
ビーグル	0.37
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	0.31
ペキニーズ	0.29
ゴールデン・レトリバー	0.28
フレンチ・ブルドッグ	0.28
ヨークシャー・テリア	0.24
ボストン・テリア	0.23
犬 (0~10歳)	0.38

3-3-14、3-3-15

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬383,937頭（0～10歳）を対象に、1年間の契約における、脂漏症で請求があった犬の罹患率を年齢別に調査した。

4. 犬の骨折

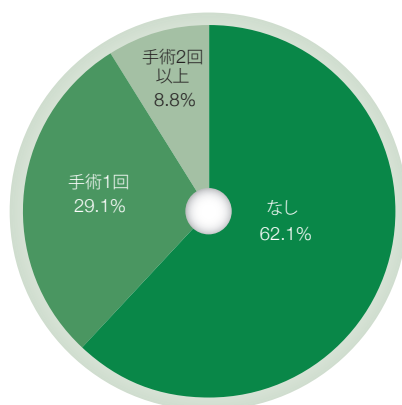
3-3-16 犬の骨折の請求内訳



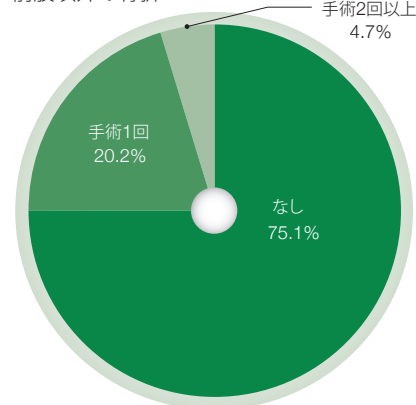
3-3-16
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭（全年齢）の骨折での請求11,914件の部位の内訳を示した。

3-3-17 骨折の手術の実施率

前肢の骨折

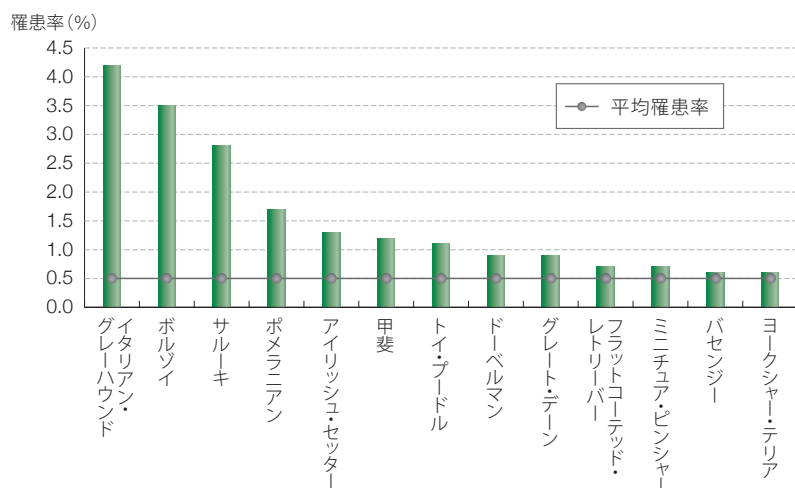


前肢以外の骨折



3-3-17
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭（全年齢）のうち、骨折で請求があった11,914件の手術の実施率を調査した。

3-3-18 骨折の犬種別罹患率（年齢補正なし）

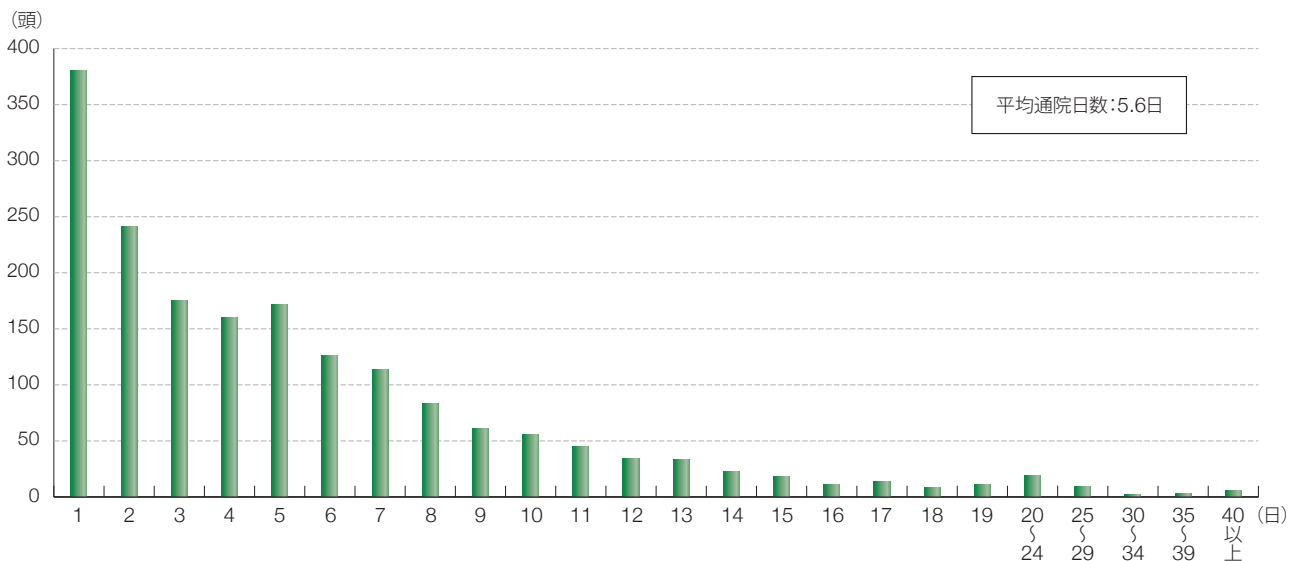


品種	罹患率 (%)
イタリアン・グレーハウンド	4.2
ボルゾイ	3.5
サルーキ	2.8
ポメラニアン	1.7
アイリッシュ・セッター	1.3
甲斐	1.2
トイ・プードル	1.1
ドーベルマン	0.9
グレート・デーン	0.9
フラットコーテッド・レトリバー	0.7
ミニチュア・ピンシャー	0.7
バセンジー	0.6
ヨークシャー・テリア	0.6
犬全体	0.5

3-3-18
2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭（全年齢）を対象に、骨折で請求があった犬の罹患率を品種別に調査し、犬全体の平均よりも高い罹患率を示した品種を示した。

第3章 疾患（小分類単位）別の統計

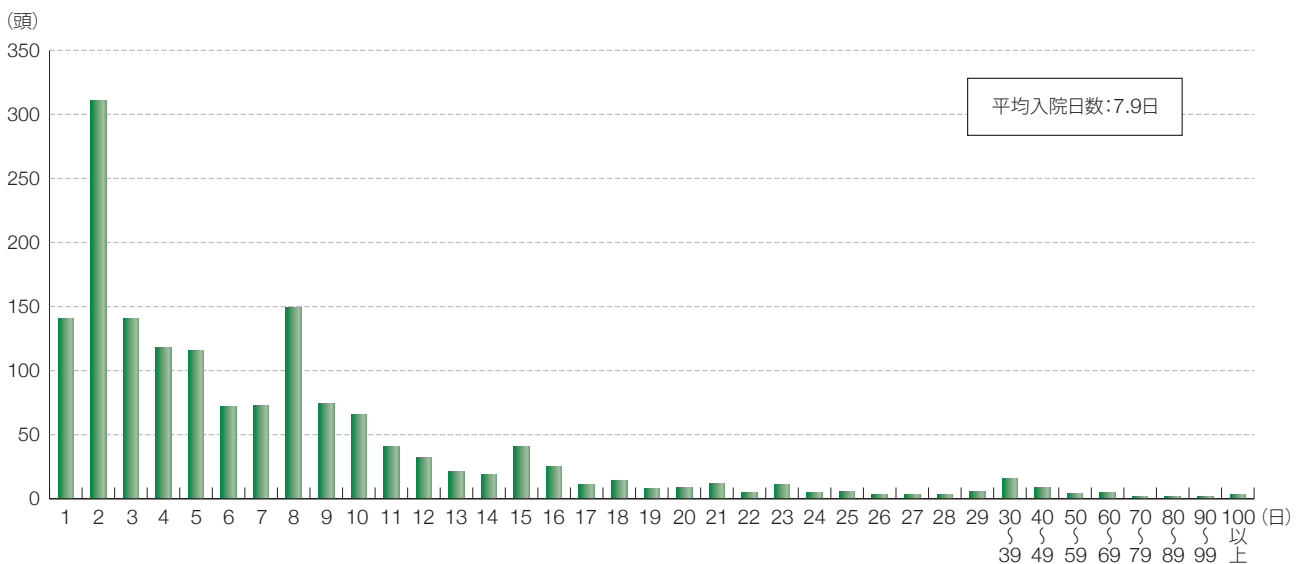
3-3-19 骨折における通院日数



3-3-19

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭（全年齢）のうち、骨折で通院があった犬の年間の通院日数を調査した。

3-3-20 骨折における入院日数



3-3-20

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭（全年齢）のうち、骨折で入院があった犬の年間の入院日数を調査した。

3-3-21 骨折の診療費

	平均（手術なし）	平均（手術1回）	平均（手術2回以上）
年間診療費（円）	84,326	269,733	442,047

3-3-21

1頭あたりの年間診療費の平均。

第3章 疾患（小分類単位）別の統計

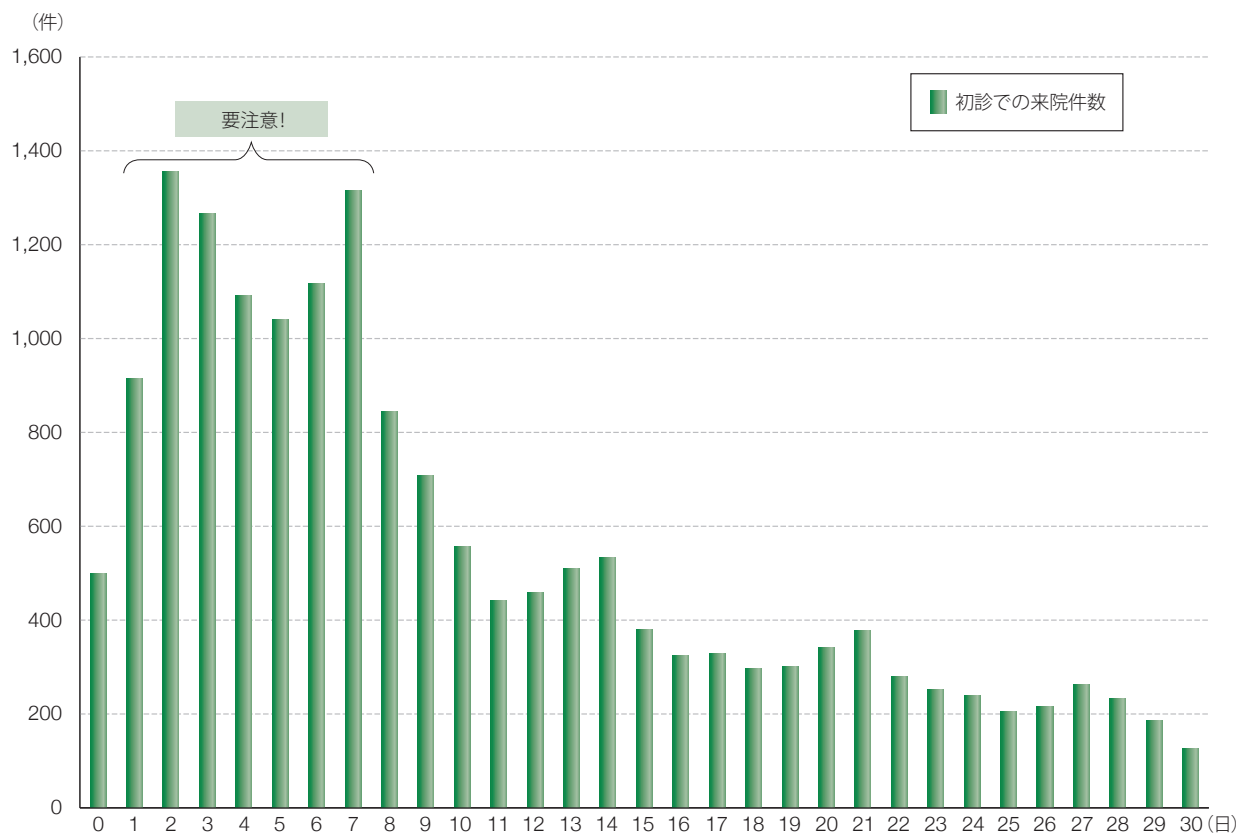
5. どうぶつを迎えた後に注意したいケガ・病気

ペットショップから家庭にどうぶつを迎えてからの30日間に、動物病院を受診した際のデータを分析した。

まず、迎えた当日から動物病院を受診するまでの日数をみると、当日、翌日と増加し2日以降はほぼ横ばいで推移した。しかし、同一どうぶつの初診のみで日数をカウントすると2～7日後が受診のピークとなった。迎えた当日～1週間、10日後程度までは体調を崩しやすく、とくに注意すべき期間であると考えられた。

犬で通院の多い請求理由をみると、発咳、ケンネルコフ、気管炎、風邪などの呼吸器系の感染症が上位にみられた。また、下痢、嘔吐や原虫・寄生虫などの消化器疾患も多くみられていた。さらに、犬で入院することになった請求理由をみると、嘔吐、下痢、低血糖、胃腸炎などが上位となった。猫で通院の多い請求理由をみると、下痢や嘔吐などの消化器症状や消化器症状を呈する寄生虫症、猫伝染性鼻気管炎やその症状である結膜炎、くしゃみなどのほか、皮膚や耳の寄生虫などが多いことが示された。これらは、ペットショップでは症状を示していなくても、環境が変わったことで発症することが多い病気であると考えられ、どうぶつをペットショップから家庭に迎えた直後は、呼吸の状態や排泄物などに注意が必要であると考えられた。

3-3-22 どうぶつを家庭に迎えてから来院までの日数



3-3-22

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、ペットショップ経由でアニコム損保に契約した0歳の犬70,687頭の30日以内での初診の請求17,003件を日数ごとに示した。



第3章 疾患（小分類単位）別の統計

3-3-23 ペットショップから迎えた犬の30日以内の通院での請求理由TOP30

	傷病名	請求件数	割合 (%)
1	発咳	5,344	15.1
2	軟便/下痢/血便	4,022	11.4
3	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群	3,896	11.0
4	嘔吐/下痢/血便（原因未定）	3,251	9.2
5	外耳炎・外耳道炎	1,847	5.2
6	気管炎/気管支炎	1,462	4.1
7	胃炎/胃腸炎/腸炎	1,412	4.0
8	コクシジウム症	1,001	2.8
9	ジアルジア症	868	2.5
10	嘔吐	719	2.0
11	耳疥癬・耳ヒゼンダニ症	475	1.3
12	その他の寄生虫症	471	1.3
13	感冒・カゼ	466	1.3
14	外傷（挫傷/擦過傷含む）/打撲/捻挫	431	1.2
15	元気喪失（食欲不振含む、原因未定）	362	1.0
16	皮膚炎	354	1.0
17	その他の皮膚疾患	332	0.9
18	食欲不振	326	0.9
19	消化管内異物	322	0.9
20	その他の呼吸器疾患	312	0.9
21	その他の耳科疾患	289	0.8
22	その他の消化器疾患	264	0.7
23	低血糖	236	0.7
24	肺炎	228	0.6
25	回虫症	223	0.6
26	骨折（前肢）	218	0.6
27	糞線虫症	213	0.6
28	くしゃみ	213	0.6
29	歩行異常/跛行	204	0.6
30	その他の眼科疾患	177	0.5

3-3-23

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、ペットショップ経由でアニコム損保に契約した0歳の犬 70,687頭の、通院での請求35,385件の請求理由を調査した。

3-3-24 ペットショップから迎えた犬の30日以内の入院での請求理由TOP15

	傷病名	頭数	平均入院日数
1	嘔吐/下痢/血便	339	3.8
2	低血糖	136	4.3
3	胃炎/胃腸炎/腸炎	94	4.9
4	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群	88	5.5
5	発咳	78	4.4
6	犬/パルボウイルス・CPV	77	7.1
7	肺炎	56	7.0
8	骨折（前肢）	54	8.4
9	消化管内異物	43	2.6
10	元気喪失	40	3.8
11	気管炎/気管支炎	38	6.4
12	骨折（その他）	35	7.9
13	コクシジウム症	29	5.4
14	食欲不振	25	3.4
15	ジアルジア症	21	3.9

3-3-24

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、ペットショップ経由でアニコム損保に契約した0歳の犬 70,687頭の、入院での請求理由を個体ごとに集計し上位の請求理由とその頭数、平均入院日数を示した。

3-3-25

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、ペットショップ経由でアニコム損保に契約した0歳の猫 11,843頭の、通院での請求6,593件の請求理由を調査した。

3-3-25 ペットショップから迎えた猫の30日以内の通院での請求理由TOP20

	傷病名	請求件数	割合 (%)
1	軟便/下痢/血便	904	13.7
2	嘔吐/下痢/血便（原因未定）	563	8.5
3	くしゃみ	430	6.5
4	コクシジウム症	318	4.8
5	結膜炎/結膜浮腫	402	6.1
6	猫伝染性鼻気管炎・FVR	295	4.5
7	感冒・カゼ	236	3.6
8	外耳炎・外耳道炎	217	3.3
9	発咳	177	2.7
10	耳疥癬・耳ヒゼンダニ症	233	3.5
11	目やに	241	3.7
12	その他の寄生虫症	103	1.6
13	皮膚糸状菌症	99	1.5
14	その他の皮膚疾患	93	1.4
15	その他の耳科疾患	90	1.4
16	腸炎	90	1.4
17	その他の眼科疾患	80	1.2
18	鼻炎/副鼻腔炎	80	1.2
19	鼻汁（詳細不明）	73	1.1
20	気管炎/気管支炎	72	1.1

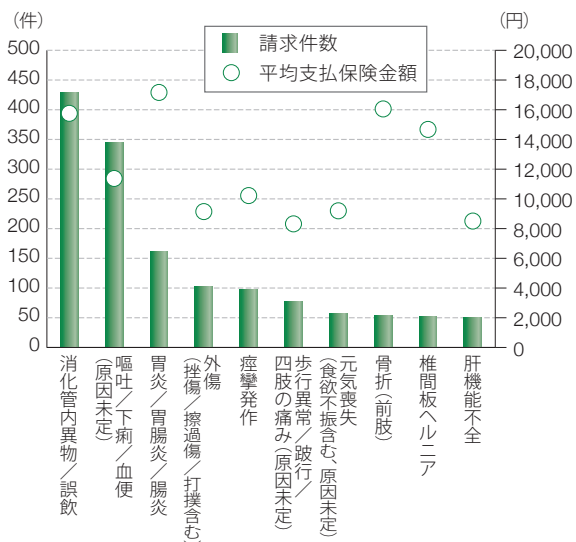
第3章 疾患（小分類単位）別の統計

6. 夜間救急診療

アニコム損保対応動物病院のなかで、診療時間が夜間のみの動物病院に通院した請求をもとに、家庭どうぶつにおける夜間救急診療の実態を調査した。夜間救急診療を受けた原因は、異物誤飲やケガ、骨折など、事故によるものが上位を占めた。

3-3-26 夜間病院 犬の通院TOP10

順位	傷病名	請求件数（件）	平均支払保険金（円）
1	消化管内異物/誤飲	429	15,758
2	嘔吐/下痢/血便（原因未定）	345	11,374
3	胃炎/胃腸炎/腸炎	162	17,164
4	外傷（挫傷/擦過傷/打撲含む）	102	9,145
5	痙攣発作	97	10,223
6	歩行異常/跛行/四肢の痛み（原因未定）	78	8,319
7	元気喪失（食欲不振含む、原因未定）	57	9,198
8	骨折（前肢）	53	16,054
9	椎間板ヘルニア	52	14,676
10	肝機能不全	51	8,508

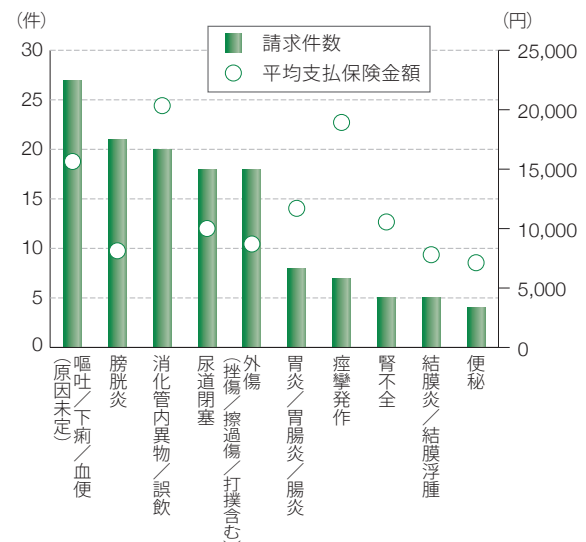


3-3-26

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬388,520頭の1年間の契約のうち、夜間病院で請求があった4,049件の内訳を示した。

3-3-27 夜間病院 猫の通院TOP10

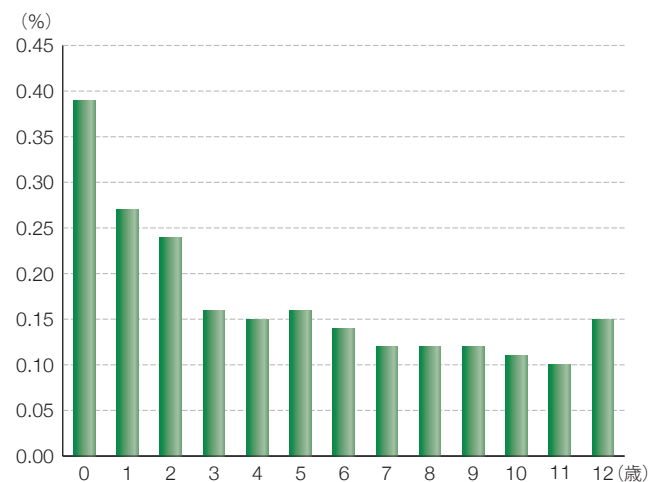
順位	傷病名	請求件数（件）	平均支払保険金（円）
1	嘔吐/下痢/血便（原因未定）	27	15,645
2	膀胱炎	21	8,132
3	消化管内異物/誤飲	20	20,343
4	尿道閉塞	18	10,007
5	外傷（挫傷/擦過傷/打撲含む）	18	8,704
6	胃炎/胃腸炎/腸炎	8	11,704
7	痙攣発作	7	18,930
8	腎不全	5	10,559
9	結膜炎/結膜浮腫	5	7,802
10	便秘	4	7,129



3-3-27

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した猫48,208頭の1年間の契約のうち、夜間病院で請求があった333件の内訳を示した。

3-3-28 年齢別夜間診療の割合



診療時間が夜間のみの動物病院に通院したことによる請求の、全請求における割合を年齢別に示した。若齢ほど夜間病院にかかる割合が高く、急激な体調の変化に備える必要があることがわかった。

3-3-28

2012年4月1日～2013年3月31日までの間に、アニコム損保に契約した犬・猫・鳥・うさぎ・フェレット491,603頭の1年間の契約における請求を対象とし、各年齢ごとに全請求における夜間専門病院での請求の件数割合を示した。



参考資料 1

アニコム「どうぶつ健保」の契約頭数

(どうぶつ種別、年齢別、1年契約の契約満了および死亡解約の契約頭数)

犬	全体					男の子					女の子				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	219,839	256,144	297,653	342,657	383,937	116,550	135,649	157,070	180,172	201,287	103,289	120,495	140,583	162,485	182,650
0歳	42,928	61,448	59,116	61,336	59,451	22,545	32,419	30,910	32,086	30,968	20,383	29,029	28,206	29,250	28,483
1歳	37,752	29,215	46,712	47,603	50,217	19,748	15,193	24,591	24,729	26,002	18,004	14,022	22,121	22,874	24,215
2歳	33,112	34,616	28,700	43,987	45,344	17,489	18,080	14,865	23,120	23,505	15,623	16,536	13,835	20,867	21,839
3歳	29,784	31,176	34,064	29,008	42,977	15,759	16,502	17,727	15,057	22,636	14,025	14,674	16,337	13,951	20,341
4歳	26,051	28,271	31,142	33,960	29,295	14,173	14,998	16,477	17,675	15,196	11,878	13,273	14,665	16,285	14,099
5歳	17,929	24,555	28,078	31,138	33,817	9,941	13,362	14,877	16,382	17,658	7,988	11,193	13,201	14,756	16,159
6歳	10,754	17,067	24,357	28,018	31,182	5,799	9,456	13,231	14,801	16,346	4,955	7,611	11,126	13,217	14,836
7歳	7,166	10,386	17,248	24,317	27,961	3,810	5,599	9,531	13,138	14,755	3,356	4,787	7,717	11,179	13,206
8歳	5,097	6,930	10,594	17,410	24,187	2,621	3,700	5,689	9,547	13,036	2,476	3,230	4,905	7,863	11,151
9歳	3,826	4,998	7,051	10,809	17,483	1,924	2,587	3,756	5,768	9,505	1,902	2,411	3,295	5,041	7,978
10歳	2,751	3,752	5,228	7,409	11,088	1,383	1,879	2,715	3,952	5,908	1,368	1,873	2,513	3,457	5,180
11歳	1,688	2,348	3,363	4,717	6,756	843	1,179	1,691	2,442	3,616	845	1,169	1,672	2,275	3,140
12歳	1,001	1,382	2,000	2,945	4,179	515	695	1,010	1,475	2,156	486	687	990	1,470	2,023

猫	全体					男の子					女の子				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	21,266	24,943	31,002	38,638	46,848	11,428	13,445	16,824	20,885	25,339	9,838	11,498	14,178	17,753	21,509
0歳	3,473	5,694	6,928	8,764	9,757	1,801	3,037	3,825	4,662	5,224	1,672	2,657	3,103	4,102	4,533
1歳	3,025	2,486	4,592	5,677	7,200	1,645	1,325	2,444	3,163	3,889	1,380	1,161	2,148	2,514	3,311
2歳	2,706	2,791	2,545	4,464	5,534	1,478	1,530	1,367	2,385	3,081	1,228	1,261	1,178	2,079	2,453
3歳	2,516	2,492	2,857	2,673	4,438	1,373	1,365	1,571	1,423	2,389	1,143	1,127	1,286	1,250	2,049
4歳	2,317	2,404	2,560	2,989	2,846	1,288	1,322	1,403	1,673	1,514	1,029	1,082	1,157	1,316	1,332
5歳	1,867	2,206	2,459	2,710	3,132	996	1,224	1,365	1,462	1,753	871	982	1,094	1,248	1,379
6歳	1,384	1,783	2,260	2,531	2,872	754	948	1,253	1,417	1,542	630	835	1,007	1,114	1,330
7歳	1,138	1,365	1,878	2,299	2,641	627	736	997	1,259	1,472	511	629	881	1,040	1,169
8歳	886	1,142	1,453	1,985	2,450	480	630	772	1,053	1,324	406	512	681	932	1,126
9歳	738	931	1,231	1,588	2,076	386	501	669	840	1,101	352	430	562	748	975
10歳	625	787	1,020	1,388	1,756	305	406	534	745	929	320	381	486	643	827
11歳	372	546	728	936	1,296	179	270	377	480	693	193	276	351	456	603
12歳	219	316	491	634	850	116	151	247	323	428	103	165	244	311	422

鳥	全体					男の子					女の子					不明				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	307	366	366	409	434	134	156	139	154	150	107	119	119	131	147	66	91	108	124	137
0歳	57	79	73	69	69	9	29	19	23	20	7	18	14	12	13	41	32	40	34	36
1歳	51	67	68	77	77	21	25	23	27	25	27	14	25	16	23	3	28	20	34	29
2歳	53	52	53	65	80	25	23	20	22	27	23	22	12	27	23	5	7	21	16	30
3歳	55	54	52	58	56	29	24	21	18	14	17	22	24	20	29	9	8	7	20	13
4歳	37	48	52	56	55	23	23	22	27	20	12	15	23	23	17	2	10	7	6	18
5歳	37	33	44	45	51	17	20	19	20	24	17	11	14	20	21	3	2	11	5	6
6歳	17	33	24	39	46	10	12	15	17	20	4	17	7	13	21	3	4	2	9	5

うさぎ	全体					男の子					女の子				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	2,263	2,110	1,984	2,111	2,243	1,205	1,114	991	1,076	1,137	1,058	996	993	1,035	1,106
0歳	194	189	267	299	297	87	101	116	158	164	107	88	151	141	133
1歳	416	241	262	352	371	201	114	131	171	189	215	127	131	181	182
2歳	352	390	265	289	391	183	182	131	140	187	169	208	134	149	204
3歳	358	317	394	293	296	209	168	190	149	143	149	149	204	144	153
4歳	303	312	296	372	281	157	175	149	180	145	146	137	147	192	136
5歳	268	254	271	275	351	147	130	154	140	176	121	124	117	135	175
6歳	235	229	229	231	256	141	130	120	138	133	94	99	109	93	123

フェレット	全体					男の子					女の子				
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
合計	2,421	2,014	1,916	1,915	1,849	1,358	1,124	1,042	1,060	1,021	1,063	890	874	855	828
0歳	195	197	235	242	188	107	108	130	137	105	88	89	105	105	83
1歳	386	246	254	289	294	221	129	136	161	163	165	117	118	128	131
2歳	443	386	271	290	312	254	234	145	160	176	189	152	126	130	136
3歳	427	400	398	288	298	227	227	232	153	162	200	173	166	135	136
4歳	414	334	348	373	278	243	183	194	222	148	171	151	154	151	130
5歳	338	278	257	268	307	176	155	134	149	176	162	123	123	119	131
6歳	218	173	153	165	172	130	88	71	78	91	88	85	82	87	81

参考資料 2 アニコム「どうぶつ健保」の契約頭数

(犬、品種別、年齢別、1年契約の契約満了および死亡解約の契約頭数の合計)

品 種	年 齢	総 計	男 の 子	女 の 子
ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	0	877	441	436
	1	795	414	381
	2	766	390	376
	3	827	437	390
	4	687	325	362
	5	796	392	404
	6	885	444	441
	7	1,002	523	479
	8	1,027	521	506
	9	935	453	482
	10	704	332	372
合計		9,301	4,672	4,629
ウエルシュ・コーギー・ペンブローク (0～10歳)	合計	9,301	4,672	4,629
	0	856	473	383
	1	794	412	382
	2	872	445	427
	3	978	504	474
	4	784	387	397
	5	1,081	572	509
	6	1,101	581	520
	7	1,042	541	501
	8	957	513	444
	9	655	377	278
	10	389	223	166
合計		9,509	5,028	4,481
パピヨン	0	1,169	630	539
	1	885	471	414
	2	846	477	369
	3	845	459	386
	4	612	321	291
	5	788	417	371
	6	767	411	356
	7	762	400	362
	8	750	411	339
	9	632	334	298
	10	497	266	231
合計		8,553	4,597	3,956
シー・ズー (0～10歳)	合計	8,553	4,597	3,956
	0	1,170	633	537
	1	1,082	549	533
	2	1,030	523	507
	3	1,175	625	550
	4	834	432	402
	5	997	545	452
	6	829	454	375
	7	630	385	245
	8	397	239	158
	9	233	155	78
	10	76	49	27
合計		8,453	4,589	3,864
フレンチ・ブルドッグ	合計	8,453	4,589	3,864
	0	577	289	288
	1	525	299	226
	2	505	275	230
	3	631	320	311
	4	444	228	216
	5	522	241	281
	6	605	310	295
	7	504	241	263
	8	743	373	370
	9	594	293	301
	10	539	252	287
合計		6,189	3,121	3,068
フレンチ・ブルドッグ (0～10歳)	合計	6,189	3,121	3,068
	0	577	289	288
	1	525	299	226
	2	505	275	230
	3	631	320	311
	4	444	228	216
	5	522	241	281
	6	605	310	295
	7	504	241	263
	8	743	373	370
	9	594	293	301
	10	539	252	287
合計		6,189	3,121	3,068
ラブラドル・レトリバー	合計	6,189	3,121	3,068
	0	577	289	288
	1	525	299	226
	2	505	275	230
	3	631	320	311
	4	444	228	216
	5	522	241	281
	6	605	310	295
	7	504	241	263
	8	743	373	370
	9	594	293	301
	10	539	252	287
合計		6,189	3,121	3,068
トイ・プードル	0	15,066	7,752	7,314
	1	12,682	6,575	6,107
	2	10,031	5,238	4,793
	3	8,677	4,601	4,076
	4	5,661	2,943	2,718
	5	5,728	3,042	2,686
	6	4,290	2,266	2,024
	7	3,277	1,827	1,450
	8	2,084	1,210	874
	9	1,058	616	442
	10	481	291	190
合計		69,035	36,361	32,674
トイ・プードル (0～10歳)	合計	69,035	36,361	32,674
	0	10,552	5,567	4,985
	1	9,162	4,782	4,380
	2	8,438	4,465	3,973
	3	7,218	3,863	3,355
	4	4,804	2,599	2,205
	5	5,183	2,785	2,398
	6	4,532	2,441	2,091
	7	3,945	2,153	1,792
	8	3,121	1,773	1,348
	9	2,050	1,225	825
	10	1,026	614	412
合計		60,031	32,267	27,764
チワワ (0～10歳)	合計	60,031	32,267	27,764
	0	4,908	2,472	2,436
	1	4,579	2,284	2,295
	2	4,792	2,448	2,344
	3	5,307	2,758	2,549
	4	4,056	2,065	1,991
	5	5,552	2,877	2,675
	6	5,912	3,039	2,873
	7	6,070	3,080	2,990
	8	6,114	3,146	2,968
	9	4,829	2,632	2,197
	10	3,171	1,736	1,435
合計		55,290	28,537	26,753
ミニチュア・ダックスフンド	合計	55,290	28,537	26,753
	0	4,083	2,217	1,866
	1	2,890	1,530	1,360
	2	2,546	1,279	1,267
	3	2,134	1,121	1,013
	4	1,385	701	684
	5	1,538	784	754
	6	1,339	685	654
	7	1,334	669	665
	8	1,092	562	530
	9	737	355	382
	10	469	221	248
合計		19,547	10,124	9,423
柴	合計	19,547	10,124	9,423
	0	4,895	2,429	2,466
	1	3,424	1,665	1,759
	2	3,054	1,524	1,530
	3	2,506	1,267	1,239
	4	1,430	733	697
	5	1,381	733	648
	6	1,059	524	535
	7	857	425	432
	8	569	294	275
	9	297	136	161
	10	192	90	102
合計		19,664	9,820	9,844
混血犬 (体重10kg未満) (0～10歳)	合計	19,664	9,820	9,844
	0	4,895	2,429	2,466
	1	3,424	1,665	1,759
	2	3,054	1,524	1,530
	3	2,506	1,267	1,239
	4	1,430	733	697
	5	1,381	733	648
	6	1,059	524	535
	7	857	425	432
	8	569	294	275
	9	297	136	161
	10	192	90	102
合計		19,664	9,820	9,844
トイ・プードル (0～10歳)	合計	19,664	9,820	9,844
	0	4,895	2,429	2,466
	1	3,424	1,665	1,759
	2	3,054	1,524	1,530
	3	2,506	1,267	1,239
	4	1,430	733	697
	5	1,381	733	648
	6	1,059	524	535
	7	857	425	432
	8	569	294	275
	9	297	136	161
	10	192	90	102
合計		19,664	9,820	9,844
柴 (0～10歳)	合計	19,664	9,820	9,844
	0	4,895	2,429	2,466
	1	3,424	1,665	1,759
	2	3,054	1,524	1,530
	3	2,506	1,267	1,239
	4	1,430	733	697
	5	1,381	733	648
	6	1,059	524	535
	7	857	425	432
	8	569	294	275
	9	297	136	161
	10	192	90	102
合計		19,664	9,820	9,844
混血犬 (体重10kg未満)	合計	19,664	9,820	9,844
	0	4,895	2,429	2,466
	1	3,424	1,665	1,759
	2	3,054	1,524	1,530
	3	2,506	1,267	1,239
	4	1,430	733	697
	5	1,381	733	648
	6	1,059	524	535
	7	857	425	432
	8	569	294	275
	9	297	136	161
	10	192	90	102
合計		19,664	9,820	9,844



参考資料 2

アニコム「どうぶつ健保」の契約頭数

(犬、品種別、年齢別、1年契約の契約満了および死亡解約の契約頭数の合計)

品 種	年 齢	総 計	男 の 子	女 の 子
ゴールデン・レトリバー	0	942	488	454
	1	786	393	393
	2	660	358	302
	3	693	360	333
	4	432	222	210
	5	471	241	230
	6	468	261	207
	7	406	196	210
	8	407	199	208
	9	390	170	220
	10	312	144	168
合 計		5,967	3,032	2,935
ゴールデン・レトリバー (0～10歳) 合計	0	525	257	268
	1	565	289	276
	2	614	296	318
	3	739	349	390
	4	514	260	254
	5	667	320	347
	6	690	358	332
	7	640	307	333
	8	556	284	272
	9	383	204	179
	10	237	114	123
合 計		6,130	3,038	3,092
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	0	1,005	563	442
	1	831	432	399
	2	767	404	363
	3	709	379	330
	4	485	252	233
	5	548	278	270
	6	468	250	218
	7	440	257	183
	8	377	220	157
	9	273	157	116
	10	185	90	95
合 計		6,088	3,282	2,806
マルチーズ	0	587	332	255
	1	546	290	256
	2	589	316	273
	3	593	316	277
	4	454	230	224
	5	543	291	252
	6	514	299	215
	7	345	180	165
	8	282	164	118
	9	190	112	78
	10	95	49	46
合 計		4,738	2,579	2,159
パグ	0	587	332	255
	1	546	290	256
	2	589	316	273
	3	593	316	277
	4	454	230	224
	5	543	291	252
	6	514	299	215
	7	345	180	165
	8	282	164	118
	9	190	112	78
	10	95	49	46
合 計		4,738	2,579	2,159
ヨークシャー・テリア	0	1,920	994	926
	1	1,581	837	744
	2	1,473	756	717
	3	1,424	791	633
	4	990	534	456
	5	1,180	633	547
	6	1,140	613	527
	7	954	506	448
	8	827	459	368
	9	634	370	264
	10	386	208	178
合 計		12,509	6,701	5,808
ポメラニアン	0	2,529	1,336	1,193
	1	1,960	1,037	923
	2	1,619	847	772
	3	1,524	788	736
	4	964	515	449
	5	1,077	574	503
	6	817	437	380
	7	678	388	290
	8	539	327	212
	9	386	210	176
	10	221	130	91
合 計		12,314	6,589	5,725
ミニチュア・シュナウザー	0	1,241	643	598
	1	1,174	614	560
	2	1,035	522	513
	3	1,115	591	524
	4	772	369	403
	5	1,001	491	510
	6	1,038	520	518
	7	923	449	474
	8	751	399	352
	9	520	289	231
	10	290	154	136
合 計		9,860	5,041	4,819
ミニチュア・シュナウザー (0～10歳) 合計	0	1,241	643	598
	1	1,174	614	560
	2	1,035	522	513
	3	1,115	591	524
	4	772	369	403
	5	1,001	491	510
	6	1,038	520	518
	7	923	449	474
	8	751	399	352
	9	520	289	231
	10	290	154	136
合 計		9,860	5,041	4,819

疾患（大分類単位）別罹患率

（どうぶつ種別）

どうぶつ種	契約頭数	1.循環器疾患 患（%）	2.呼吸器疾患 患（%）	3.消化器疾患 患（%）	4.肝・胆・膵 疾患（%）	5.泌尿器疾患 患（%）	6.生殖器疾患 患（%）	7.神経疾患 患（%）	8.眼の疾患 患（%）	9.耳の疾患 患（%）	10.歯・口腔 疾患（%）	11.筋骨格系 疾患（%）	12.皮膚疾患 患（%）	13.血液・免疫 疾患（%）	14.内分泌疾患 患（%）	15.感染症 患（%）	16.寄生虫症 患（%）	17.損傷（%）	18.腫瘍疾患 患（%）	19.症状（%）
犬（0～12歳、男の子の平均）	201,287	5.7	3.6	17.5	5.7	6.1	1.6	3.6	11.7	19.0	5.2	10.4	26.0	0.8	2.3	0.9	1.3	4.3	6.0	21.8
犬（0～12歳、女の子の平均）	182,650	4.9	3.5	17.1	6.1	8.4	2.7	3.1	11.7	17.9	5.3	9.5	25.4	1.0	2.4	0.8	1.1	4.1	8.0	22.0
犬（0～12歳、全体の平均）	383,937	5.3	3.6	17.3	5.9	7.3	2.2	3.4	11.7	18.4	5.2	10.0	25.7	0.9	2.3	0.9	1.2	4.2	7.0	21.9
猫（0～12歳、男の子の平均）	25,339	2.6	4.3	12.2	3.1	14.7	0.1	0.7	6.3	4.1	3.7	1.4	8.8	0.7	1.8	1.4	0.9	3.4	2.2	16.1
猫（0～12歳、女の子の平均）	21,509	1.9	3.7	11.1	2.2	12.4	0.6	0.5	6.5	3.6	2.8	1.5	9.4	0.6	1.3	1.3	1.0	2.6	2.1	14.5
猫（0～12歳、全体の平均）	46,848	2.2	4.0	11.7	2.6	13.6	0.3	0.6	6.4	3.9	3.3	1.4	9.1	0.6	1.5	1.4	1.0	3.0	2.2	15.3
犬 全体	対象数(頭)	1.循環器疾患 患（%）	2.呼吸器疾患 患（%）	3.消化器疾患 患（%）	4.肝・胆・膵 疾患（%）	5.泌尿器疾患 患（%）	6.生殖器疾患 患（%）	7.神経疾患 患（%）	8.眼の疾患 患（%）	9.耳の疾患 患（%）	10.歯・口腔 疾患（%）	11.筋骨格系 疾患（%）	12.皮膚疾患 患（%）	13.血液・免疫 疾患（%）	14.内分泌疾患 患（%）	15.感染症 患（%）	16.寄生虫症 患（%）	17.損傷（%）	18.腫瘍疾患 患（%）	19.症状（%）
0歳	59,451	0.4	4.9	25.4	2.1	3.1	1.9	0.8	9.6	20.3	2.3	10.0	21.1	0.4	0.1	2.1	4.1	6.8	1.1	25.8
1歳	50,217	0.4	2.2	20.5	2.3	3.6	1.2	1.2	8.9	17.9	1.6	7.0	23.3	0.3	0.2	0.7	1.3	5.0	1.5	19.9
2歳	45,344	0.5	1.9	16.8	2.4	3.9	1.2	1.5	8.3	16.8	1.8	5.9	23.1	0.3	0.4	0.6	1.0	4.1	1.7	17.1
3歳	42,977	0.6	1.6	14.9	2.5	4.3	1.2	2.1	8.0	17.1	2.3	6.3	23.3	0.4	0.5	0.7	0.8	3.7	2.1	16.3
4歳	29,295	0.9	2.0	14.3	3.1	5.1	1.6	2.7	8.9	18.3	3.5	7.6	25.1	0.5	0.7	0.7	0.8	4.0	3.0	18.0
5歳	33,817	1.4	2.0	14.3	3.6	5.8	1.9	3.1	9.1	18.3	3.8	8.5	25.9	0.5	1.0	0.7	0.7	3.8	3.7	18.5
6歳	31,182	2.6	2.4	14.2	4.3	6.5	2.1	3.5	9.6	18.0	5.1	9.4	25.9	0.7	1.4	0.6	0.7	3.9	5.2	19.5
7歳	27,961	4.0	2.7	14.6	5.4	7.0	2.5	3.6	11.1	18.1	5.7	10.1	26.3	0.9	2.0	0.7	0.8	3.8	6.8	20.2
8歳	24,187	5.9	3.1	15.3	6.0	8.1	2.8	3.8	12.2	18.5	6.5	10.9	27.1	1.0	2.7	0.8	0.8	3.6	8.7	21.9
9歳	17,483	8.5	4.1	16.0	8.3	9.3	3.1	4.6	13.6	18.6	7.9	12.6	27.7	1.3	3.5	0.8	0.9	3.8	10.7	23.8
10歳	11,088	11.1	5.0	18.3	9.9	10.7	3.2	4.7	16.0	18.7	8.9	13.5	27.9	1.6	4.6	1.0	0.9	4.0	13.9	26.1
11歳	6,756	14.3	6.4	18.8	12.7	12.5	2.8	5.1	17.8	19.7	8.9	13.4	29.4	1.6	6.5	0.8	1.3	4.0	15.8	27.9
12歳	4,179	18.1	8.0	20.9	13.7	14.6	3.0	7.0	18.8	19.2	9.7	14.4	28.2	2.2	6.8	1.0	1.0	4.2	16.8	29.7
合計	383,937																			

猫 全体	対象数(頭)	1.循環器疾患 患（%）	2.呼吸器疾患 患（%）	3.消化器疾患 患（%）	4.肝・胆・膵 疾患（%）	5.泌尿器疾患 患（%）	6.生殖器疾患 患（%）	7.神経疾患 患（%）	8.眼の疾患 患（%）	9.耳の疾患 患（%）	10.歯・口腔 疾患（%）	11.筋骨格系 疾患（%）	12.皮膚疾患 患（%）	13.血液・免疫 疾患（%）	14.内分泌疾患 患（%）	15.感染症 患（%）	16.寄生虫症 患（%）	17.損傷（%）	18.腫瘍疾患 患（%）	19.症状（%）
0歳	9,757	1.3	7.5	18.7	1.9	6.4	0.6	0.5	12.4	9.6	1.7	2.4	10.8	0.8	0.1	4.7	4.9	4.6	0.6	23.0
1歳	7,200	1.3	3.6	12.7	1.4	9.5	0.3	0.4	8.0	5.3	1.4	1.6	9.4	0.3	0.2	1.5	1.0	3.3	0.6	14.9
2歳	5,534	1.3	3.0	10.2	1.4	9.6	0.3	0.5	6.4	3.9	1.5	1.4	8.5	0.6	0.3	1.2	0.8	2.9	0.6	13.2
3歳	4,438	1.5	2.7	9.1	1.3	10.8	0.2	0.5	6.3	3.6	2.1	1.2	8.8	0.4	0.3	1.3	0.5	3.9	0.6	11.9
4歳	2,846	1.6	2.8	9.4	1.8	12.0	0.3	0.4	7.0	3.4	3.2	0.9	8.2	0.3	0.2	0.9	1.0	3.0	0.9	12.0
5歳	3,132	2.2	2.8	8.9	1.8	11.6	0.3	0.4	5.7	3.5	3.2	1.4	8.4	0.6	0.4	0.9	0.6	2.7	1.3	12.3
6歳	2,872	2.5	3.2	9.9	1.9	13.9	0.2	0.5	5.7	3.3	3.8	0.8	8.6	0.6	0.8	0.9	0.8	2.0	1.2	13.2
7歳	2,641	2.3	3.2	10.2	2.6	13.8	0.4	0.6	5.5	3.2	2.7	1.1	9.1	0.5	1.1	0.8	0.4	2.3	1.7	12.7
8歳	2,450	2.7	4.0	10.2	3.2	15.8	0.4	0.3	5.2	3.6	3.8	1.6	8.7	0.4	1.5	0.7	0.6	3.4	2.1	13.7
9歳	2,076	2.7	4.0	10.8	3.6	14.8	0.3	0.8	5.0	2.8	3.8	1.1	9.4	0.7	2.1	1.1	0.6	3.0	3.1	16.6
10歳	1,756	2.5	4.8	11.6	3.9	15.3	0.5	0.9	4.8	2.5	4.7	1.7	8.5	0.5	2.0	0.8	0.5	2.4	4.0	15.9
11歳	1,296	3.5	5.1	13.9	4.9	19.6	0.3	0.8	5.3	3.4	5.4	1.8	11.5	1.1	3.9	1.3	0.5	2.5	5.1	18.6
12歳	850	3.8	5.3	15.9	4.6	23.3	0.0	1.3	5.5	2.6	4.9	1.8	8.6	1.2	6.7	1.6	0.2	2.7	6.6	20.8
合計	46,848																			

犬 男の子	対象数(頭)	1.循環器疾患 患（%）	2.呼吸器疾患 患（%）	3.消化器疾患 患（%）	4.肝・胆・膵 疾患（%）	5.泌尿器疾患 患（%）	6.生殖器疾患 患（%）	7.神経疾患 患（%）	8.眼の疾患 患（%）	9.耳の疾患 患（%）	10.歯・口腔 疾患（%）	11.筋骨格系 疾患（%）	12.皮膚疾患 患（%）	13.血液・免疫 疾患（%）	14.内分泌疾患 患（%）	15.感染症 患（%）	16.寄生虫症 患（%）	17.損傷（%）	18.腫瘍疾患 患（%）	19.症状（%）
0歳	30,968	0.4	4.9	25.6	2.1	2.1	1.2	0.8	9.7	20.3	2.2	9.4	20.9	0.4	0.1	2.0	4.1	7.0	1.1	25.0
1歳	26,002	0.4	2.3	20.6	2.3	2.8	0.9	1.1	9.2	18.6	1.7	7.0	24.0	0.3	0.2	0.8	1.4	5.4	1.4	19.6
2歳	23,505	0.5	2.0	16.9	2.3	2.8	0.9	1.6	8.4	17.5	1.8	5.8	23.7	0.3	0.4	0.6	1.1	4.3	1.6	16.7
3歳	22,636	0.5	1.5	14.7	2.4	3.1	0.8	2.2	7.9	17.8	2.2	6.3	23.5	0.3	0.5	0.7	0.9	4.0	1.9	16.0
4歳	15,196	0.9	2.0	14.6	3.0	4.0	1.2	2.9	8.9	19.4	3.4	7.9	25.5	0.5	0.8	0.8	0.9	3.9	2.7	17.9
5歳	17,658	1.5	2.0	14.5	3.6	4.4	1.2	3.4	9.1	18.7	3.6	8.7	26.1	0.5	0.9	0.7	0.8	4.0	3.3	18.4
6歳	16,346	2.9	2.5	14.1	4.3	5.6	1.4	3.7	9.7	18.8	4.8	9.9	26.3	0.7	1.3	0.6	0.7	3.8	4.7	19.7
7歳	14,755	4.4	2.9	15.2	5.3	6.3	1.6	4.0	11.2	19.0	5.5	10.6	27.3	0.8	2.0	0.7	0.8	3.9	6.1	20.8
8歳	13,036	6.8	3.3	15.6	6.0	6.9	2.0	4.4	12.0	18.9	6.3	11.7	27.2	0.9	3.0	0.8	0.9	3.7	7.1	21.5
9歳	9,505	9.7	4.4	16.4	8.1	8.4	2.2	5.0	13.5	19.5	7.8	13.7	28.0	1.1	3.4	0.7	0.9	4.0	8.7	23.3
10歳	5,908	11.8	5.1	19.4	9.4	9.8	2.5	5.1	16.1	19.3	8.8	14.4	28.0	1.5	4.6	0.9	1.0	3.9	11.2	26.6
11歳	3,616	15.4	6.6	18.6	12.2	10.8	2.5	5.7	17.3	20.2	9.5	14.1	30.0	1.4	6.1	0.9	1.4	3.6	13.0	27.7
12歳	2,156	18.9	7.7	20.7	12.9	12.4	2.6	7.1	18.9	18.7	10.3	15.5	28.0	2.0	6.5	1.2	1.3	4.8	14.7	29.6
合計	201,287																			



犬 女の子	対象数(頭)	1.循環器疾患 患 (%)	2.呼吸器疾患 患 (%)	3.消化器疾患 患 (%)	4.肝・胆・膵 疾患 (%)	5.泌尿器疾患 患 (%)	6.生殖器疾患 患 (%)	7.神経器疾患 患 (%)	8.眼の疾患 患 (%)	9.耳の疾患 患 (%)	10.歯・口腔 疾患 (%)	11.筋骨格系 疾患 (%)	12.皮膚疾患 患 (%)	13.血液・免疫 疾患 (%)	14.内分泌疾 患 (%)	15.感染症 患 (%)	16.寄生病 患 (%)	17.損傷 (%)	18.腫瘍疾患 患 (%)	19.症状 (%)
0歳	28,483	0.5	4.8	25.3	2.1	4.2	2.6	0.9	9.5	20.3	2.4	10.5	21.2	0.4	0.1	2.2	4.2	6.6	1.1	26.6
1歳	24,215	0.4	2.1	20.3	2.3	4.5	1.4	1.2	8.5	17.2	1.6	7.0	22.5	0.3	0.2	0.7	1.1	4.7	1.5	20.3
2歳	21,839	0.5	1.8	16.8	2.5	4.9	1.5	1.4	8.1	16.2	1.8	6.0	22.5	0.4	0.3	0.6	0.9	3.9	1.7	17.4
3歳	20,341	0.7	1.7	15.1	2.6	5.5	1.7	1.9	8.8	16.5	2.4	6.3	23.2	0.4	0.5	0.6	0.8	3.4	2.4	16.7
4歳	14,099	0.9	1.9	14.1	3.2	6.3	2.0	2.4	8.8	17.2	3.6	7.3	24.8	0.5	0.6	0.5	0.8	4.1	3.4	18.2
5歳	16,159	1.3	2.0	14.1	3.7	7.2	2.6	2.8	9.2	17.9	4.0	8.3	25.8	0.6	1.0	0.7	0.7	3.5	4.1	18.5
6歳	14,836	2.4	2.3	14.2	4.4	7.3	2.9	3.2	9.6	17.3	5.4	8.8	25.5	0.7	1.5	0.6	0.7	3.9	5.7	19.4
7歳	13,206	3.7	2.5	14.0	5.4	7.7	3.4	3.2	11.0	17.3	5.9	9.6	25.3	1.1	2.1	0.8	0.8	3.6	7.5	19.6
8歳	11,151	5.0	3.0	15.0	6.1	9.3	3.6	3.3	12.5	18.0	6.6	10.1	27.0	1.0	2.5	0.8	0.8	3.5	10.3	22.3
9歳	7,978	7.2	3.8	15.7	8.5	10.2	4.1	4.1	13.6	17.8	8.1	11.4	27.4	1.4	3.5	0.8	0.8	3.7	12.8	24.2
10歳	5,180	10.3	4.8	17.2	10.3	11.5	3.8	4.3	16.0	18.1	9.1	12.6	27.8	1.7	4.6	1.0	0.8	4.1	16.6	25.7
11歳	3,140	13.2	6.3	18.9	13.2	14.2	3.0	4.6	18.2	19.1	8.4	12.7	28.8	1.9	6.9	0.7	1.1	4.3	18.5	28.1
12歳	2,023	17.3	8.2	21.2	14.4	16.9	3.3	7.0	18.6	19.7	9.1	13.2	28.5	2.3	7.1	0.8	0.8	3.6	18.8	29.8
合計	182,650																			

猫 男の子	対象数(頭)	1.循環器疾患 患 (%)	2.呼吸器疾患 患 (%)	3.消化器疾患 患 (%)	4.肝・胆・膵 疾患 (%)	5.泌尿器疾患 患 (%)	6.生殖器疾患 患 (%)	7.神経器疾患 患 (%)	8.眼の疾患 患 (%)	9.耳の疾患 患 (%)	10.歯・口腔 疾患 (%)	11.筋骨格系 疾患 (%)	12.皮膚疾患 患 (%)	13.血液・免疫 疾患 (%)	14.内分泌疾 患 (%)	15.感染症 患 (%)	16.寄生病 患 (%)	17.損傷 (%)	18.腫瘍疾患 患 (%)	19.症状 (%)
0歳	5,224	1.6	7.9	19.0	1.8	7.3	0.1	0.5	12.5	10.0	1.7	2.6	11.1	0.7	0.1	5.0	4.8	4.9	0.6	23.4
1歳	3,889	1.6	4.0	13.6	1.3	11.8	0.1	0.6	7.5	5.1	1.4	1.5	9.3	0.3	0.3	1.5	1.0	3.4	0.6	15.5
2歳	3,081	1.4	3.3	11.0	1.5	11.3	0.1	0.5	6.6	3.8	1.8	1.5	8.6	0.8	0.3	0.9	0.9	3.4	0.5	13.9
3歳	2,389	1.7	3.0	9.5	1.3	11.8	0.0	0.5	6.3	4.2	2.3	1.2	8.2	0.6	0.3	1.3	0.5	4.2	0.7	13.8
4歳	1,514	2.3	3.3	10.1	2.0	13.4	0.2	0.7	6.8	3.7	3.7	1.2	9.0	0.3	0.4	1.1	1.1	3.2	1.0	13.1
5歳	1,753	2.4	2.6	9.4	2.3	12.7	0.1	0.6	5.7	4.3	3.8	1.5	8.7	0.8	0.6	1.2	0.7	3.5	1.4	13.3
6歳	1,542	2.9	3.6	9.6	2.2	14.7	0.0	0.4	5.0	3.3	4.0	0.5	7.7	0.6	0.9	1.0	0.5	2.5	1.1	12.8
7歳	1,472	3.2	3.6	10.6	3.1	15.6	0.1	0.8	5.7	3.8	3.0	1.1	8.8	0.5	1.2	0.7	0.4	3.0	1.6	14.3
8歳	1,324	3.2	4.2	10.8	3.5	16.7	0.1	0.6	5.1	4.3	4.2	1.5	8.1	0.4	1.6	0.6	0.4	3.2	2.1	13.7
9歳	1,101	3.2	4.2	12.8	4.8	16.2	0.1	1.0	5.4	3.6	5.0	0.9	9.4	0.6	2.6	1.0	0.7	3.4	3.2	17.2
10歳	929	2.9	5.3	12.3	4.8	16.1	0.3	1.1	4.4	2.3	5.4	1.4	8.7	0.8	2.4	1.1	0.1	2.3	4.0	17.9
11歳	693	4.2	4.9	12.8	5.9	18.9	0.0	0.7	5.5	3.0	6.8	1.7	9.2	0.9	4.8	1.2	0.6	2.9	5.6	19.2
12歳	428	3.7	6.1	17.1	5.4	24.8	0.0	0.9	4.9	2.3	5.4	1.9	7.7	1.4	7.7	1.9	0.2	3.7	6.8	21.7
合計	25,339																			

猫 女の子	対象数(頭)	1.循環器疾患 患 (%)	2.呼吸器疾患 患 (%)	3.消化器疾患 患 (%)	4.肝・胆・膵 疾患 (%)	5.泌尿器疾患 患 (%)	6.生殖器疾患 患 (%)	7.神経器疾患 患 (%)	8.眼の疾患 患 (%)	9.耳の疾患 患 (%)	10.歯・口腔 疾患 (%)	11.筋骨格系 疾患 (%)	12.皮膚疾患 患 (%)	13.血液・免疫 疾患 (%)	14.内分泌疾 患 (%)	15.感染症 患 (%)	16.寄生病 患 (%)	17.損傷 (%)	18.腫瘍疾患 患 (%)	19.症状 (%)
0歳	4,533	0.9	7.0	18.3	2.0	5.6	1.0	0.4	12.3	9.1	1.8	2.2	10.5	0.8	0.1	4.3	5.0	4.2	0.7	22.7
1歳	3,311	1.0	3.3	11.8	1.5	7.2	0.6	0.2	8.5	5.6	1.3	1.8	9.5	0.4	0.2	1.5	1.1	3.1	0.5	14.3
2歳	2,453	1.2	2.8	9.5	1.3	8.0	0.4	0.4	6.3	4.1	1.3	1.3	8.4	0.3	0.4	1.4	0.7	2.3	0.7	12.5
3歳	2,049	1.3	2.4	8.8	1.2	9.8	0.4	0.5	6.2	3.0	2.0	1.2	9.4	0.2	0.4	1.4	0.6	3.6	0.5	9.9
4歳	1,332	1.0	2.3	8.8	1.6	10.6	0.4	0.2	7.3	3.0	2.8	0.6	7.4	0.3	0.1	0.7	0.8	2.8	0.8	11.0
5歳	1,379	2.0	3.0	8.4	1.2	10.5	0.6	0.2	5.7	2.6	2.5	1.2	8.1	0.4	0.2	0.5	0.5	1.8	1.1	11.3
6歳	1,330	2.2	2.9	10.2	1.5	13.0	0.4	0.7	6.4	3.2	3.5	1.1	9.6	0.6	0.7	0.8	1.1	1.5	1.3	13.7
7歳	1,169	1.5	2.7	9.8	2.1	11.9	0.8	0.3	5.4	2.7	2.4	1.2	9.3	0.5	1.1	0.9	0.3	1.6	1.9	11.1
8歳	1,126	2.1	3.9	9.7	2.9	14.9	0.8	0.1	5.3	2.8	3.5	1.6	9.2	0.4	1.4	0.8	0.9	3.6	2.1	13.7
9歳	975	2.3	3.9	8.8	2.5	13.3	0.5	0.6	4.7	1.9	2.7	1.3	9.4	0.8	1.6	1.2	0.4	2.7	3.1	16.0
10歳	827	2.2	4.4	10.9	2.9	14.5	0.6	0.7	5.2	2.7	4.0	1.9	8.2	0.2	1.6	0.5	0.8	2.5	4.1	13.9
11歳	603	2.8	5.3	14.9	3.8	20.2	0.7	0.8	5.1	3.8	4.0	1.8	13.8	1.3	3.0	1.5	0.3	2.2	4.6	18.1
12歳	422	3.8	4.5	14.7	3.8	21.8	0.0	1.7	6.2	2.8	4.5	1.7	9.5	0.9	5.7	1.4	0.2	1.7	6.4	19.9
合計	21,509																			

疾患（大分類単位）別罹患率

（犬、品種別、年齢補正後：0～12歳）

	男の子	対象数(頭)	罹患率																		
			1. 循環器疾患 患者 (%)	2. 呼吸器疾患 患者 (%)	3. 消化器疾患 患者 (%)	4. 肝・胆・膵 疾患 (%)	5. 泌尿器疾患 患者 (%)	6. 生殖器疾患 患者 (%)	7. 神経疾患 患者 (%)	8. 目の疾患 患者 (%)	9. 耳の疾患 患者 (%)	10. 口・口腔 疾患 (%)	11. 筋骨格系 疾患 (%)	12. 皮膚疾患 患者 (%)	13. 血液・免疫 疾患 (%)	14. 内分泌疾患 患者 (%)	15. 感染症 患者 (%)	16. 寄生虫症 患者 (%)	17. 損傷 (%)	18. 腫瘍疾患 患者 (%)	19. 症状 (%)
	トイ・プードル	36,547	5.3	4.3	19.4	6.2	4.7	1.2	3.2	12.6	21.7	7.8	10.2	21.7	0.7	2.6	0.8	0.8	4.3	5.0	21.8
	チワワ	32,705	13.0	4.5	15.2	5.7	5.2	1.2	4.3	9.9	12.2	4.1	8.4	16.4	0.4	1.8	0.7	0.8	3.3	2.3	20.1
	ミニチュア・ダックスフンド	30,173	2.8	2.8	15.7	4.3	4.6	2.1	3.8	8.3	14.6	7.0	11.7	24.4	0.9	1.6	0.7	1.0	3.9	4.8	19.4
	柴	10,353	2.3	1.9	13.9	3.7	4.1	1.0	1.8	8.2	18.1	2.5	6.8	32.3	0.3	2.8	1.0	1.4	3.9	3.9	17.9
	混血犬 (体重10kg未満)	9,937	6.7	2.6	17.8	4.8	6.0	1.6	2.4	10.2	19.3	4.4	9.0	25.5	0.6	1.7	1.1	1.6	4.1	4.9	19.7
	ヨークシャー・テリア	6,951	5.7	4.5	21.3	7.5	8.2	1.3	4.6	15.2	17.6	6.0	10.4	27.3	0.9	2.5	1.1	1.5	4.2	5.6	24.7
	ボメラニアン	6,720	11.8	8.9	16.6	8.4	5.8	1.1	2.9	9.3	11.2	5.5	11.2	20.1	0.6	4.5	0.8	1.0	3.3	3.1	22.9
	ミニチュア・シュナウザー	5,175	6.4	1.6	17.9	9.2	10.6	2.5	4.4	9.9	18.1	6.2	6.9	31.3	1.0	3.8	0.7	1.5	4.4	9.9	22.2
	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	5,005	1.4	2.6	19.3	4.1	9.8	2.8	3.7	8.9	13.0	3.8	12.1	29.2	1.2	1.3	1.1	1.7	5.7	7.5	22.8
	パピヨン	5,240	4.7	3.2	17.4	6.9	8.0	1.3	2.5	10.9	10.1	6.0	12.0	18.7	0.6	1.3	0.7	1.2	4.8	2.4	22.1
	シー・ズー	4,979	10.1	3.9	19.7	7.6	9.8	1.6	1.7	30.8	29.9	2.2	5.1	41.4	1.0	2.4	1.8	2.6	4.4	7.6	22.6
	フレンチ・ブルドッグ	4,612	2.2	4.7	23.4	5.1	9.9	1.6	6.2	22.8	31.8	2.8	11.2	49.2	0.8	2.3	1.4	1.3	7.2	11.5	27.2
	ラブラドル・レトリバー	3,425	2.5	3.6	17.5	4.0	6.4	1.3	3.2	6.8	30.1	2.3	12.7	30.1	1.2	2.3	1.2	1.5	6.5	12.0	23.0
	ゴールデン・レトリバー	3,198	3.4	3.3	18.3	3.6	4.0	1.5	2.6	8.3	34.6	3.1	10.8	37.5	1.5	3.5	1.3	1.6	5.3	14.8	23.8
	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	3,163	27.0	3.9	21.8	5.7	6.2	1.4	4.1	22.0	28.9	4.6	11.2	27.5	1.0	1.7	1.3	1.0	4.4	5.4	24.8
	マルチーズ	3,385	17.1	5.8	15.2	7.7	6.4	1.6	3.4	15.6	28.7	5.4	8.8	25.5	0.8	3.8	0.7	1.4	3.6	3.9	22.0
	バグ	2,633	2.2	8.2	14.2	4.3	10.3	0.9	4.1	25.3	41.5	2.9	11.7	43.0	0.9	2.6	1.4	1.8	4.4	8.8	24.1

対象数(頭)		罹患率																			
		1.循環器疾患 (%)	2.呼吸器疾患 (%)	3.消化器疾患 (%)	4.肝・胆・膵疾患 (%)	5.泌尿器疾患 (%)	6.生殖器疾患 (%)	7.神経疾患 (%)	8.目の疾患 (%)	9.耳の疾患 (%)	10.鼻・口腔疾患 (%)	11.筋骨格系疾患 (%)	12.皮膚疾患 (%)	13.血液・免疫疾患 (%)	14.内分泌疾患 (%)	15.感染症 (%)	16.寄生虫症 (%)	17.損傷 (%)	18.腫瘍疾患 (%)	19.症状 (%)	
女の子	トイ・プードル	32,839	5.9	3.9	19.2	6.8	6.2	2.7	3.4	13.0	19.8	7.2	9.8	22.0	1.0	2.5	0.8	1.1	3.5	6.5	21.9
	チワワ	28,054	10.5	4.7	14.3	6.2	5.1	3.5	4.0	9.8	9.5	4.4	7.5	15.4	0.5	1.6	0.5	0.8	3.1	3.8	20.9
	ミニチュア・ダックスフンド	28,022	2.5	2.7	14.7	4.9	5.8	2.5	2.9	8.3	14.8	7.5	9.9	22.4	1.2	1.5	0.8	0.9	3.7	7.7	19.4
	柴	9,660	2.1	2.0	13.7	4.6	9.9	2.3	1.5	9.0	15.8	2.6	5.6	34.9	0.3	2.8	0.8	1.2	4.0	4.4	18.6
	混血犬 (体重10kg未満)	9,965	5.0	2.6	16.1	5.1	7.0	2.7	2.3	9.5	16.0	4.1	7.4	23.5	0.5	2.2	0.7	1.0	3.9	5.9	20.0
	ヨークシャー・テリア	6,019	4.9	4.9	23.6	7.8	8.9	3.1	3.9	14.3	16.2	6.1	9.6	27.3	0.8	2.2	1.0	0.9	4.4	7.3	26.3
	ボメラニアン	5,833	9.1	9.3	18.8	10.2	6.5	3.0	3.0	9.1	11.7	4.9	11.3	19.2	0.9	3.2	0.8	1.0	3.2	4.1	25.1
	ミニチュア・シュナウザー	4,962	6.3	2.0	17.7	10.4	16.2	3.2	3.1	10.7	17.9	5.8	5.5	29.6	1.2	4.1	0.7	1.3	4.7	9.8	22.9
	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	5,015	1.5	2.4	18.6	5.0	12.9	2.5	2.8	9.7	13.7	4.3	12.3	27.3	1.2	1.9	0.7	1.7	5.5	10.5	24.2
	パピヨン	4,653	5.2	3.1	17.0	8.1	7.9	2.3	2.8	11.8	9.7	5.2	11.2	17.0	0.8	0.7	0.4	0.8	4.3	5.2	21.1
	シー・ズー	4,275	8.0	4.0	20.0	6.9	12.0	2.1	1.7	27.9	28.7	1.9	4.1	42.4	1.1	3.4	2.0	2.1	3.5	8.9	24.9
	フレンチ・ブルドッグ	3,880	2.1	5.7	24.7	4.1	17.3	2.8	3.6	24.0	33.0	4.1	8.9	55.5	0.7	5.7	1.3	1.2	5.4	14.8	26.8
	ラブラドル・レトリバー	3,440	1.9	3.2	17.8	4.8	11.3	2.2	2.6	7.7	30.1	3.8	11.8	28.3	0.8	2.0	1.5	1.5	5.3	13.3	22.4
	ゴールデン・レトリバー	3,120	3.5	3.4	18.3	3.6	12.0	2.8	3.1	9.9	34.3	2.9	9.8	37.0	1.3	5.7	1.9	1.4	6.1	17.9	25.5
	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	3,216	25.9	4.4	22.1	6.8	11.6	2.9	4.6	19.9	26.0	5.0	11.0	29.1	1.1	1.8	0.9	1.1	3.5	6.7	25.7
マルチーズ	2,892	13.2	4.7	15.6	9.0	8.2	3.0	2.6	17.0	27.4	5.4	9.2	25.7	1.6	5.1	0.7	1.4	3.2	6.5	24.4	
バグ	2,209	3.6	8.3	16.2	5.0	20.5	3.6	3.7	24.8	41.1	2.2	8.9	45.3	0.8	2.7	1.7	1.6	4.8	9.8	24.8	

参考資料 4 疾患（大分類単位）別罹患率

（犬、品種別、年齢補正後：0～12歳）

全体	対象数(頭)	罹患率																		
		1.循環器疾患 患 (%)	2.呼吸器疾患 患 (%)	3.消化器疾患 患 (%)	4.肝・胆・膵 疾患 (%)	5.泌尿器疾患 患 (%)	6.生殖器疾患 疾患 (%)	7.神経疾患 疾患 (%)	8.眼の疾患 疾患 (%)	9.耳の疾患 疾患 (%)	10.歯・口腔 疾患 (%)	11.筋骨格系 疾患 (%)	12.皮膚疾患 疾患 (%)	13.血液・免疫 疾患 (%)	14.内分泌疾患 患 (%)	15.感染症 疾患 (%)	16.寄生虫症 疾患 (%)	17.損傷 (%)	18.腫瘍疾患 疾患 (%)	19.症状 (%)
トイ・プードル チワワ	69,386	5.6	4.1	19.3	6.5	5.5	2.0	3.3	12.8	20.8	7.5	10.0	21.8	0.8	2.5	0.8	0.9	3.9	5.7	21.9
	60,759	11.8	4.6	14.8	5.9	5.1	2.3	4.2	9.9	10.8	4.3	7.9	15.9	0.4	1.7	0.6	0.8	3.2	3.1	20.5
ミニチュア・ダックスフンド	58,195	2.6	2.8	15.2	4.6	5.2	2.3	3.3	8.3	14.7	7.2	10.8	23.4	1.1	1.6	0.8	0.9	3.8	6.3	19.4
柴	20,013	2.2	2.0	13.8	4.2	7.0	1.7	1.7	8.6	17.0	2.5	6.2	33.6	0.3	2.8	0.9	1.3	4.0	4.1	18.3
混血犬 (体重10kg未満)	19,902	5.8	2.6	17.0	5.0	6.5	2.1	2.3	9.8	17.7	4.3	8.2	24.5	0.5	1.9	0.9	1.3	4.0	5.4	19.8
ヨークシャー・テリア	12,970	5.3	4.7	22.4	7.7	8.5	2.2	4.2	14.8	16.9	6.0	10.0	27.3	0.8	2.3	1.1	1.2	4.3	6.5	25.5
ボメラニアン	12,553	10.5	9.1	17.7	9.3	6.1	2.0	3.0	9.2	11.5	5.2	11.2	19.7	0.8	3.8	0.8	1.0	3.2	3.6	24.0
ミニチュア・シュナウザー	10,137	6.4	1.8	17.8	9.8	13.4	2.8	3.7	10.3	18.0	6.0	6.2	30.4	1.1	3.9	0.7	1.4	4.5	9.8	22.6
ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	10,020	1.4	2.5	19.0	4.5	11.3	2.7	3.2	9.3	13.3	4.1	12.2	28.3	1.2	1.6	0.9	1.7	5.6	9.0	23.5
パピヨン	9,893	4.9	3.1	17.2	7.5	7.9	1.8	2.7	11.4	9.9	5.6	11.6	17.9	0.7	1.0	0.6	1.0	4.5	3.8	21.6
シー・ズー	9,254	9.1	4.0	19.9	7.2	10.9	1.9	1.7	29.4	29.3	2.1	4.6	41.9	1.0	2.9	1.9	2.4	4.0	8.2	23.8
フレンチ・ブルドッグ	8,492	2.1	5.2	24.0	4.6	13.6	2.2	4.9	23.4	32.4	3.5	10.1	52.4	0.7	4.0	1.3	1.2	6.3	13.1	27.0
ラブラドル・レトリバー	6,865	2.2	3.4	17.6	4.4	8.9	1.7	2.9	7.2	30.1	3.0	12.3	29.2	1.0	2.2	1.4	1.5	5.9	12.7	22.7
ゴールデン・レトリバー	6,318	3.5	3.3	18.3	3.6	8.0	2.2	2.8	9.1	34.5	3.0	10.3	37.3	1.4	4.6	1.6	1.5	5.7	16.3	24.6
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	6,379	26.5	4.1	22.0	6.2	8.9	2.1	4.3	20.9	27.5	4.8	11.1	28.3	1.0	1.7	1.1	1.1	4.0	6.1	25.3
マルチーズ	6,277	15.1	5.3	15.4	8.4	7.3	2.3	3.0	16.3	28.0	5.4	9.0	25.6	1.2	4.4	0.7	1.4	3.4	5.2	23.2
パグ	4,842	2.9	8.3	15.2	4.6	15.4	2.2	3.9	25.1	41.3	2.6	10.3	44.2	0.8	2.7	1.5	1.7	4.6	9.3	24.5

犬全体	対象数(頭)	罹患率																		
		1.循環器疾患 (%)	2.呼吸器疾患 (%)	3.消化器疾患 (%)	4.肝・胆・膵疾患 (%)	5.泌尿器疾患 (%)	6.生殖器疾患 (%)	7.神経疾患 (%)	8.眼の疾患 (%)	9.耳の疾患 (%)	10.歯・口腔疾患 (%)	11.筋骨格系疾患 (%)	12.皮膚疾患 (%)	13.血液・免疫疾患 (%)	14.内分泌疾患 (%)	15.感染症 (%)	16.寄生虫症 (%)	17.損傷 (%)	18.腫瘍疾患 (%)	19.症状 (%)
男の子の平均	201,287	5.7	3.6	17.5	5.7	6.1	1.6	3.6	11.7	19.0	5.2	10.4	26.0	0.8	2.3	0.9	1.3	4.3	6.0	21.8
女の子の平均	182,650	4.9	3.5	17.1	6.1	8.4	2.7	3.1	11.7	17.9	5.3	9.5	25.4	1.0	2.4	0.8	1.1	4.1	8.0	22.0
全体の平均	383,937	5.3	3.6	17.3	5.9	7.3	2.2	3.4	11.7	18.4	5.2	10.0	25.7	0.9	2.3	0.9	1.2	4.2	7.0	21.9

「傷病名一覧表」は、アニコム損保での保険金お支払い手続きや疾患統計等を目的として作成し、対応医療機関ペット保険取扱いの契約締結時にお届けしたものを、本書「家庭どうぶつ白書」の統計にも使用しております。

※「傷病名一覧表」については、2013年3月より改訂版 (ver.2.0) をお届けしておりますが、本書においてはそれ以前の保険金請求データをおもに使用しているため、改訂前の一覧表を使用しております。

※「傷病名一覧表」は、20章の大分類から構成されており、それぞれの章は、さらに詳細な小分類（傷病名）によって構成されています。

※傷病名については、巻末記載の文献を参考に、一般化された表現で記載しています。

傷病名一覧表（大分類表）

第 1 章	循環器系の疾患	CARDIOVASCULAR SYSTEM DISORDERS
第 2 章	呼吸器系の疾患	RESPIRATORY SYSTEM DISORDERS
第 3 章	消化器系の疾患	DIGESTIVE SYSTEM DISORDERS
第 4 章	肝・胆道系および膵の疾患	HEPATOBIILIARY and EXOCRINE PANCREATIC DISORDERS
第 5 章	泌尿器の疾患	URINARY TRACT DISORDERS
第 6 章	生殖器系の疾患	REPRODUCTIVE SYSTEM DISORDERS
第 7 章	神経系の疾患	NEUROMUSCULAR DISORDERS
第 8 章	眼および付属器の疾患	OPHTHALMOLOGY
第 9 章	耳の疾患	EAR DISEASES
第 10 章	歯および口腔の疾患	DENTISTRY
第 11 章	筋骨格系の疾患	ORTHOPEDICS
第 12 章	皮膚の疾患	DERMATOLOGY
第 13 章	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	HEMATOLOGY and IMMUNOLOGY
第 14 章	内分泌および代謝疾患	ENDOCRINE DISORDERS
第 15 章	感染症	INFECTIOUS DISEASES
第 16 章	寄生虫症（原虫症含む）	PARASITOSIS
第 17 章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	INJURY
第 18 章	腫瘍疾患	ONCOLOGY
第 19 章	症状および異常検査所見で他に分類されないもの	SYMPTOM and OTHERS, UNKNOWN
第 20 章	健康診断および予防措置	CHECKUP and PREVENTION



傷病名一覧表

章	大分類	項	小分類
1	循環器系の疾患	1	僧帽弁閉鎖不全症・MR
		2	三尖弁閉鎖不全症・TR
		3	弁閉鎖不全症・弁膜症
		4	動脈管開存症・PDA
		5	心房中隔欠損症・ASD
		6	心室中隔欠損症・VSD
		7	右大動脈弓遺残症・PRAA
		8	大動脈狭窄症・AS
		9	肺動脈狭窄症・PS
		10	心筋炎
		11	心筋症
		12	心肥大
		13	心不全
		14	心内膜炎
		15	心タンポナーデ・心嚢水貯留
		16	血栓/塞栓症
		17	不整脈・伝導障害
		18	心停止
		19	その他の先天性心疾患
		20	その他の心疾患
		21	その他の血管の疾患
		22	その他のリンパ管およびリンパ節の疾患
		23	その他の循環器系疾患
2	呼吸器系の疾患	1	鼻炎/副鼻腔炎
		2	咽頭炎/喉頭炎/咽喉頭炎
		3	軟口蓋過長症
		4	扁桃炎
		5	気管炎/気管支炎
		6	気管虚脱
		7	鼻気管炎
		8	気管支拡張症
		9	気管支肺炎
		10	肺炎
		11	肺水腫
		12	肺気腫
		13	胸水（血胸/膿胸/乳び胸含む）
		14	気胸
		15	喘息
		16	短頭種気道症候群
		17	漏斗胸
		18	逆くしゃみ症候群・RSS
		19	感冒・カゼ
		20	その他の呼吸器系疾患
3	消化器系の疾患	1	食道炎
		2	食道狭窄・食道閉塞
		3	食道憩室
		4	巨大食道症・食道拡張症
		5	幽門狭窄・幽門閉塞

章	大分類	項	小分類
3	消化器系の疾患	6	胃炎
		7	胃腸炎
		8	胃潰瘍
		9	胃拡張胃捻転症候群
		10	胃腸障害
		11	腸炎
		12	十二指腸潰瘍
		13	タンパク喪失性腸症
		14	大腸炎
		15	腸重積
		16	腸閉塞
		17	巨大結腸症
		18	直腸憩室
		19	直腸脱および肛門脱
		20	肛門嚢（腺）炎/肛門嚢（腺）破裂
		21	肛門周囲炎/肛門周囲瘻
		22	腹膜炎
		23	便秘
		24	横隔膜ヘルニア
		25	臍ヘルニア
		26	鼠径ヘルニア
		27	腹膜ヘルニア
		28	会陰ヘルニア
		29	消化管内異物
		30	毛球症
		31	そ嚢炎
		32	その他の消化器系疾患
4	肝・胆道および 脾の疾患	1	肝炎
		2	肝リポドーシス・脂肪肝
		3	肝膿瘍
		4	肝硬変・肝繊維症
		5	肝機能不全
		6	肝性脳障害
		7	門脈シャント・門脈体循環シャント・PSS
		8	胆管炎/胆管肝炎
		9	胆石症
		10	胆泥症
		11	脾炎
		12	脾外分泌不全
		13	その他の肝・胆道系疾患
		14	その他の脾臓疾患
5	泌尿器の疾患	1	ネフローゼ症候群（糸球体腎炎/腎アミロイドーシス含む）
		2	腎盂腎炎
		3	腎結石
		4	水腎症
		5	腎不全
		6	膀胱炎
		7	膀胱結石

傷病名一覧表

章	大分類	項	小分類
5	泌尿器の疾患	8	尿道閉塞
		9	尿石症
		10	尿毒症
		11	異所性尿管
		12	膀胱尿管憩室
		13	猫の下部尿路疾患・FUS・FLUTD
		14	その他の泌尿器疾患
6	生殖器系の疾患	1	乳腺炎/乳房炎
		2	乳腺過形成・乳腺肥大
		3	卵巣嚢腫
		4	子宮蓄膿症
		5	子宮内膜炎
		6	子宮水腫
		7	子宮捻転
		8	膣炎
		9	膣脱/子宮脱
		10	早産
		11	流産
		12	難産/異常分娩
		13	帝王切開
		14	胎盤停滞
		15	不正出血
		16	外陰部分泌物・おりもの
		17	発情周期異常
		18	偽妊娠
		19	卵秘・卵づまり
		20	その他の雌性生殖器疾患
		21	潜在精巣
		22	精巣炎
		23	亀頭炎/包皮炎
		24	陰茎の外傷
		25	包茎および嵌頓包茎
		26	前立腺炎/前立腺膿瘍
		27	前立腺嚢胞
		28	前立腺肥大
		29	その他の雄性生殖器疾患
		30	繁殖障害
		31	半陰陽
7	神経系の疾患	1	てんかん
		2	水頭症・脳水腫
		3	髄膜炎/髄膜脳炎/脳炎
		4	脳浮腫
		5	脳損傷
		6	脳疾患
		7	脊髄炎
		8	脊髄軟化症
		9	脊髄疾患（椎間板ヘルニア除く）
		10	馬尾症候群

章	大分類	項	小分類
7	神経系の疾患	11	ホルネル症候群
		12	末梢神経疾患
		13	麻痺
		14	その他の神経系疾患
8	眼および付属器の疾患	1	結膜炎/結膜浮腫
		2	角膜炎
		3	角膜潰瘍/角膜びらん
		4	乾性角結膜炎・KCS
		5	角膜ジストロフィー
		6	ブドウ膜炎（虹彩炎含む）
		7	前眼房出血
		8	白内障
		9	白内障（若年性）
		10	水晶体脱臼
		11	房水フレアー
		12	網膜炎/脈絡網膜炎
		13	網膜変性（網膜萎縮含む）/脈絡網膜変性
		14	網膜剥離
		15	緑内障
		16	瞬膜炎
		17	瞬膜腺の脱出・チェリーアイ・第三眼瞼の脱出
		18	麦粒腫・マイボーム腺炎
		19	霰粒腫・マイボーム腺腫
		20	睫毛の疾患（睫毛乱生・睫毛重生・異所性の睫毛含む）
		21	涙管閉塞
		22	眼瞼炎
		23	眼瞼外反症/眼瞼内反症
		24	目やに
		25	流涙（症状）
		26	失明（詳細不明）
		27	先天性の眼科疾患
		28	その他の眼科疾患
9	耳の疾患	1	外耳炎・外耳道炎
		2	耳血腫
		3	耳介の疾患
		4	中耳炎
		5	内耳炎
		6	前庭疾患
		7	その他の耳科疾患
10	歯および口腔の疾患	1	歯周病（歯肉炎/歯槽膿漏/歯垢/歯石含む）
		2	歯根膿瘍・根尖膿瘍
		3	不正咬合/歯過長症
		4	乳歯遺残
		5	唾液腺疾患（唾液腺炎/粘液嚢胞/がま腫含む）
		6	口内炎/舌炎
		7	口蓋裂
		8	口腔内外傷（歯折等含む）
		9	口唇炎



傷病名一覧表

章	大分類	項	小分類
10	歯および口腔の疾患	10	その他の歯科疾患
		11	その他の口腔内疾患
11	筋骨格系の疾患	1	骨折（前肢）
		2	骨折（後肢）
		3	骨折（骨盤）
		4	骨折（その他）
		5	環軸関節不安定症（環軸脱臼/環軸亜脱臼含む）
		6	骨軟骨症（肘突起癒合不全/離断性骨軟骨症含む）
		7	股関節形成不全
		8	股関節脱臼/股関節亜脱臼
		9	大腿骨頭虚血性壊死・レッグペルテス病
		10	膝蓋骨脱臼/膝蓋骨亜脱臼
		11	十字靭帯損傷/十字靭帯断裂（前/後）
		12	変形性関節症・退行性関節症
		13	肥大型骨関節症（肥大型骨異栄養症/肺性骨異栄養症含む）
		14	関節炎
		15	椎間板ヘルニア
		16	椎間板脊椎炎
		17	変形性脊椎症
		18	軟骨形成不全
		19	筋炎
		20	骨髄炎
		21	汎骨炎
		22	泉門開存症
		23	その他の関節脱臼/その他の関節亜脱臼
		24	その他の関節疾患
		25	その他の骨疾患
		26	その他の筋疾患
		27	その他の筋骨格系疾患
12	皮膚の疾患	1	膿皮症
		2	毛包炎
		3	脂漏症
		4	皮膚炎（アトピー性）
		5	皮膚炎（アレルギー性）
		6	趾間皮膚炎
		7	その他の皮膚炎
		8	皮膚の化膿/皮下膿瘍/蜂窩織炎
		9	脂肪織炎
		10	角化異常
		11	好酸球性肉芽腫症候群
		12	天疱瘡
		13	アケネ・ざ創
		14	蕁麻疹
		15	湿疹
		16	爪の障害
		17	爪周囲炎
		18	肢部皮膚炎（足底潰瘍/飛節びらん含む）
		19	その他の皮膚疾患

章	大分類	項	小分類
13	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	1	貧血（免疫介在性溶血性）・IMHA
		2	その他の貧血
		3	血小板減少症（免疫介在性）・IMTP
		4	その他の血小板減少症
		5	播種性血管内凝固症候群・DIC
		6	全身性紅斑性狼瘡・SLE
		7	リンパ節炎
		8	脾捻転
		9	その他の血液疾患
		10	その他の脾臓疾患
		11	その他の免疫機構の障害
14	内分泌および代謝疾患	1	甲状腺機能亢進症
		2	甲状腺機能低下症
		3	上皮小体機能亢進症
		4	上皮小体機能低下症
		5	副腎皮質機能亢進症・クッシング症候群
		6	副腎皮質機能低下症・アジソン病
		7	糖尿病
		8	エストロゲン過剰症
		9	下垂体機能不全
		10	尿崩症
		11	内分泌疾患による皮膚症状/内分泌疾患による脱毛
		12	その他の内分泌疾患
		13	その他の代謝疾患
15	感染症	1	犬ジステンパー・CDV
		2	犬パルボウイルス・CPV
		3	犬アデノウイルス・CAV
		4	犬ヘルペスウイルス・CHV
		5	犬パラインフルエンザ・CPiV
		6	犬コロナウイルス・CCV
		7	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群
		8	猫汎白血球減少症・FPV
		9	猫伝染性鼻気管炎・FVR
		10	猫カリシウイルス・FCV
		11	猫白血病ウイルス・FeLV
		12	猫免疫不全ウイルス・FIV
		13	猫伝染性腹膜炎・FIP
		14	猫コロナウイルス感染症
		15	アリューション病
		16	レプトスピラ症
		17	パストレラ感染症（スナッフル含む）
		18	クラミジア症
		19	オウム病
		20	ヘモブラズマ症（ヘモバルトネラ症）
		21	クリプトコッカス症
		22	皮膚糸状菌症
		23	マラセチア症
		24	その他の感染症

傷病名一覧表

章	大分類	項	小分類
16	寄生虫症 (原虫症含む)	1	ジアルジア症
		2	トキソプラズマ症
		3	バベシア症
		4	コクシジウム症
		5	回虫症
		6	条虫症
		7	鞭虫症
		8	鉤虫症・十二指腸虫症
		9	糞線虫症
		10	毛細線虫症
		11	犬糸状虫症・フィリリア症
		12	疥癬・ヒゼンダニ症
		13	毛包虫症・ニキビダニ症・アカラス症
		14	耳疥癬症・ミミヒゼンダニ症
		15	ツメダニ症
		16	ノミ寄生/マダニ寄生
		17	シラミ寄生/ハジラミ寄生
		18	その他の寄生虫症
17	損傷、中毒 および その他の外因の 影響	1	アレルギー（ワクチンによる）
		2	アレルギー（詳細不明）
		3	薬疹
		4	虫さされ（ノミ/ダニ除く）
		5	熱中症
		6	熱傷
		7	咬傷
		8	打撲
		9	捻挫
		10	外傷（挫傷/擦過傷含む）
		11	交通事故
		12	事故
		13	タマネギ中毒/ネギ中毒
		14	チョコレート中毒
		15	タバコ中毒
		16	殺鼠剤（血液凝固阻止物質）中毒
		17	イベルメクチン中毒
		18	薬物中毒
		19	その他の中毒性疾患
18	腫瘍疾患	1	乳腺腫瘍/乳腺腫瘤
		2	肥満細胞腫
		3	皮膚腫瘍/皮膚腫瘤
		4	皮下腫瘍/皮下腫瘤
		5	リンパ腫
		6	脂肪腫
		7	組織球腫
		8	黒色細胞腫・メラノーマ
		9	副腎腫瘍
		10	肛門周囲腺腫
		11	血管肉腫

章	大分類	項	小分類
18	腫瘍疾患	12	エプーリス
		13	骨肉腫
		14	脳腫瘍
		15	インスリノーマ
		16	その他の腫瘍性疾患（口唇/口腔/咽頭）
		17	その他の腫瘍性疾患（消化器）
		18	その他の腫瘍性疾患（肝/胆管/膵）
		19	その他の腫瘍性疾患（呼吸器/胸腔内臓器）
		20	その他の腫瘍性疾患（骨/関節軟骨）
		21	その他の腫瘍性疾患（雌性生殖器）
		22	その他の腫瘍性疾患（雄性生殖器）
		23	その他の腫瘍性疾患（泌尿器）
		24	その他の腫瘍性疾患（眼および付属器）
		25	その他の腫瘍性疾患（神経系）
		26	その他の腫瘍性疾患（内分泌）
		27	その他の腫瘍性疾患（リンパ組織/造血組織）
		28	その他の腫瘍性疾患（詳細不明）
		29	腫瘍/腫瘤/MASS/しこり
19	症状および 異常検査所見で 他に分類されな いもの	1	発咳
		2	くしゃみ
		3	呼吸困難
		4	鼻汁（詳細不明）
		5	鼻出血
		6	流涎
		7	嚥下障害
		8	嘔吐
		9	軟便/下痢/血便
		10	嘔吐/下痢
		11	腹痛・疝痛
		12	耳の痒み（詳細不明）
		13	皮膚の痒み（詳細不明）
		14	脱毛（詳細不明）
		15	出血（詳細不明）
		16	疼痛
		17	頻尿
		18	排尿障害
		19	外陰部腫大
		20	斜頸
		21	ふるえ・振戦
		22	痙攣発作
		23	歩行異常/跛行
		24	失神および虚脱
		25	ショック症状（詳細不明）
		26	発熱（詳細不明）
		27	多飲多尿
		28	脱水（詳細不明）
		29	消瘦
		30	肥満



傷病名一覧表

章	大分類	項	小分類
19	症状および異常検査所見で他に分類されないもの	31	食欲不振
		32	元気喪失
		33	体調不良
		34	肝腫大
		35	脾腫（非腫瘍性）
		36	腹水
		37	黄疸（詳細不明）
		38	リンパ節腫大
		39	不整脈（詳細不明）
		40	心雑音
		41	多血症・赤血球増多症
		42	貧血（詳細不明）
		43	白血球増加症
		44	白血球減少症
		45	肝酵素上昇
		46	高血糖
		47	高脂血症
		48	高窒素血症
		49	高カルシウム血症
		50	低血糖
		51	低アルブミン血症
		52	低タンパク血症
		53	低カルシウム血症
		54	血尿/蛋白尿/低比重尿/尿の性状異常
		55	その他の症状
		56	痴呆
		57	分離不安症

章	大分類	項	小分類
20	健康診断および予防措置	1	ワクチン接種（狂犬病除く）
		2	狂犬病ワクチン
		3	フィラリア予防/フィラリア検査
		4	ノミ予防/ダニ予防
		5	避妊手術/去勢手術
		6	歯垢/歯石除去/スケーリング
		7	歯切り/歯削り
		8	乳歯抜歯/抜歯
		9	爪切り/耳そうじ/肛門腺しぼり
		10	トリミング（毛刈り含む）
		11	血液検査
		12	抗体検査/抗原検査
		13	アレルギー検査
		14	糞便検査
		15	尿検査
		16	レントゲン検査
		17	超音波検査・エコー検査
		18	心電図検査
		19	スメア検査
		20	身体検査
		21	相談・しつけ・カウンセリング
		22	その他の予防/医学的処置

参考文献：ICD-10（WHO「世界保健機構」）
：家畜共済事故病類別表（農林水産省）

ご注意

- 「診断的治療」を施した場合は、該当する仮診断の傷病名を選択してください。（傷病名等の詳細が不明な「症状」についてのみ「19. 症状および異常検査所見で他に分類されないもの」に分類してください。）
- 解剖学的に部位の特定ができる「損傷（外傷）」については、当該部位に関する疾患分類に分類しています。（例えば、「骨折」については「11. 筋骨格系の疾患」に分類しています。なお、「熱傷」「打撲」については「17. 損傷、中毒およびその他の外因の影響」に分類しています。）
- 感染による傷病は原則として「15. 感染症」に分類しています。（「皮膚糸状菌症」、「マラセチア症」等。）なお、例外として「膿皮症」「膿瘍（皮膚・皮下）」は「12. 皮膚の疾患」に分類しています。また、「細菌性胃腸炎」は「3. 消化器系の疾患」の「胃腸炎」に含みます。
- 「行動異常」については「19. 症状および異常検査所見で他に分類されないもの」に分類しています。
- 健康体に行った検査・措置等については「20. 健康診断および予防措置」に分類しています。
- 「先天性疾患」の分類はなく、それぞれの病態に基いた疾患分類としています。
- 本冊子には、健康診断および予防措置等、補償の対象とならない項目も記載しています。

あとがきに代えて

～社会全体で考える家庭どうぶつ医療のあり方～

Postscript

カルテの公共化

初めて勤務した動物病院が院長のみで診療を行っていたため、カルテを読むのに苦労した、という経験をお持ちの先生も多いのではないだろうか。院長本人にしかわからないメモのような記載が多く、幾度となく質問をする必要に迫られる。その手間を省略するために、ルールを決めてカルテを書くようになると、互いの症例をカルテから把握できるようになる。さらに、ほかの動物病院に勤務経験のある獣医師が仲間に加って、新たなルールが盛り込まれ、よりわかりやすいカルテを書くようになる。こうした過程を経て個人レベルのカルテは院内レベルのカルテになっていくのである。

どうぶつ保険をより公平に運営するため、動物病院に協力を仰ぎ、契約どうぶつのカルテを確認させていただく機会がある。現在、臨床の現場では多種多様なタイプのカルテが存在している。医療の多様性、個性性によるところが大きいと思われるが、一方で、カルテを診療記録として誰かに提供すること、つまりカルテの公共性を意識することが、いままではほぼなかったことも原因の1つではないだろうか。

マイカルテという概念

もともと、カルテは患者情報であるため、患者に帰属するものであり、医師や動物病院のものではないという考え方がある。それゆえ、ご家族からカルテの開示が求められた場合には、すぐに提供できる環境にしておく必要があるとも言える。現に、アメリカなどの動物病院では即時開示が求められることがあるという。

カルテは患者本人のもの、つまりマイカルテという概念がもっと普及すれば、引越、夜間救急などで生涯において複数の動物病院にかかったとしても、治療歴などの医療情報が共有できる。そこに、日頃の様子な

どもご家族が記載できるようにすれば、平常時だけでなく災害時にもより適切な医療を行うことが可能になるだろう。またマイカルテの普及によって、ご家庭における健康管理への意識が高まるという意味合いも大きい。

しかし、プロである医療者にとってわかりやすく簡潔である文書と、どうぶつのご家族が読んでわかりやすい文書との間には小さくない溝がある。このような課題を乗り越え、実現への道を辿るには、クラウドのようなIT技術が大きな役割を果たすだろう。

ヒポクラティスが目指した医療のあり方

獣医師には、診療をした場合に遅滞なく診療簿を記載することと、それを3年以上保存することが義務付けられている（獣医師法21条）。これらに違反した場合、または虚偽の記載をした場合には罰則がある（同法29条）。医療行為は、診療情報を記録することとともにあると言っても過言ではない。

医学の父ヒポクラティスは、克明にカルテを記していた。それを弟子にも指導しており、2,000年以上の時を経たいまでも、その頃に行われていた医療をなぞることができるという。なぜ、ヒポクラティスがそれほどまでに診療記録を重要視していたのか。それは、知の共有を前提に医療を行っていたからではないかと思う。また知の共有によって、より効果的な医療を行うことができると考えていたからではないだろうか。まさに、「One for all, all for one」。時間も空間も越えて、共有される知。バラバラの状態では認識できなかったことが、まとまることで新たな知を生み出す。カルテが公共化され、IT技術によりさらに共有化を進めることができる現代、ヒポクラティスが生きていたら、きっとワクワクしながら、さらに医学に邁進していることであろう。

ささやかながら、本書がその新たな知の創造につながり、それによってひとつひとつの症例に恩返しできればと心から願う。

アニコム「家庭どうぶつ白書」制作チーム
“White Paper on Household Animals 2014” project team

井上舞 Mai Inoue

兵藤未来 Miki Hyodo

檀華子 Hanako Dan

田中美穂 Miho Tanaka

高野裕史 Hiroshi Takano

垣内仁志 Hitoshi Kakiuchi

三枝萌 Moe Saegusa

庄司絢子 Ayako Shoji

アニコム 家庭どうぶつ白書 ウェブサイトのご案内



アニコム 家庭どうぶつ白書サイトトップページイメージ

● アニコム 家庭どうぶつ白書 WEBサイト

<http://www.anicom-page.com/hakusho/>

- ペット保険の保険金支払データに基づいた疾患統計
- 日本全国の家庭どうぶつを網羅した対象頭数約52万頭（2014年9月時点）にのぼる巨大なデータベース
- その他、ペットに関する調査リリースを掲載
- 冊子「アニコム 家庭どうぶつ白書 2014」もダウンロード可

※ 冊子をご希望の方は、下記までご連絡いただければお送りいたします。

● 問い合わせ先

アニコム損害保険株式会社

経営企画部 アニコム「家庭どうぶつ白書」制作チーム

TEL: 03-5348-3777

メールアドレス: hakusho@ani-com.com

より皆さまのお役にたてるよう尽力してまいります。

ご意見・感想をお寄せ下さい。

アニコム家庭どうぶつ白書2014

2014年11月17日 発行

発行／アニコム損害保険株式会社
〒161-0033
東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル2F
TEL: 03-5348-3777（午前9時～午後6時）

編集／株式会社アニマル・メディア社

デザイン／株式会社ソニックバン

印刷所／株式会社社陵印刷

写真: ©moonbase / amanaimages

©アニコム損害保険株式会社 2014 Printed in Japan
本書の無断複製・転載を禁じます。

アニコム

家庭どうぶつ白書 2014

White Paper on Household Animals 2014

